

519.1-A94ウ

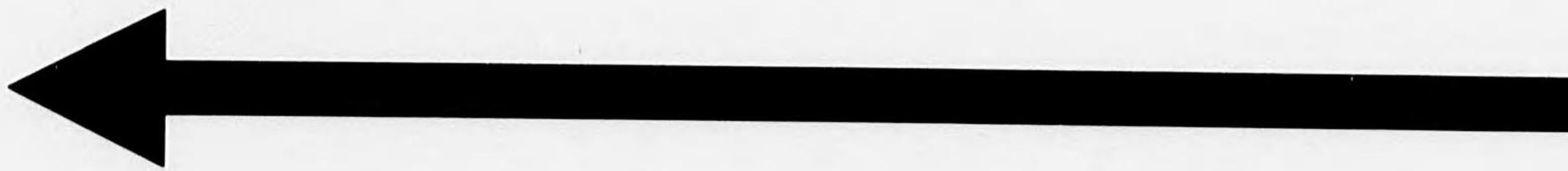


1200500745103

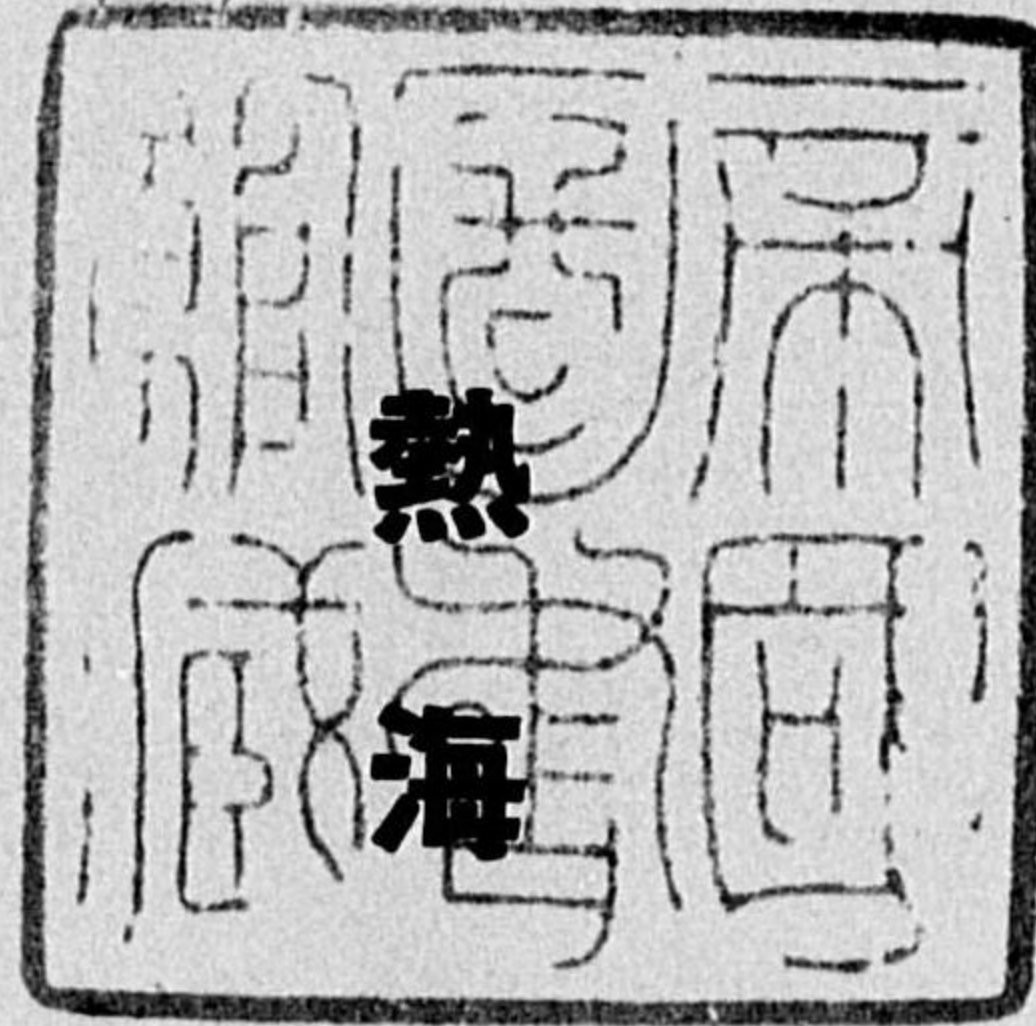
519.1
94

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

始

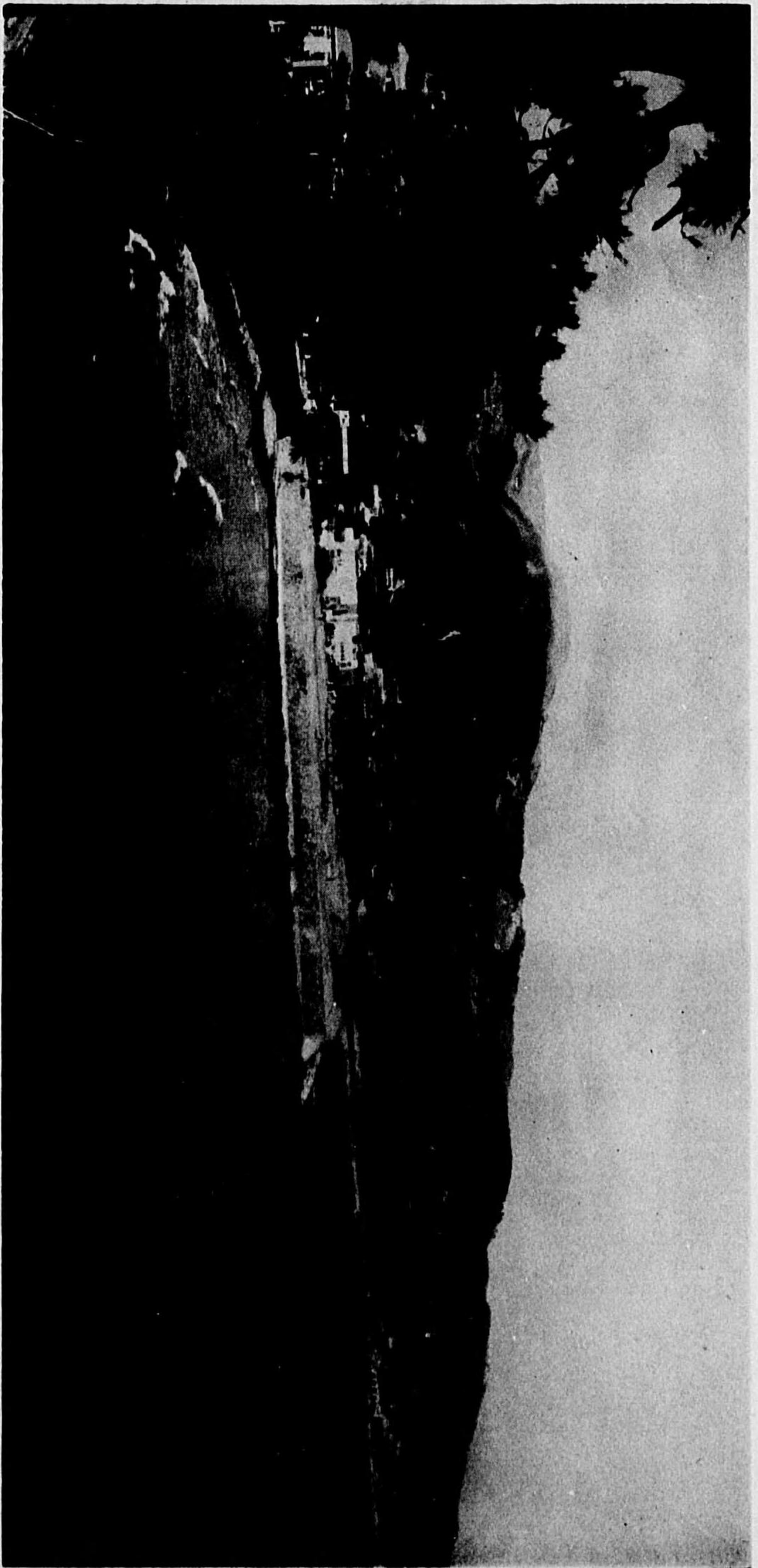


5/9.1
A94

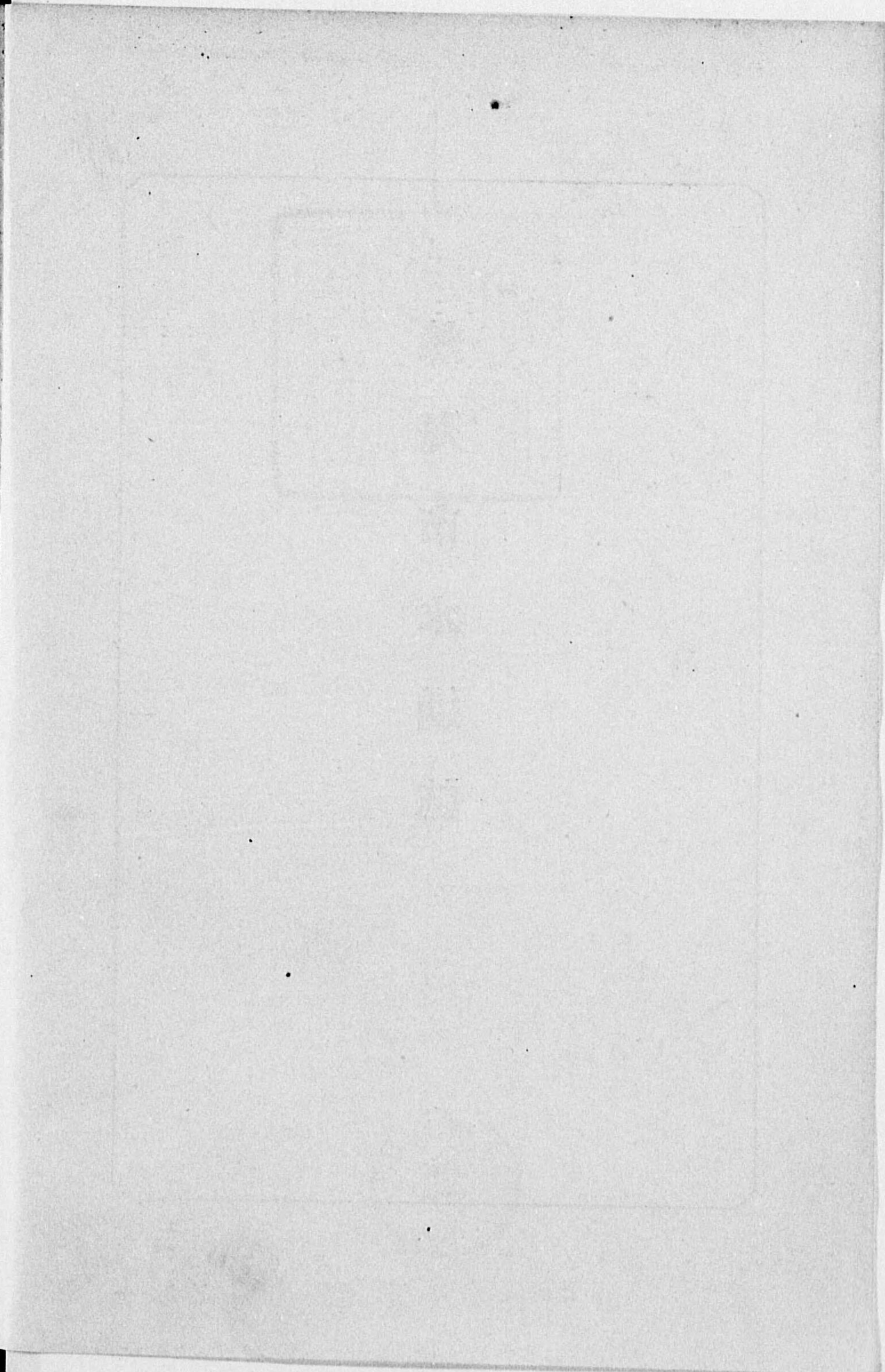


市
水
道
誌



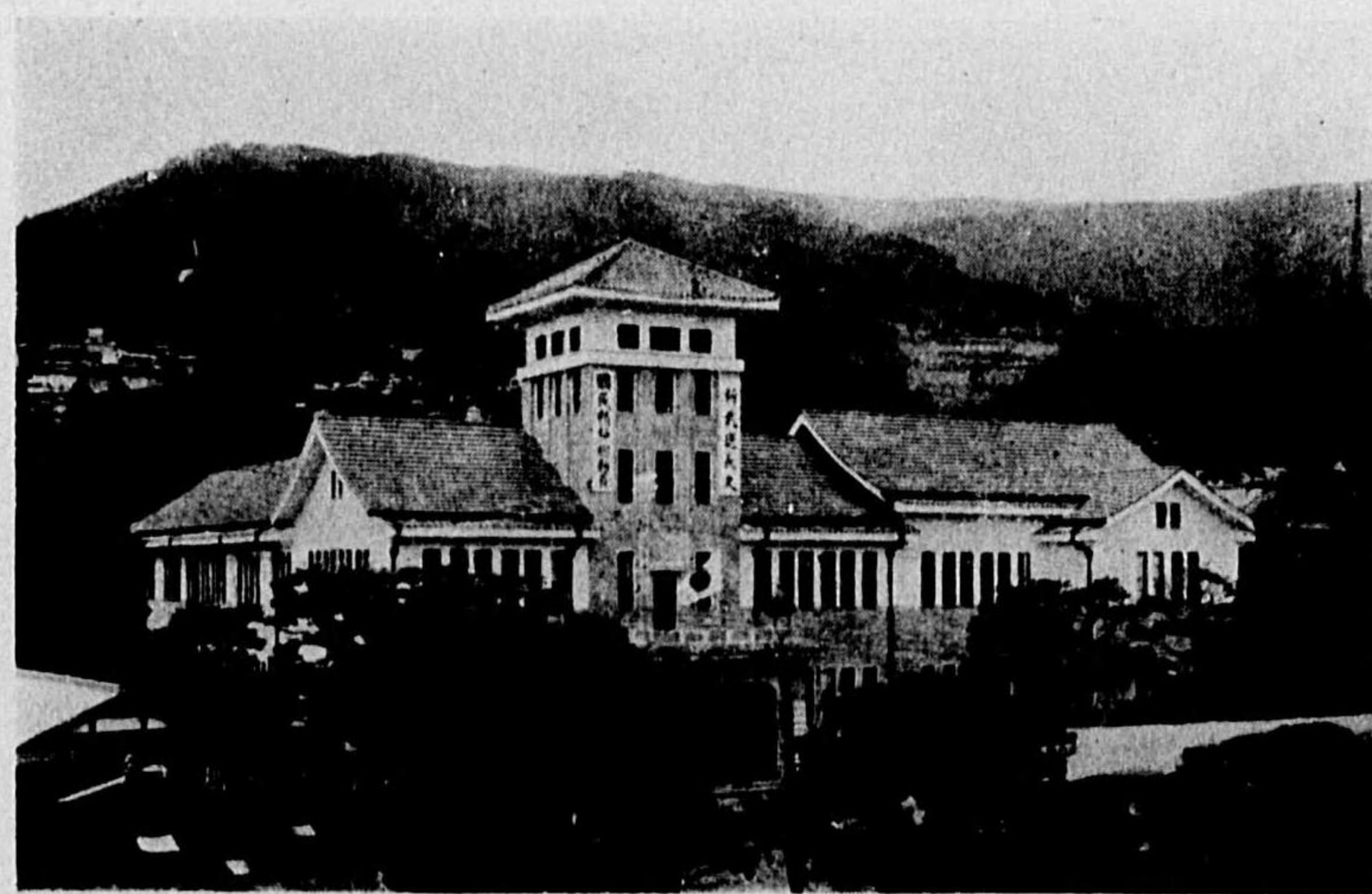


熱海市街全景





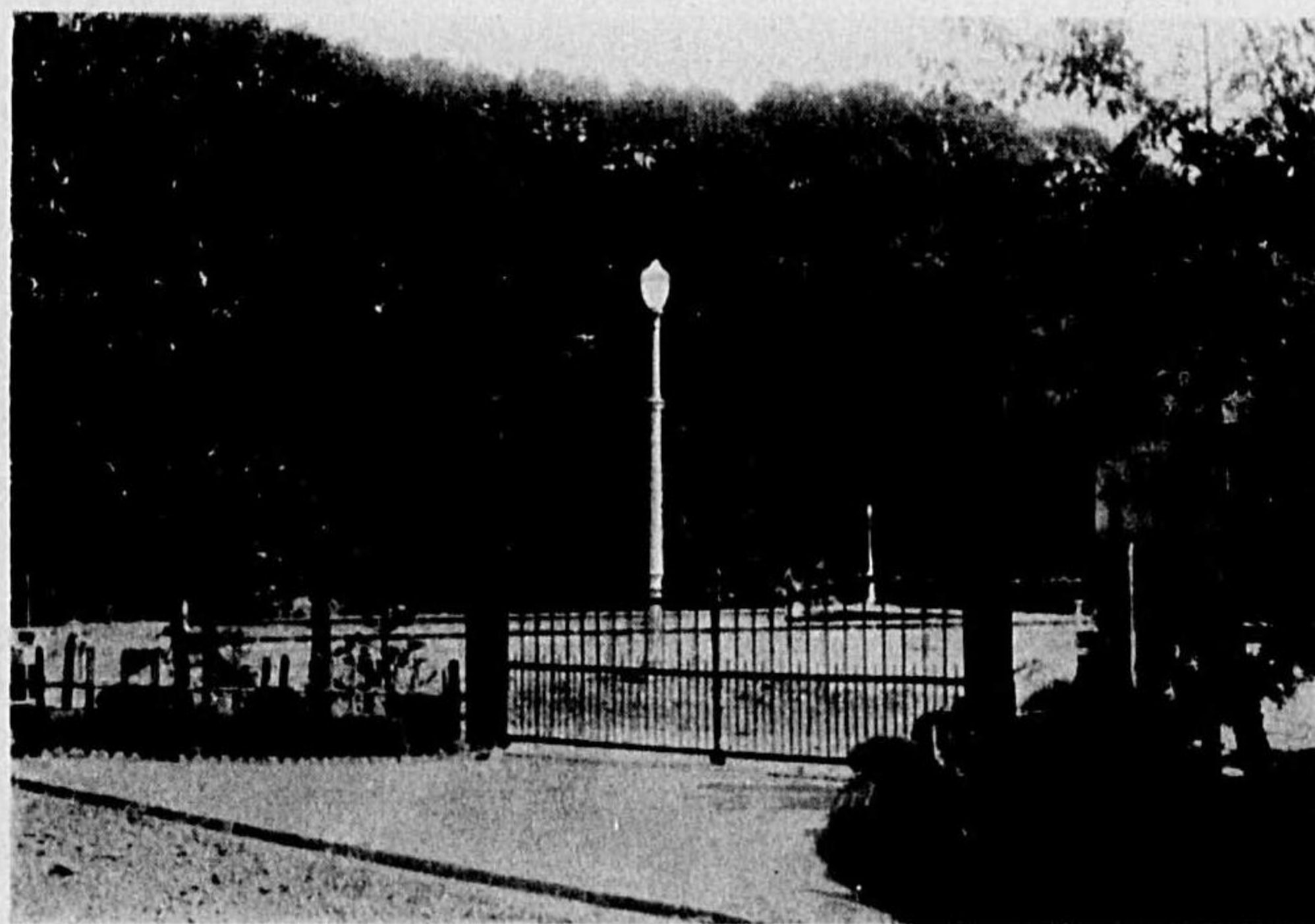
市長 樋口 修次



市廳舍



助 役
山 口 榮 吉



淨 水 場 正 門



收 入 役
青 木 房 雄



市議會員
岩本虎吉



市議會員
岩下義雄



市議會員
西家正平



市議會員
井上幸藏



市議會員
神保彌三郎



市議會員
大塚茂平



員議會市
次 勇 田 内



員議會市
保 義 宗



員議會市
郎 三 田 倉



員議會市
雄 道 田 保 久



員議會市
美 一 田 山



員議會市
郎 次 高 田 山



員議會市
雄文形山



員議會市
助之要田山



員議會市
爾耕見二



員議會市
郎次豐田山



員議會市
次男松小



員議會市
成忠谷古



市議會員
小松規一



市議會員
小松龜太郎



市議會員
澤田壽太郎



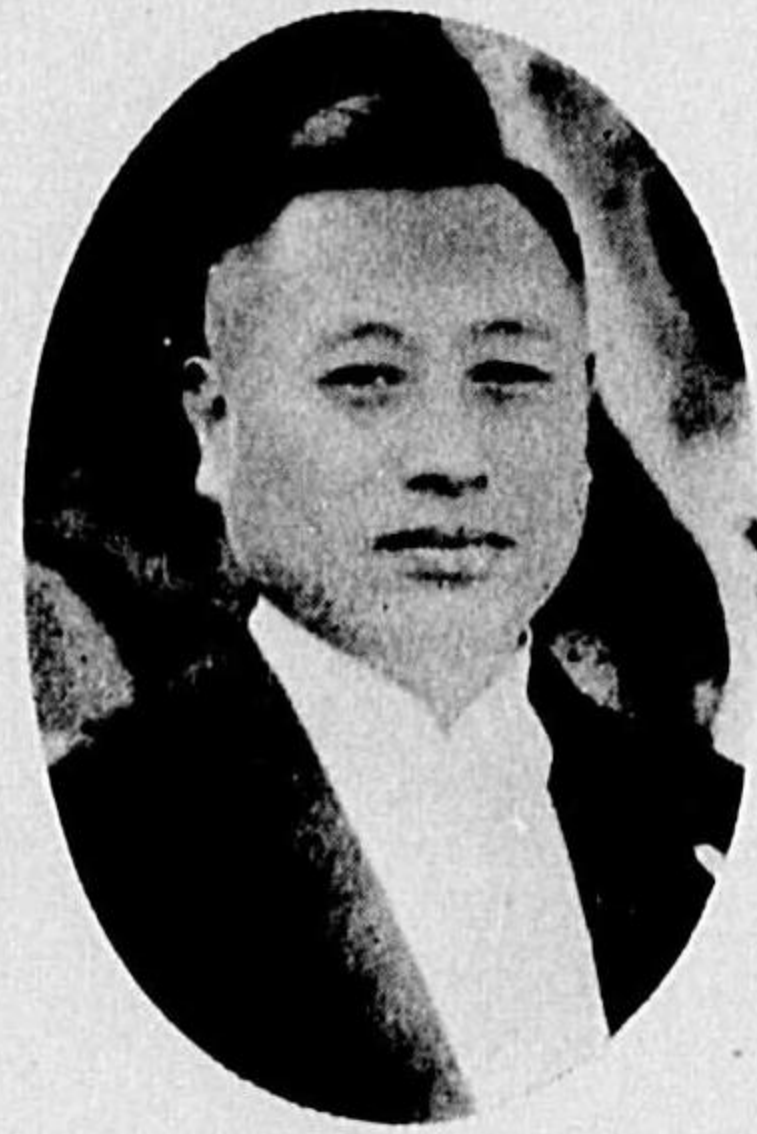
市議會員
青木良平



市議會員
坂本藤八



市議會員
佐藤清武



市議會員
樋口修次



市議會員
水谷良雄



市議會員
室伏新次郎



市議會員
茂木志女吉



市議會員
鈴木淺次郎



市議會員
芹澤弘



岡田 卯之助
囑託技師



中島 銳治
顧問工學博士



前田 長馬
渡邊 楠



前田 長三郎
久寢 平



前田 長次
前田 勝



前田 長太郎
河野 繁



長町前
吉要渡石



長町前
松音原梅



長町前
門衛左郎市田内



長町前
吉平田内



長町前
吉峯崎松



長町前
衛崎岸



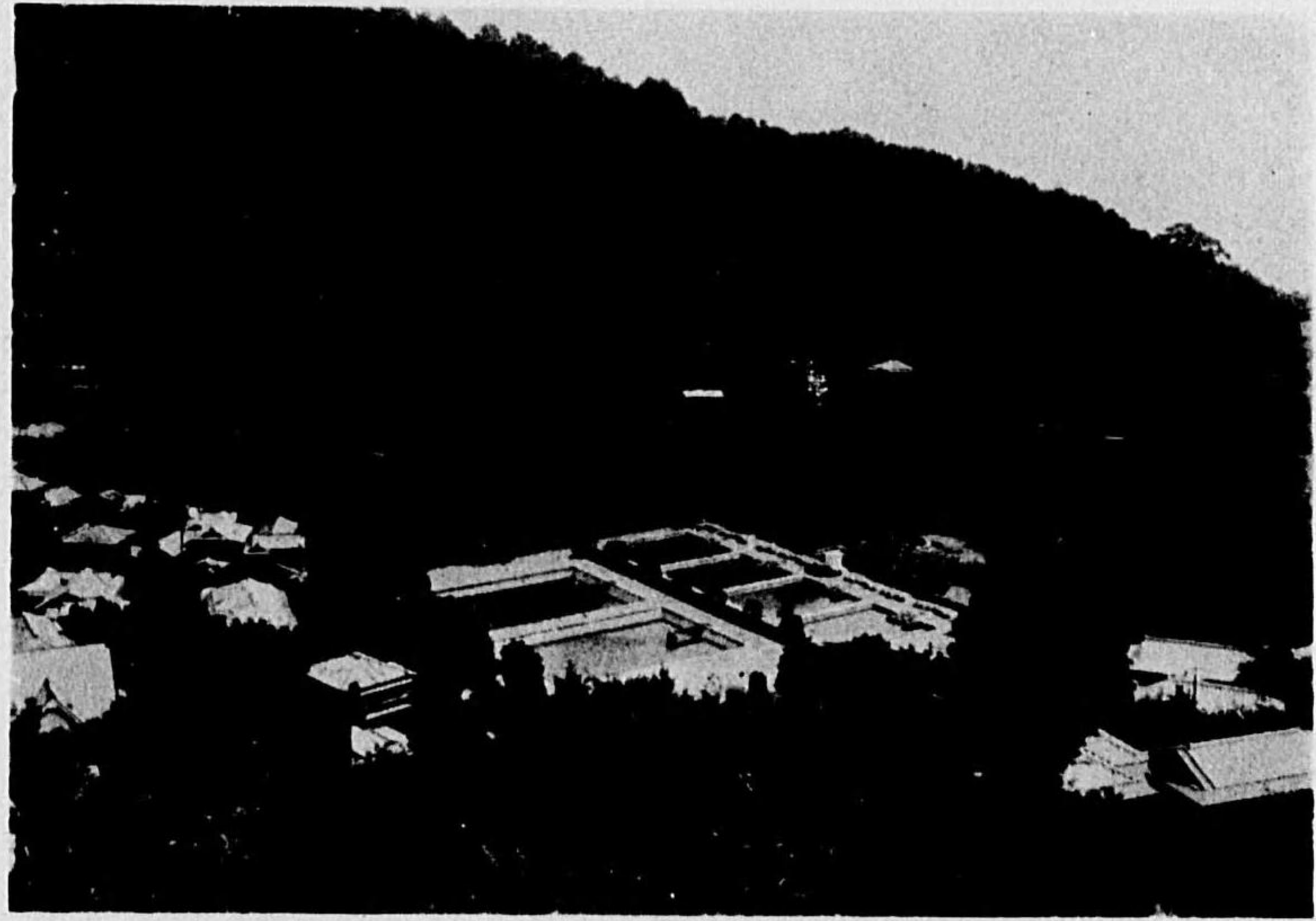
長 町 前
貫 一 地 福



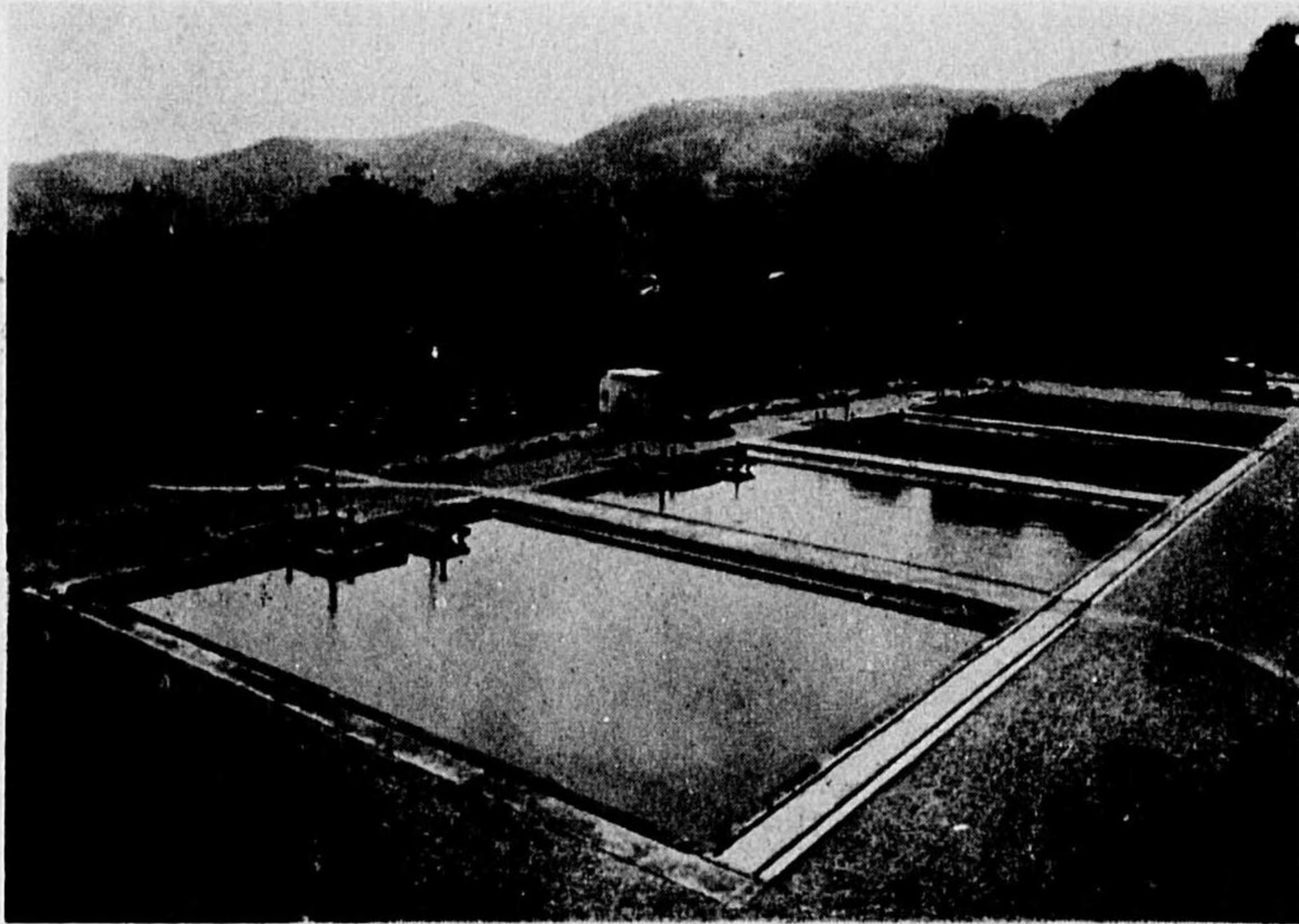
長 町 前
雄 良 谷 水



長 町 前
八 藤 本 坂



淨水場全景



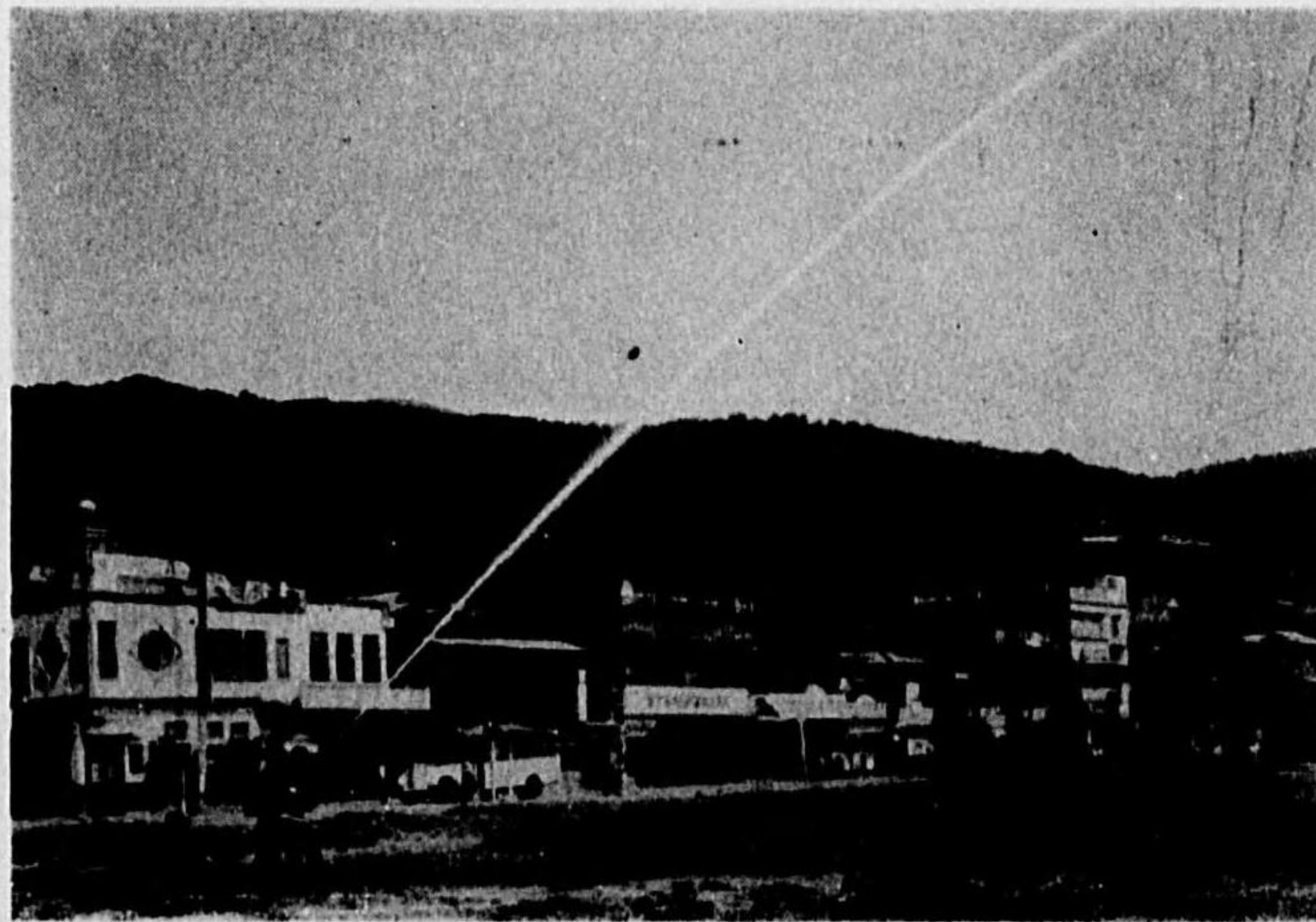
池 過 瀨



栓 水 衆 公



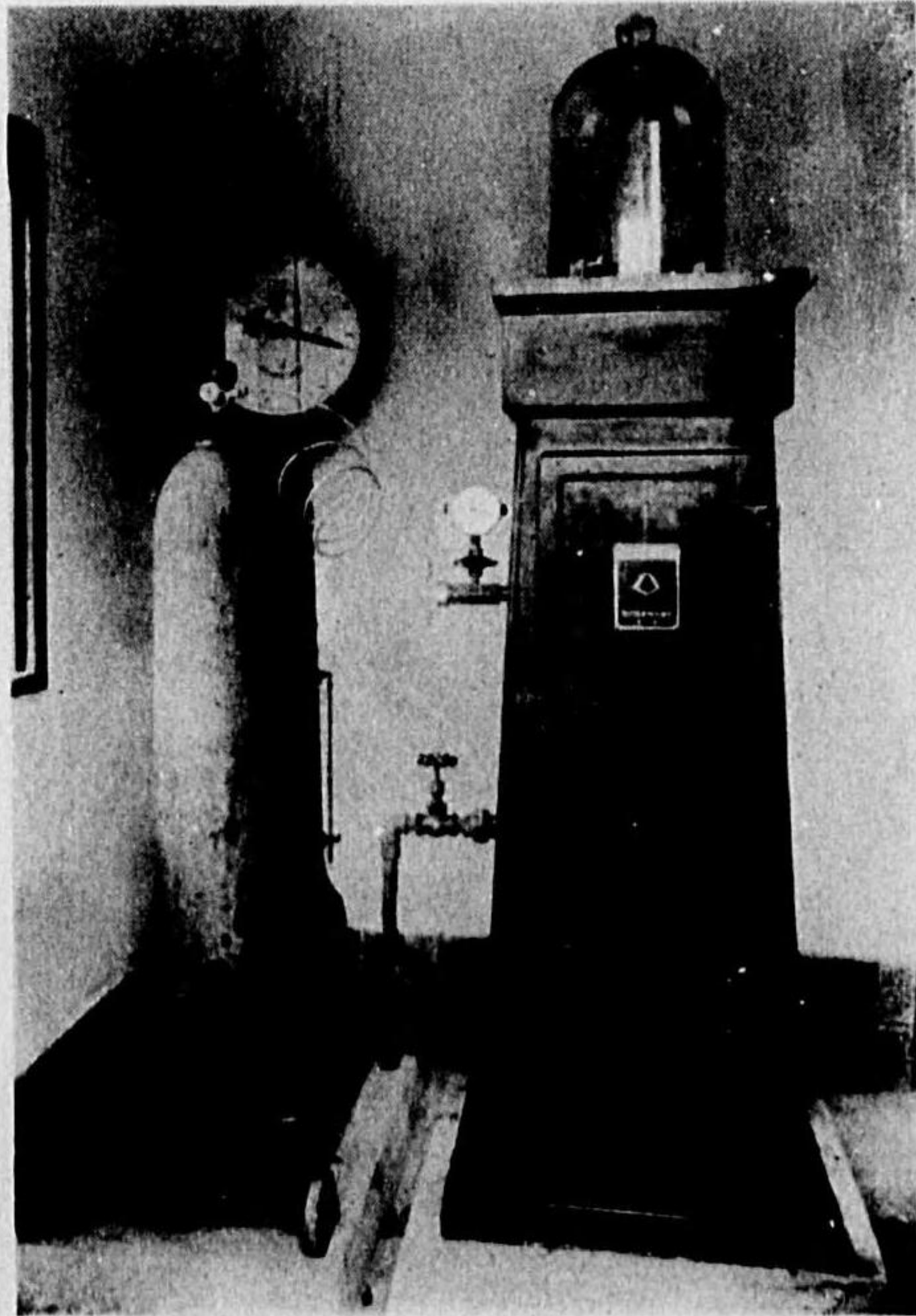
工事中の浄水場



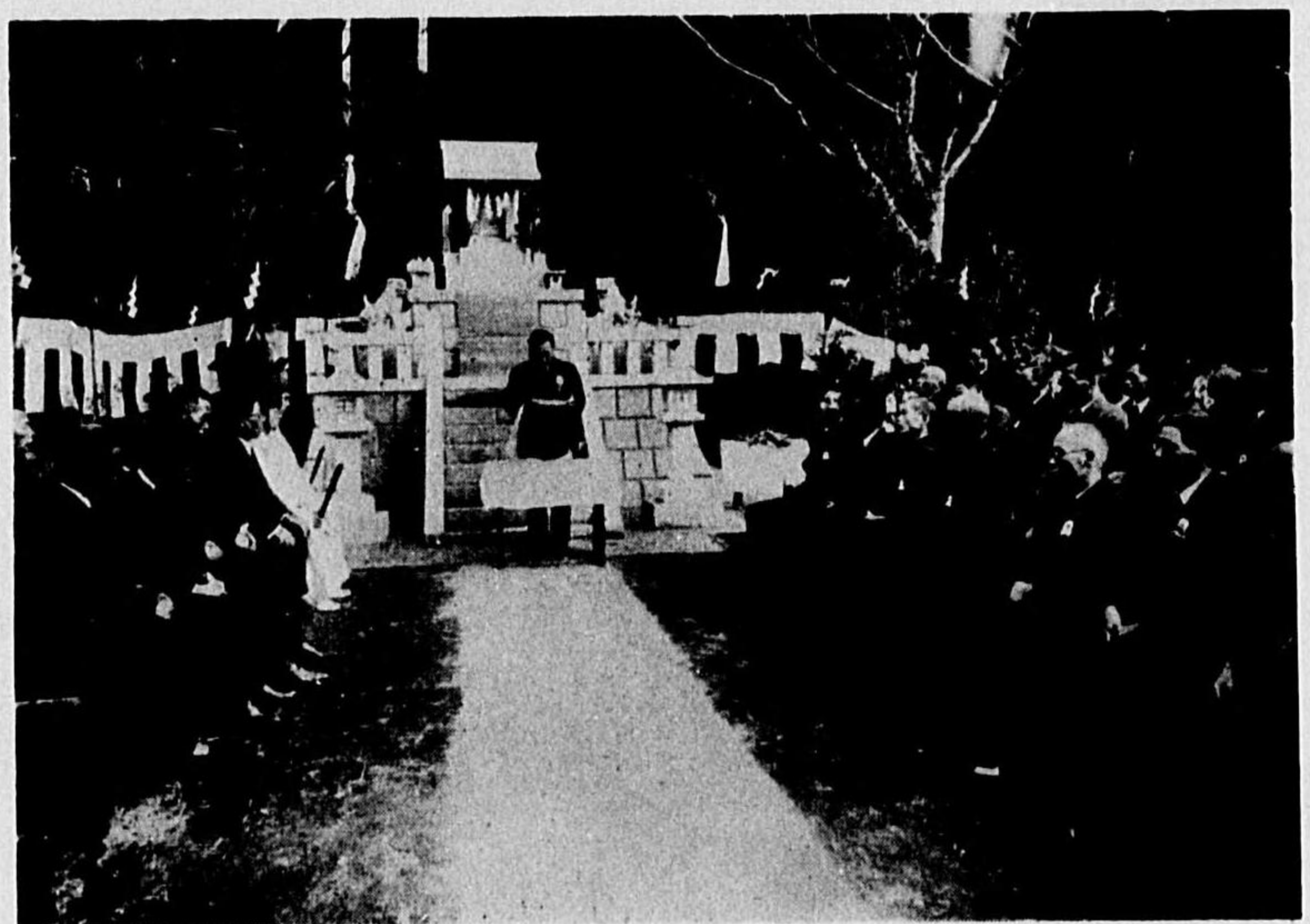
消火栓の試験



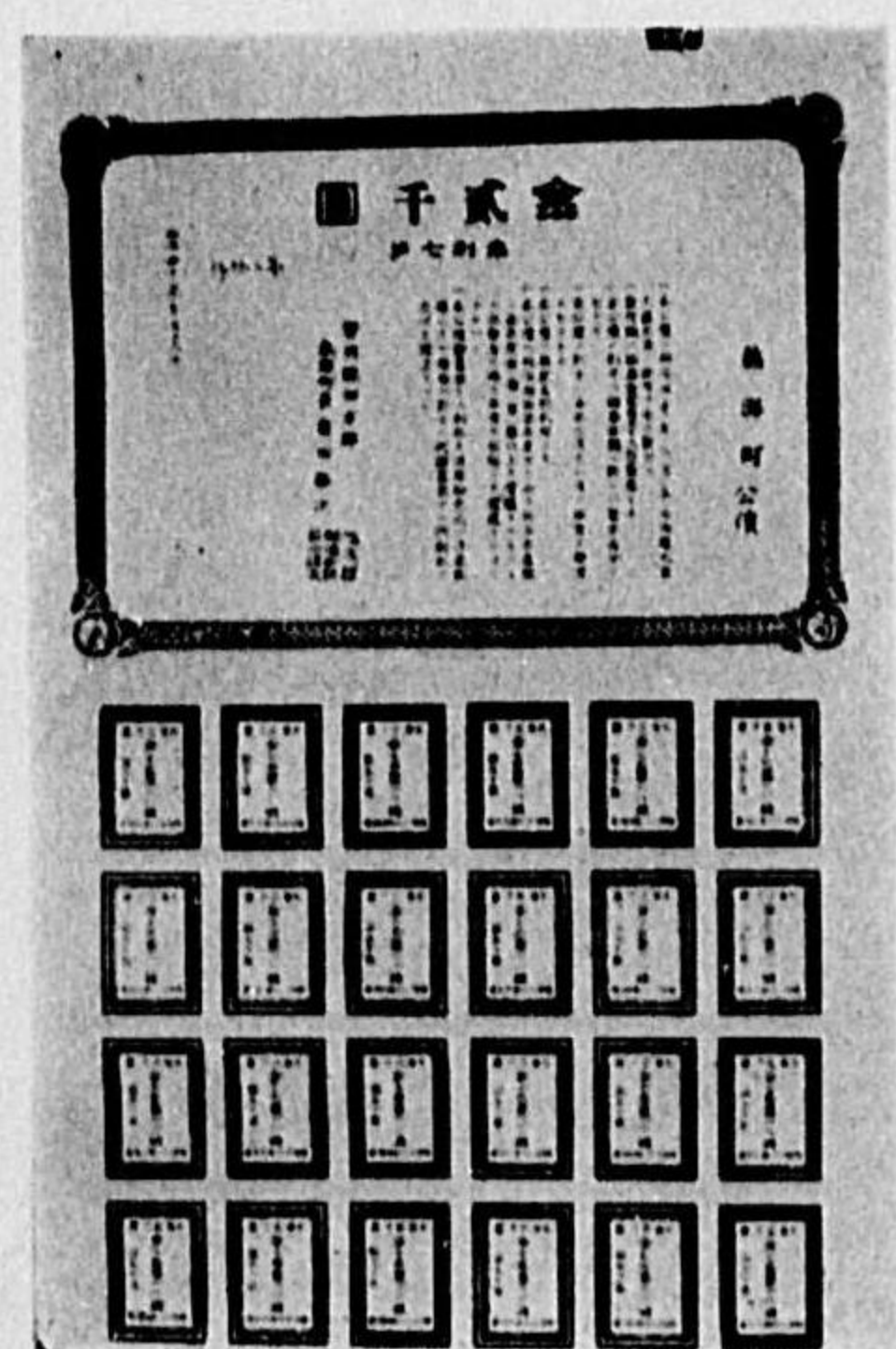
鹽
素
滅
菌
室



滅
菌
室
內
部



祭座鎮社神水明



債公道水

序

惟ふに都市の構成と發達は、幾多の施設を要すと雖、就中給水施設の完備は其の最たるものにして、社會生活上實に忽諸に附するを得ず、乃ち都市消長の根源たる衛生及防備に主要使命を擔ふものたるのみならず、産業經濟上其の寄與する所極めて重大なるものなるは言を俟たざる所なり。

翻つて本市上水道の歴史を顧るに、由來溫泉地として浴客多かりしも、給水の設備至つて不完全にして、井水或は個々に糸川、初川の上流等より笕を用ひて飲用に供したるが如きものなりしを、來遊の諸名士の後援もあり、日金山下より木樋を通じ來宮に方一丁餘りなる池を穿ちて、その池底に石を疊み、これに貯水し、更にこれより笕を用ひて引用せるものなるも、漸次進展しつゝある町勢に鑑み、斯かる簡易なる設備にありては、其の不完全なるを痛感し、愈々完全なる水道布設の要に迫られ急速に實現すべき議擡頭、明治三十三年町會の議決するところとなり、工費七萬五千圓を以て、設計並に工事の監

督を工學士岡田卯之助氏に又顧問として、工學博士中島銳治氏を委囑、明治四十年四月着工、同四十二年十一月竣工せられたるものなり。

此の間、餘裕を持たざる町財政に於いて、多額の工費を捻出するが如き或は其の筋の請願に或は部民との折衝に、當りたる當路者の苦心、其の努力、察するに餘りあり。然るに克くこの事に對處せられ、孜々として初志を貫き本事業を完遂せられたる諸賢に對しては吾人の深く謝意を表する所なり。

其の後大正十五年第一回の擴張を経て今日に至りたるものにして、爾來本事業の經營順調の過程を辿り、今日其の恩恵に浴するを得るは洵に欣慶に堪へざる所なり。

茲に本水道創設三十周年を迎ふるに際し、本誌を編纂せしめて、先賢諸氏の苦衷の跡を偲ぶと共に、記録の散逸を防ぐも亦徒事ならざるべし。

一言誌して序となす。

昭和十三年十一月

熱海市長 樋口修次

凡例

- 一、本書は市水道事業の全般に亘る事項を聚録せるものにして全編を沿革篇、計畫篇、設計篇、用地篇、工事篇、施工機關篇の各篇に分ちて記述し關係各位に對しては總て敬稱を省きたり。
- 一、材料は専ら市役所保存の記録に據ると雖或は當時關係者の記憶を參考としたる點あり力めて遺漏なきを期し又事業遂行の經過及他方面との關係を明瞭ならしめんが爲原文の儘多く輯めたるも或は精粗の恨なき能はず。
- 一、本誌は水道事業創設三十周年記念として編纂したるものなり。
- 一、本誌編纂に當り當時關係者元町長石渡要吾、同内田四郎左衛門、同杉崎鐵藏、同露木孝藏の諸氏並に郷土研究家浦井榮一氏等の寄せられたる多大の御援助に對し深く感謝の意を表す。尙過去の事實にして脱漏誤謬免がれ難く旁々筆硯の及ばざりし點は大方の御叱正を俟つのみ。

昭和十三年十一月

熱海市水道誌目次

寫真口繪

序

凡例

市勢一斑

市長樋口修次

沿革

計畫篇

上水道ノ計畫

飲料水試驗成績書

水道敷設ノ爲メ町法人ノ將來享有スベキ利益見込調査

水道敷設ヲ必要トスル理由

反對論起ル

水道ニ關スル決議書

熱海區會決議書

七

熱海町會決議書

目一

八

二

目一

水道施設ニ關スル議決……………三
 報告書……………三五
 熱海町會決議書……………六八
 熱海町會決議書……………三

公債募集及償還等ノ方法等ニ關スル議決……………三
 收入豫算……………七
 熱海區會決議書……………三〇
 答申書……………三七

設計篇

工事設計大要

熱海町水道設計書……………三〇
 濾過池……………三〇
 給水管……………三三
 淨水池……………三三
 沈澱池……………三三

熱海町水道工事費

一、水源地水路及鐵管線路費……………三三
 三、沈澱池築造費……………三三
 五、淨水池築造費……………三三
 七、鐵管其他敷設費……………三三
 九、測量製圖費……………三三
 十一、器具機械費……………三三
 二、水源地土工費……………三三
 四、濾過池築造費……………三三
 六、鐵管其他附屬品費……………三三
 八、家屋建築費……………三三
 十、試驗費……………三三
 十二、工事監督費……………三三

一位代價表

熱海町上水道敷設工事仕様書……………三五
 沈澱池築造工事仕様書……………三六
 淨水池築造工事仕様書……………三七
 水源地工事築造仕様書……………五一
 濾過池築造工事仕様書……………五七
 熱海町水道工事一部變更書……………五七

敷設工事仕様書

認可申請及認可

認可ノ申請及指令……………五八
 水道敷設ニ關スル議決……………五九
 水道敷設認可稟請……………五九
 水道敷設事業目論見書……………六六

資金調達

起債許可申請……………六八
 起債借替……………六八
 理由書……………六八
 水料收入豫算書……………六八
 水道敷設ヲ必要トスル要領……………六八
 公債募集及償還ニ關スル議決……………六八
 日本興業銀行借入金ニ對スル明治四十年度利子支拂金ノ財源調
 負債償還年次表……………六八
 明治三十九年度熱海町歳入歳出追加豫算……………六八
 明治四十年年度熱海町歳入歳出豫算中水道敷設ニ關スル豫算……………六八
 熱海町債募集規定……………六八
 追加起債……………六八
 水道敷設ノ爲メ起債ノ儀ニ付稟請……………六八
 起債ニ關スル調書……………六八
 水道敷設費豫算書……………六八
 水道敷設ニ關スル議決……………六八
 公債並ニ利子償還ノ財源調……………六八
 元金償還額割合表……………六八

用地篇

用地ノ面積及價格……………一〇一
 承諾書……………一〇一

工 事 篇

起 工	110		
決 議 事 項	111		
報 告 事 項	112		
工 事 繼 續 請 負 證	113	契 約 書	114
工 事 繼 續 請 負 證	115	御 請 書	116
主 要 機 械 並 二 材 料 ノ 購 入	117		
鐵 管 類	117		
入 札 人 心 得	118		
鑄 鐵 管、阻 水 弁、消 火 栓 及 其 他 諸 機 具 購 買 費	119	鑄 鐵 管 其 他 諸 附 屬 品 購 買 仕 樣 書	120
水 道 用 阻 水 弁 購 買 仕 樣 書	120	契 約 事 項	121
水 道 用 堅 取 水 鐵 管 及 其 他 諸 金 屬 ノ 製 作 物 並 二 鑄 鐵 製 蓋 等 購 買 仕 樣 書	121	水 道 鐵 管 購 買 仕 樣 書	122
水 道 敷 設 工 費 並 二 同 工 事 仕 樣 書	122		
契 約 條 項	123		
沈 澱 池 築 造 工 費	124	水 源 池 築 造 工 費	125
淨 水 池 築 造 工 費	125	濾 過 池 築 造 工 費	126
		水 道 鐵 管 及 附 屬 品 敷 設 工 費	127
熱 海 町 上 水 道 敷 設 工 事 仕 樣 書	128		
水 源 池 工 事 築 造 仕 樣 書	129	沈 澱 池 築 造 工 事 仕 樣 書	130
濾 過 池 築 造 工 事 仕 樣 書	130	淨 水 池 築 造 工 事 仕 樣 書	131
鐵 管 敷 設 線 路 掘 鑿 及 二 鐵 管 並 二 附 屬 物 敷 設 工 事 仕 樣 書	131		

熱 海 水 道 工 事 入 札 請 負 規 則

工 事 入 札 請 負 規 則	132	水 道 工 事 用 セ メ ン ト 購 買 仕 樣 書	133
工 事 用 セ メ ン ト 仕 樣 書	133	セ メ ン ト 購 買 請 負 契 約 條 件	134
入 札 人 心 得	134	契 約 書 案	135
豫 算 及 決 算	135	一 位 代 價 表	136
熱 海 町 水 道 布 設 工 費	136	工 費 收 入 支 出 ノ 方 法 及 其 豫 算	137
水 道 工 事 布 設 費 收 支 調 書	137		

震 災 復 舊 及 擴 張 工 事 篇

水 道 延 長 工 事 施 行 ノ 件	138	水 道 延 長 工 事 寄 附 採 納 ノ 件	139
水 道 給 水 料 及 量 水 器 使 用 料 免 除 ノ 件	139	上 水 道 震 災 復 舊 工 事 擴 張 工 事 施 行 ノ 件	140
公 債 起 債 ノ 件	140	水 道 給 水 線 延 長 ノ 件	141
水 道 用 地 借 地 ノ 件	141	水 道 用 敷 地 購 入 ノ 件	142
水 道 使 用 料 徵 收 手 數 料 交 附 規 程 設 定 ノ 件	142	水 道 使 用 料 徵 收 手 數 料 交 附 規 程	143
起 債 許 可 稟 請 ノ 內 務 大 臣、大 藏 大 臣 宛 提 出	143		
上 水 道 震 災 復 舊 並 二 擴 張 工 事 二 付 國 庫 補 助 下 附 稟 請	144		
上 水 道 擴 張 工 事 二 付 國 庫 補 助 金 御 下 附 ノ 儀 二 付 稟 請	145		
水 道 擴 張 工 事 費	146	水 道 震 災 復 舊 工 事 費	147
上 水 道 工 事 二 關 ス ル 件	147	承 諾 書	148
覺 書	148	起 債 許 可 稟 請 書	149
理 由 書	149	工 事 施 行 方 法	150
上 水 道 擴 張 工 事 二 付 國 庫 補 助 金 御 下 附 ノ 儀 二 付 稟 請	150		

魚見崎と遙に相隔て、伊東日連崎に接す、その丘上に登れば遠くは南方天城山より、近くは立嶽、弦卷山、日金山、岩戸山等北西に連なり、其の後方に箱根の諸山及富士の白雪皓々として雲表に聳え自ら此の勝地を誇るに似たり。

守護神に國幣小社伊豆山神社、村社來宮神社、今宮神社、多賀神社、下多賀神社、和田木神社等あり、又寺に温泉寺般若院等を初め各宗寺院あり。

客舎は其の數百餘軒を算し何れも近代設備を施して浴客に便せしむ、實に熱海は保健、更生に將又療養に資せらるべき地なりといふべし。

沿革

水道敷設以前の状況

水道開設前の熱海は糸川、初州、和田川等の上流で川をせきとめ夫れより竹樋を以て各戸へ水を引く程度で極めて原始的であつた。水口方面より出る山水は比較的良質であつた爲め町の中心地點迄引用されよく利用された。川水の外には業平井、三點井等の井戸が併用された。然し主として川水を使用した爲め悪疫の絶える事なく特に糸川の下流邊はその害が甚しかつた。又火災等の場合は消火機關が不備な爲め全滅的の打撃を再々受けねばならなかつたが、後水道が開設せられてからそれ等の災禍は根絶されるに至つた。

熱海簡易水道の敷設

熱海は元來温泉は豊富であつたが清水に乏しい憾みがあつた。明治初年の頃大隈公や岩崎彌太郎氏等が熱海に見えて熱海に水道の必要である事をよく口にせられてゐた。當時熱海に湯治中の實業家や政治家が集まつて座談のうち偶々この水道の話が出た折、横濱の豪商田中糸平氏が深くこれを嘆き金三千圓の私費を投じて簡易水道をつくるべく

決し、之を里民に諮つたので里民之を徳として更に義捐を募つて明治十五年之が完成を見るに至つた。施設の大要は日金山の麓半里の長程より清泉を呼び現在の來宮神社社務所の傍らに一池を穿つて冷水を溜溜し、更に木算を以て町中に引き町内に六ヶ所の貯水タンクを設け更に之を各戸に引用した。これ熱海に於ける水道の濫觴であるが今その遺跡は埋没されてゐる。

猶其頃茂木惣兵衛氏の先々代は梅園を開設し岩倉公は電信の開設に力を盡され、熱海三島街道は岩崎彌太郎氏の貳千圓の寄附等に依つて開通される等當時の名士は率先熱海の爲めに力をつくされ熱海人を啓蒙した功勞は大なるものがあつた。

計 畫 篇

上水道の計畫

然し乍ら、時勢の進運に伴つて人口著しく増加し、加ふるに都人士の浴客及別荘等を構へるもの益々多く、在來の飲料水にては不足を感じるのみならず、保養地として衛生上の設備全からざるを憂ひ町有志者は之が改良工事を起さんとして協議に協議を重ね、萬難を排して、拮据經營遂に明治三十三年町會の決議を以て水道工事委員を推薦し、其の任に當りしは町長前田勝次、委員内田市郎左衛門、保田久道、二見平右衛門、石渡喜一、山田賢三、石渡要吾、石渡均之助等の諸氏であつた。

かくて本格的に調査研究が進められ、之が設計を工學博士中島鏡治、技師岡田卯之助兩氏に委嘱した。

飲料水試驗成績書

田方郡熱海町

一、水

一種

飲料用適否

色	臭	味	反應	硝酸	亞硝酸	安田	硫酸	格魯兒	有機質	硬質
無	無	無	中性	僅微	無	無	僅微	〇、五〇〇〇、九四八〇四、〇四〇		
ナ	異	異	性	僅	無	無	僅	〇、五〇〇〇、九四八〇四、〇四〇		
シ	状	状	性	微	無	無	微	〇、五〇〇〇、九四八〇四、〇四〇		

本表ノ量ハ一メートル中ノ蜜瓦ニシテ有機質ハ過滿俺加留消費量ヲ示シ硬度ハ獨乙式ニ依リ硝酸ハ約五蜜瓦、硫酸ハ約三〇、蜜瓦以下ヲ示ス
右ノ成績ニ依リ良好ナル飲料水タルヲ認ム

明治三十九年九月十四日

静岡縣技手 篠田恒太郎

水道敷設ノ爲メ町法人ノ將來享有スベキ利益見込調査

- 一、人生必須ノ飲料水ヲ改良シ其完全ナルヲ得バ衛生事業ノ大半ヲ改善シタルモノト謂フヘク殊ニ本町ハ浴客營業ヲ主トスルモノナレバ水道改良ノ後ハ果シテ世人ガ安意シテ來浴スルニ至ルヘク其浴客ノ増加ト共ニ土地ノ繁榮ヲ來スニ至レバ町法人トシテモ亦間接ノ利益アルコト明瞭ナリ之レ町法人ノ將來享有スベキ利益ノ見込第一ナリ
- 二、本町ハ其區域少ナレドモ執レモ人家稠密シ一朝火災アルヤ忽チ延焼毎回其害少ナシトセズ、此際水道敷設ノ業成

ラバ大ニ消火ニ便ヲ得、大事ヲ小ニ止メテ其損害ヲ少カラシム之レ町法人ノ將來享有スベキ利益ノ見込第二ナリ

熱海水道敷設ヲ必要トスル理由

- 一、當町ニハ去ル十五年中石里博士ノ設計ニ依リ水道ヲ設ケタルモ七八年前全ク破壊シ爾來再敷設ノ必要ヲ感ジ居ルコト
- 二、現在ノ飲料水雜用水共各戸隨意ニ水源ヲ需メ竹樋ヲ以テ引入レ居ルニ依リ其量少ナク、加之降雨ノ際ハ水源ニ設備ナキ爲メ水流汚濁シ飲料ハ勿論雜水ニモ差支ヘル狀況ナルコト
- 三、仄ニ聞ク所ニ依レバ當地御用邸御取擴ノ内儀アリト洩レ承レハ御用邸ニ於テモ新清ナル水源御探究中ノ趣ニ付町施設ノ水道完成セバ之ヲ御用ニ供シ得ルコト
- 四、年々浴客増加シ殊ニ戰後ハ一層外國人ノ來遊者多キニ至リタルコト
- 五、現在水路不完全ナル爲メ萬一傳染病ヲ生ジタルトキハ忽チ蔓延シ之ガ爲メ當町ノ命脈ヲ保ツ來遊者ヲ減少スル虞アルニ至ルコト
- 六、一朝火災起ルトキハ消防上ノ困難ナルコト、近キ例ヲ舉クレハ本年一月末火災モ水ノ都合佳良ナレハ數戸ノ焼失ニテ消止メ得タルモ水流ナキ爲メ遂ニ廿四戸ノ延焼ヲ見タリ
- 七、戰時中傷病兵療養所ヲ設ケラレタル際ニハ俄ニ多人數入込ミタル爲メ水ノ不足ヲ告ゲ他町村ヨリ供給ヲ受ケタルコト
- 八、毎年秋期第一師團幹部演習及野戰砲兵演習行軍ノ際當地ハ其通路ニ方タルヲ以テ往復共四五〇間軍人多人數宿泊

九、來年度ニ於テ當地小田原間道路ヲ車馬道ニ改良スルコトニ決定セリ、又該道路及當地ヨリ互相線南條驛及靜浦ヲ經テ沼津町ニ達スル間ニ輕便鐵道又ハ電氣鐵道敷設ノ出願アルニ付之ガ完成ノ曉ニハ急激ニ人口及來遊者ヲ増加スヘキコト

反對論起る

かくの如き理由に依り町將來の爲め當事者は水道の敷設の急務である事を町民の輿論に訴へたのであるが、當時の貧弱な町財政では時期尙早を唱へる者多く工費十萬圓を要すると聞いては腰を抜かす程驚いて「水にそんな大金を出すなんて愚かなる事はない」と根本的に反對する者があり遂に町民の八分通りは反對論に傾き誓欣院で町民大會を開いて當局に反對決議文をつきつけるなど只ならぬ雲行きとなつた。

とにかく當時の十萬圓の工費は現在の百萬圓に相當する金額であるから文化の低い當時の町民の驚き反對するのも亦當然な事であつた。そこで理事者は苦心慘勝の結果反對論者を歴訪して諒解を求めると同時に反對をしづめる爲めに半額の五萬圓でやらうといふ事になつたが、設計によるとどうしても十萬圓を要するといふので折合つて七萬五千圓で着工する事になつた。

かくの如く町將來の爲め斷乎この反對論者を説服して工事を斷行する迄に至つた理事者の涙ぐましい努力と信念と政治的手腕は敬服に價する。

左に當時の水道敷設に關する議決を寛録す

水道ニ關スル決議書

熱海區會決議書

- 一、飲料水道ノ改良ハ目下ノ急務ト認ムルニ依リ完全ナル水道ヲ敷設スルノ計畫ヲ以テ調査委員若干名ヲ定メ工事ノ設計及收入豫算ヲ精密ニ調査スル事
- 二、調査委員ノ數及選舉ハ追ツテ之ヲ定ム

右決議候也

明治三十九年五月二十九日議決

熱海區會議長

熱海町長 前田 勝次 印

同區會議員

保田 久道 印

芥川 九右衛門 印

印 牧松 太郎 印

石渡均之助 八
 山田賢三 團
 石渡要吾 團
 野田久七 團
 露木聰三 團
 樋口忠助 團

熱海町會決議書

水道敷設計畫調査ニ關スル件

- 一、熱海町熱海溫泉場ニ水道條例ニ依リ水道ヲ敷設スルノ計畫ヲ爲スタメ調査委員五名ヲ置ク
- 二、委員ハ町會ニ於テ議員中ヨリ互選ス
- 三、委員ハ水道敷設ニ關スル事項ヲ調査シ町會ニ報告スル事
- 四、調査委員互選ノ結果左ノ通當選ス

石渡均之助
 鈴木良三
 内田市郎左衛門

石渡喜一

右議決ノ通相違無之茲ニ署名捺印候也
 明治三十九年六月十九日

熱海町會議長 前田勝次
 熱海町會議員 二見平右衛門

鈴木良三
 石渡要吾
 野田惣八
 石渡喜一
 内田市郎左衛門
 保田久道
 大木保兵衛
 野村辰右衛門
 芹澤政吉
 石渡均之助

報告書

熱海町水道敷設計畫調査ノ爲メ明治三十九年七月五日ヨリ同月八日迄熱海町役場内ニ調査委員會ヲ開催シ調査ヲ遂ゲタル結果左ノ通り決定ス

- 一、水道改良ハ刻下ノ急務ト認ムルニ依リ明治三十九年度ニ於テ施設ノ計畫ヲ爲スコト
- 二、水道敷設費豫算ハ金參萬圓以外タルヲ適當ト認ム
- 三、水道敷設費ハ二十ヶ年賦償還ノ方法ニ依リ公債ヲ募集スルコト、但利子八年七朱以内トス
- 四、公債償還ニ充ツヘキ財源ハ水料ヲ徴收シテ之ヲ支辨ス
- 五、右ノ外必要ナル事項ハ追而委員會ニ於テ調査ノ上決定スルコト

右及報告候也

明治三十九年七月九日

熱海町水道布設調査委員

樋	口	忠	助
野	田	惣	八
鈴	木	良	三
保	田	久	道
石	渡	均	之
			助

二	見	平	右	衛	門	
露	木	聰	一	三		
石	渡	喜	一			
内	田	市	郎	左	衛	門

熱海町長 前 田 勝 次 殿

熱海町會決議案

水道敷設及公債募集ニ關スル件

- 第壹條 熱海町ハ水道改良ノ必要ヲ認メ明治三十九年度ニ於テ水道條例ニ依リ熱海町熱海地内ニ水道ヲ敷設ス
- 第貳條 水道敷設費豫算ハ金參萬圓以内トス
- 第參條 水道敷設ニ要スル費用ハ町費ヲ以テ之ヲ支辨ス
- 第四條 前項ノ町費ハ公債ヲ募集シテ之ニ充ツ
- 第五條 公債償還期限ハ明治四十一年度迄据置同四十二年度ヨリ二十ヶ年賦トス
- 第六條 公債ノ利子ハ一ヶ年百分ノ七以内トス
- 第七條 公債償還ノ財源ハ受給水者ヨリ水料ヲ徴收シ及浴客分頭割ヲ徴收シテ之ニ充ツ
- 第八條 水料徴收ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム
- 第九條 前各條ノ外必要ナル事項及前各條ヲ施設スル爲メ必要ナル法令上ノ手續ハ總テ町長ニ一任スルコト

右決議候也

水道敷設ニ關スル議決

議第二六號

水道敷設ニ關スル議決

第壹條 熱海町ハ水道條例ニ依リ水道ヲ敷設ス

水道敷ノ設區域ハ熱海町熱海地内トス

第貳條 水道敷設ノ事業ハ明治三十九年度ニ於テ實施ス

第參條 水道敷設ニ要スル費用ハ町費ヲ以テ之ヲ支辨ス

第四條 前項ノ町費ハ公債ヲ募集シテ之ニ充ツ

第五條 水料徴收等ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

明治三十九年七月十日提出

同日議決

熱海町長 前田勝次郎

公債募集及償還ノ方法等ニ關スル議決

議第二七號

静岡縣田方郡熱海町公債募集及償還方法ニ關スル議決

第壹條 明治三十九年度ニ於テ水道事業費ニ充ツル爲メ金七萬五千圓ヲ起債スルモノトス

前項ノ公債ハ明治三十九年度ニ於テ一時ニ之ヲ募集スルモノトシ確實ナル銀行ヲシテ之ヲ引受ケシム

第貳條 本公債ニ對シテ發行スル證書ハ無記名利札附ニシテ五千圓、二千圓、一千圓、五百圓ノ四種トシテ其様式

ハ別ニ之ヲ定ム

第參條 募集金額ハ引受銀行又ハ其ノ代理店ニ於テ前條證書ト引換ユルモノトス

第四條 本公債利子ノ割合ハ一箇年百分ノ七以內トシ毎年六月十二月ニ於テ前六ヶ月分ヲ支拂フモノトス

但募集ノ月ニ於テハ證書發行ノ日ヨリ償還ノ月ニ於テハ支拂ノ日マデ日割ヲ以テ利子ヲ支拂フモノトス

第五條 本公債ノ元金ハ(明治四十一年度迄ヲ据置キ)明治四十二年度ヨリ同六十一年度ニ至ル二十ヶ年度間ニ於テ

左ノ通償還スルモノトス

明治四十二年度 金貳千圓

同 四十三年度 金貳千圓

同 四十四年度 金貳千圓

同 四十五年度 金貳千圓

同 四十六年度 金貳千五百圓

同 四十七年度 金貳千五百圓

同 四十八年度 金貳千五百圓

明治四十九年度	金 參 千 圓
同 五十年 度	金 參 千 圓
同 五十一年 度	金 參 千 圓
同 五十二年 度	金 參 千 圓
同 五十三年 度	金 參 千 五 百 圓
同 五十四年 度	金 四 千 圓
同 五十五年 度	金 五 千 圓
同 五十六年 度	金 五 千 圓
同 五十七年 度	金 五 千 圓
同 五十八年 度	金 六 千 圓
同 五十九年 度	金 六 千 圓
同 六十年 度	金 六 千 圓
同 六十一年 度	金 七 千 圓

募集金額減少スルトキハ前項年割償還額ヲ減少ス
町財政ノ都合ニ依リ前二項年割額以上ノ償還ヲ爲シ若ハ其ノ年限ヲ短縮スルコトアルベシ、元金ノ償還ハ
毎年十二月ニ於テ支拂フモノトス

第六條 本公債ノ元金及利息子ハ一般ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨ス

第七條 本公債ノ元金ハ證書又ハ利子引換ニ支拂フモノトス

第八條 本公債證書若ハ利札水火災等ニ因リ消滅シタルトキハ町長ニ届出テ代證書若ハ代利札ノ交付ヲ請求スルコトヲ得、此場合ニ於テ町長ハ其ノ消滅ノ證據明確ナリト認ムルトキハ直ニ代證書若ハ代利札ヲ交付スヘシ

第九條 本公債證書又ハ利札ヲ紛失シタルトキハ其ノ旨町長ニ届出ツヘシ、其發見ノ時亦同シ
前項紛失ノ届出アリタルトキハ之ヲ公告シ滿一ケ年ヲ經テ代證書又ハ代利札ヲ交付ス
但故障ノ申立アリタルトキハ裁判所ノ確定判決アルニアラサレハ交付セス、代證書又ハ代利札交付ニ關スル一切ノ費用ハ紛失者ノ負擔トス

第十條 本公債證書又ハ利札ヲ汚損毀損シタルトキハ代證書又ハ代利札ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ眞偽判別シ難キモノハ紛失證書ノ例ニ準シ汚損毀損ノ證據明確ナルモノハ代證書又ハ代證書又ハ代利札ヲ交付ス、但其ノ費用ニ關シテハ第九條ノ例ニ依ル

第十一條 前條ノ場合ニ於テハ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ了スルマデ之カ元金ノ支拂ヲ停止ス
第十二條 代證書又ハ代利札ヲ交付シタルトキハ前ノ證書又ハ利札ハ無効トス

明治三十九年七月十日議決

熱海町長 前 田 勝 次 圖

報 告 書

一、本委員會ハ明治四十年七月八日午後一時ヨリ誓院ニ於テ同月九日及同月十三日各午後一時ヨリ町役場會議室ニ
計 畫 篇

テ開會シ全委員出席調査ヲ遂ゲタリ

一、委員會ノ經過及其結果左ノ通り

1、給水区域内ニアル戸數ヲ調査スルニ五百四十戸ノ豫定ナリ

2、放任供給ノ水料ハ引込口數ヲ標準トシ相當ト認メタル毎戸ヘ其口數ヲ配當シ可成其豫定配當數ヲ減少スルコト
ナク調和ヲ圖ルコト

3、前項ニ依ル引込豫定口數ハ三百以上トス

4、共用栓供給戸數ハ三百五十八戸以上ノ豫定トス

5、左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニハ共用栓ノ使用ヲ許サス

一、四十年度町稅戸別納額拾圓以上ノモノ

二、前項ノ納額以下タルモ特殊ノ營業ヲ爲シ普通家事用ヨリ多ク水量ヲ要スルモノ

三、前各號ニ該當セサルモノニ準スヘキ資格アルモノト認メタルモノ

6、共用栓ノ使用者タラサルモノニハ凡テ放任供給ノ一口又ハ一口以上ノ配當ヲ爲スコト

7、給水区域内ニ居住スル者ハ水道ニ依ルノ外他ノ用水ヲ使用スルヲ許サス

8、浴客割ハ一ケ年延人員二十萬人ト豫定シ一人ニ付金壹錢宛年額金貳拾圓以上ト爲スコト

但浴客中七歳未満ノ者ハ水料ヲ徴收セス

軍隊又ハ學校生徒ハ一人ニ付金五厘ヲ徴收スルコト

9、前項ノ浴客割ハ其徴收ヲ温泉場取締所ニ交渉シ同意ヲ要求スルコト

10、前各項ノ標準ニ依リテ水料ノ收入ヲ豫算スルトキハ左ノ如シ

收 入 豫 算

一金五千四百圓

放任水料

但豫定口數三百口、一口ニ付一ケ月平均壹圓五拾錢一ケ年分(戸數百八十二戸)

一金千五百〇參圓六拾錢

共用栓水料

但共用栓使用戸數三百五十八戸一戸ニ付一ケ月三十五錢宛一ケ年分

一金貳千圓

浴客割

但浴家一ケ年延人員二十萬人一人ニ付一錢ツ、

計金八千九百〇參圓六拾錢

之ヲ支出總額八千五百九拾八圓ニ比スレハ三百〇五圓六十錢收入増加ノ豫算ナリ

11、温泉場取締ヨリ同意ノ旨回答セリ別紙ノ通り

12、給水區域ヲ定ムルコト

一、福道、梅園入口迄

二、野中、縣道左右

三、熱海鐵道會社角迄

四、東町海岸通對瀧亭角迄

五、和田道、天神山下小川境迄

六、堀通ハ佐々木邸角迄

右及報告及候也

明治四十年七月十三日

調査委員

- 内田市郎左衛門
- 湯原福太郎
- 石渡喜一
- 保田久道
- 二見平右衛門
- 福田政治郎

町會議長

熱海町長 前田勝次殿

熱海町會決議書

一、水道敷設ニ關シ明治四十年七月十四日午前十一時熱海誓院ニ熱海町會ヲ開キ左ノ通り議決シタリ
水道敷設調査委員ノ調査報告

一、調査委員ニ於テ調査シタル事項ハ適當ナルモノト認ムルヲ以テ本町會ハ該報告ヲ是認シ水道敷設ニ關スル
事業ノ進捗ヲ圖ルコト

二、水道公債償還金及經費支辨方法ニ關スル件

一、今般熱海町熱海ノ内必要ナル區域へ水道ヲ敷設スルニ付テハ事業費トシテ熱海町ノ名義ヲ以テ起債スル公債
ノ元利償還金及水道事業ニ要スル經常費ハ水料ヲ徴收シテ之ヲ支辨スルコトハ公債償還方法及水道敷設ニ關
スル町會ノ決議ニ依リ明瞭ナレトモ萬一徴收スヘキ水道敷設區域内ノ給水者ニ限り其不足ヲ賦課スルノ外該
區域以外ノ住民ニ對シテ之ヲ負擔セシメサルコト

右議決致候也

明治四十年七月十四日

熱海町會議長

熱海町長 前田勝次 閣

同出席議員

- 石渡要吾 閣
- 野村庄左衛門 閣
- 湯原福太郎 閣
- 二見平右衛門 閣
- 石渡喜一 閣

熱海區會決議書

水道敷設ニ關スル件

- 一、熱海町會ニ於テ調査決定シタル水道敷設ノ件ハ最急ノ必要ト認ムルヲ以テ熱海區會ハ之ヲ贊成シ其速成ヲ町會ヘ提議スルコト
- 二、水道事業ノ爲メ起シタル公債ヲ償還シタル後ハ水道敷設ノ時若クハ敷設後三年以内ニ於テ放任供給ニ加入シ水料ヲ公債完了ノ期迄間斷ナク支拂ヒ尙引續キ之ヲ使用スル者ニハ特ニ償還完了後ニ於ケル規定水料ヲ半額ニ減少セラレシコトヲ希望ス

大木保兵衛 團
 高橋政吉 團
 芹澤政吉 團
 保田久道 團
 内田市郎左衛門 團
 野田惣八 團
 福田政次郎 團
 杉崎鐵藏 團
 對木敬助 團

右之通決議候也

明治四十年七月二十日

熱海區會議長

熱海町長 前田勝次

同區會議員

印牧松太郎
 野田久七
 芥川九右衛門
 山田賢三
 二見平右衛門
 藤間彌左衛門
 保田久道
 須藤重吉

熱海町會決議書

一、水道敷設ノ件ニ付明治四十年九月二日熱海町熱海誓院ニ於テ熱海町會ヲ開會シ左記事項ヲ議決シタリ

第一、水料低減ノ特典ヲ設クルノ件

一、水道事業ノ爲メ起シタル公債ヲ償還シタル後水道ニ關スル經費ノ收支相償ノ上ハ水道敷設ノ時(初年)若クハ敷設後貳ケ年以内ニ於テ放任供給ニ加入シ公債完了ノ期迄水料ヲ間斷ナク支拂ヒ尙引續キ之ヲ使用スル者ニハ公債償還完了後ニ於ケル規定水料ヲ半額ニ減少スルノ特權ヲ附與スルコト

第二、水道敷設工事施行ニ付委員設置ノ件

- 一、水道工事施行ノ爲メ水道敷設委員七名ヲ設置ス
- 二、委員ハ町公民中ヨリ町會之ヲ選舉ス
- 三、委員ハ水道敷設工事施行ニ關スル一切ノ事務ニ關シ町長ノ諮問ニ應シ調査決定スルノ權限ヲ有シ且委員會ノ意見ヲ町會ニ提出ス
- 四、委員ハ事務ノ分擔ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ委員會ノ互選ニ依ル
- 五、委員選舉ノ結果左記ノ通り當選シタリ

- 石 渡 喜 一
- 保 田 久 道
- 内 田 市 郎 左 衛 門
- 二 見 平 右 衛 門
- 石 渡 均 之 助
- 石 渡 要 吾
- 山 田 賢 三

右決議錄相違無之候也
明治四十年九月二日

熱海町會議長

熱海町長 前 田 勝 次 團

同 出 席 議 員

- 野村庄左衛門 團
- 山 本 和 吉 團
- 二見平右衛門 團
- 石 渡 喜 一 團
- 大木保兵衛 團
- 高 橋 政 吉 團
- 芹 澤 政 吉 團
- 保 田 久 道 團
- 内田市郎左衛門 團
- 杉 崎 鐵 藏 團
- 對 木 敬 助 團

決議ノ年月日 明治四拾四年貳月參日
 起債ノ年 明治四拾四年度
 許可ノ年月日 明治四拾四年參月八日
 並ニ許可ノ番號 內務省地第八五一號
 起債額 金拾萬圓
 借入年月日並 明治四拾四年參月拾六日
 借入額 金拾萬圓
 利息定率 千分ノ六拾八
 起債ノ目的 水道事業費支辨ノ爲メ借入タル舊債償還
 募集ノ方法 貸借證書
 借還ノ方法 東京市日本橋區小舟町 株式會社安田銀行
 償還ノ財源 明治四拾四年度ヨリ貳拾參ヶ年賦
 給水料特別稅寄附金制限外課稅
 償還豫定金額 左記
 並ニ豫定金額 左記
 償還金額並 大正貳拾貳年度限リ
 年月日並未償還 大正貳拾貳年度限リ
 償還終了期限

計畫篇	次債還別年	元金償還額	利子支拂額	計	備考
明治四十四年度	明治四十四年度	1,210,000	6,800,000	8,010,000	元金八四十五年三月三十一日償還
大同四十五年度	大同四十五年度	1,050,000	6,690,000	7,740,000	元金八四十四年九月二十五日
〃	〃	1,190,000	6,590,000	7,780,000	元金八四十五年四月十二日
〃	〃	1,390,000	6,380,000	7,770,000	元金八四五年三月三十一日
〃	〃	1,390,000	6,330,000	7,720,000	元金八四五年三月三十一日
〃	〃	1,490,000	6,230,000	7,720,000	元金八四五年三月三十一日
〃	〃	1,680,000	6,050,000	7,730,000	元金八四五年三月三十一日
〃	〃	1,890,000	6,870,000	8,760,000	元金八四五年三月三十一日
大正七年度	大正七年度	1,040,000	5,670,000	6,710,000	元金八四五年三月三十一日
〃	〃	1,250,000	5,490,000	6,740,000	元金八四五年三月三十一日
〃	〃	1,350,000	5,240,000	6,590,000	元金八四五年三月三十一日
計	計	12,760,000	52,470,000	65,230,000	元金八四五年三月三十一日

熱海町水道改良委員長

熱海町長 前田 勝次殿

須賀平次郎	藤間元兵衛	鈴木清五郎	佐藤甚藏	小川半兵衛	稻田元次郎	小川徳太郎	青木敬次郎	山本菊次郎	山本和吉	大木梅吉
-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	------	------

設 計 篇

設計に就きては本邦水道界の先覺者工學博士中島銳治氏の直接指導監督に依り氏の作製せる熱海上水道の設計書の
大要は次の如きものであつた。

工事設計大要

一、給水區域

來ノ宮 宮西 仲田 野中 本町 濱町 躍場 清水田 紀ノ本 鶴田
 小麦田 入河原 染殿 都松 元倉

一、給水豫定人口 二八、〇〇〇人

- 一、給水量 一人一日平均三立方尺
- 一、水源 熱海町伊豆山宇土澤、姫ノ澤湧水

熱海町水道設計書

熱海町ノ現在人口ハ其飲料水使用區域内ニ住スル者約三千八百五十人ナルモ冬期ニ於テハ來浴者最モ多ク一ケ年一千五百人以上ニ及ブコトアリト云フ、而シテ他ノ市街ノ場合ト異ナリ何レモ多量ノ水ヲ使用スル旅館等ノ多數ナルヲ以テ本設計ニ於テハ現在人口ノ約倍數即チ八千人ヲ以テ計算ノ基トシ一人一日ノ水量ヲ三立方尺トナセリ

沈 澄 池

沈澄池ハ總數三個ニシテ一個ノ池ハ長サヲ九十尺巾ヲ六十尺トシ水深サヲ引入口ニ於テハ十三尺五寸引出口ニ於テハ十四尺トシ水面以下十二尺ヲ以テ使用水量トシ其以下ヲ泥溜トセリ故ニ其使用水量ハ約二萬四千立方尺ニシテ人口八千人ニ對スル百分ノ水量ナリトス、而シテ沈澄池三個ノ内先ツ其二個ヲ築造シ他ノ一個ハ將來必要ニ應ジテ増築ヲ爲スノ設計ナリ

沈澄池ノ構造ハ敷法共ニ粘土ヲ厚サ一尺五寸ニ打上ゲ敷ハ粘土ノ上ニ厚サ八寸ノ結成石ヲ施シ法ハ厚サ一尺ノ切石ヲ張り大玉石若クハ割栗石ヲ使用シテ其裏詰トナシ且ツ張石ノ間隙ニハ自然ニ泥土等ノ浸入スルモノナレバ築造ノ當時砂ヲ詰込ム可シ

沈澄池ノ水源タル現在水路ヲ池ノ附近迄二百五十七間延長シ（其間ニケ所ニ石垣ヲ築造ス其築造場所ハ別紙平面圖

ニ記入シアル自四百四十間至四百二十間及自三百間至二百五十間ニケ所トス）夫レヨリ鐵管ヲ以テ其池ヘ引入ル、モノトス、其引入口ヨリ以下ハ他ノ法ヲ溝形ニ造リ且ツ水勢ノ爲メ其破壞ヲ來サバラシメン爲メ池底ニ約十尺ノ内巾四尺ノ張石ヲ爲セリ、而シテ水路ノ引入口ニ於テハ差蓋ヲ下シ何時ニテモ水ノ流入ヲ防止シ得タルモノトセリ

沈澄池ノ引出口ハ内徑十吋ノ鐵管ヲ直立セシメ其水面以下三段ニ口ヲ設ケ何レノ口ヨリスルモ水ヲ引出シ得ルノ裝置トセリ、又之ニ並行シテ同一ノ豎立管アリテ其上部ニハ溢流管ヲ設ケ池水面ヲシテ一定ノ水位以上ニ昇騰セシメ其下部即チ池底ニ於テ引出口ヲ設ケ池ノ掃除ヲ爲ス時之ヲ開放シテ汚水ヲ悉ク放棄シ得ルモノトシ、而シテ此等兩豎立管ニ棧橋ヲ架シ引出口開閉ノ便ニ供スルモノトス

圖面ニ表ハシタル如ク掃除管ハ其引出口ヨリ下流ハ悉皆土管ヲ使用スルモノト爲スニ依リ成ルベク上等ノ陶管ヲ使用シ且ツ其接合ニハモルタルヲ使用スルノ外尙結成石ヲ以テ其全部ヲ包被スルコト緊要ナリトス、而シテ其終點ハ地形上自然露渠トナリテ終ニ近傍ノ水路ニ入ルモノトス

沈澄池ノ底ハ其引入口ヨリ引出口ニ向ヒ五寸ノ勾配ヲ附シ法勾配ハ一割二分トス、而シテ馬踏ニ於ケル高サハ海面上三百八尺トシ最高水面ハ同三百五尺池底ハ其引入口ニ於テハ二百九十一尺五寸引出口ニ於テハ二百九十一尺トナセリ

濾 過 池

濾過池ハ總數四個ニシテ其二個ニテ二萬四千立方尺、即チ人口八千人ニ對スル百分ノ一水量ヲ二十四時間ニ十尺ノ速度ヲ以テ濾過シ得ルノ大サシニテ各池共長サ五十六尺、巾四十四尺、深サ九尺ナリ、而シテ掃除ノ場合ニ要スル豫

備池共ニ先ゾ三個ヲ築造シ他ノ一個ハ他日必要ニ應ジテ増築シ得ルノ設計トナセリ

濾過池ノ構造ノ敷粘土厚サ一尺五寸トシ其上ニ結成石厚サ八寸ヲ打上テ法勾配ハ一割ニシテ粘土ノ厚サ一尺五寸ノ上ニ結成石厚サ八寸ヲ打チ其上ニ切石ヲ用ヒ張石ヲ爲スモノトセリ、然レドモ切石ニ代フルニ半枚積ノ煉瓦石若クハ厚サ五寸内外ノ平坦ナル石ヲ以テスルモ妨ゲナシトス、又引入口ニハ自働淨水辨ヲ設ケ以テ池水面ヲ常ニ一定ノ高サニアラシムルノ設計ナリ且ツ引出口ヲ二個ニ區畫シ其前面ノ出口ニハ自由ニ上下シ得ル鐵板(直角三角形ノ缺所アルモノ)ヲ設ケ之ヲ越エテ流ル、水高ニ依リテ水量若クハ濾過速度ヲ測知スルノ裝置トナセリ、其鐵板ノ前面ニ浮標ヲ設置シ濾過水面ノ水位ヲ測定スルノ用ニ供セリ、此鐵板ニ接シテ一ノ摺動扉アリテ濾過池ノ掃除ノ際池水ヲ放棄スルカ若クハ掃除後淨水ヲ逆流セシムルヲ使用ス、又後面ノ出口ヲ摺動扉二個アリテ其一個ハ濾過水ヲ淨水池ニ送致スルカ若クハ掃除後他ノ池ヨリ淨水ヲ逆流セシムルノ用ニ供シ他ノ一個ハ掃除ヲ爲ス場合若クハ掃除後ニ於テ一日乃至二日間濾過水ヲ放棄スルニモ亦使用スルモノトス各濾過池ニ各一個ノ溢流管ヲ設置ス

排水管ハ沈澄池ノ場合ノ如ク近傍ノ低地ニ達スルマデ土管ヲ敷設スルモノトス

濾過池ハ引入口ヨリ引出口ニ向ヒ二寸ノ勾配ヲ有シ其水面ハ海面上二百九十一尺ニシテ底面ハ同二百八十四尺ナリ而シテ引入口ヨリ引出口ニ向ヒ巾八寸高サ六寸ノ導水溝設クルモノトス、其溝側ハ敷積ノ煉瓦ヲ用ヒ蓋ハ厚サ三寸ノ花崗石ヲ使用スルモノトシ而シテ敷地全面ニ三寸乃至六分目節ノ砂利ヲ二尺厚サニ約三層ニ入レ其大ナルモノヲ下層トシ順次小ナルモノニ至ル、而シテ其上ニ細砂ヲ二尺厚サニ入ル、モノトセバ水ノ深サハ全ク三尺ナリトス

淨水池

淨水池ハ二個ニシテ其容積ヲ總テ二萬四千立方尺トシ人口八千人ニ對スル一日分ノ水量ナリ、其大サハ各池共ニ長サ四十二尺、巾二十七尺深サ、十二尺ニシテ其上部ハ棋ヲ以テ之ヲ包被セリ、又常ニハ二個共ニ使用スルモ掃除ヲ爲ス場合ニハ一個ノミヲ使用スルコトアリ、而シテ其引出口ニハ人孔ヲ設ケテ掃除ノ際池中ニ出入シ得ルノ便ニ供セリ、棋上ニハ總計二十四ヶ所ノ空氣抜、若クハ掃除ノ場合ニ於ケル明取りヲ設クルモノトセリ

淨水池ノ掃除管ハ前同様近傍ノ低地マデ土管ヲ敷設シテ自然水路ニ導クモノトス

淨水池ノ構造ハ敷粘土厚サ一尺五寸ノ上ニ結成石八寸ヲ打チ周圍壁及中壁共表面ハ煉瓦積ニシテ其他ハ總テ結成石ヲ以テ築造スルモノトシ導流壁ハ煉瓦二枚積トセリ

淨水池ノ棋上ニハセメント一、砂二、ノモルタルヲ五分ノ厚サニ塗リ雨水ノ滲入ヲ防クモノトス、且ツ棋間ノ凹處ニハ砂利ヲ入レ自然滲透セル雨水ヲ周圍ノ壁外ニ流出セシムルモノトス、淨水池ノ棋上ニハ約厚サ三尺ノ盛土ヲ爲シ以テ池水ヲ常ニ清涼ニ保ツノ便アリトス

各淨水池ニ各一個ノ溢流管ヲ設置スルモノトス、淨水池ノ底ハ引入口ヨリ引出口ニ向ヒ二寸ノ勾配ヲ附シ掃除ノ便ニ供シ其水面ノ海面上二百八十三尺ニシテ水深サハ十二尺ナリ

給水管

給水管ハ内徑三吋以下ノ鐵管ニシテ其延長約一千三百八十七間ナリ、而シテ町内各所ニ三十ヶ所ノ消火栓ヲ設置シ火災防禦ノ便ニ供スルモノトス又共用栓三十個ヲ設置スルモノトス
本工事ハ十八ヶ月ニテ竣工スルノ豫定ナリ

以上各池共海面上ノ高サハ掘鑿及盛土ノ量ヲ略ボ平均セシメタルノ結果ニシテ工費ノ増加セザル限リハ各池殊ニ淨水池ハ尙ホ低下セシムルヲ可トス、又工場内ノ石垣若クハ其周圍ノ土留石垣ノ如キハ掘鑿中得タル石材ヲ以テ築造スルノ設計ナレドモ若シ之ヲ得ザルトキハ相當ノ法ヲ附シテ石垣ヲ廢スル等其他些少ノ工事ニ至リテハ實地施工ニ臨ミ多少變更アルモノト知ル可シ

明治三十三年十月

工學博士 中島 銳治
 工學士 小林 柏次郎

熱海町水道工事費

一金七萬五千圓

總工費

内譯

一、水源地水路及鐵管線路費

金壹千七百參拾八圓五拾錢

内

27500
 3000
 27500
 明治三十九年度支出

池種	坪數	單價	金額
水源地ノ潰地	二、五六二、〇	〇、五〇〇	一、二八一、〇〇〇
新水路潰地	六一五、〇	〇、五〇〇	三〇七、五〇〇
鐵管線路潰地	三〇〇、〇	〇、五〇〇	一五〇、〇〇〇
計			一、七三八、五〇〇

二、水源地土工費

金六千八百參拾九圓

四十年年度支出

工種	種	數量	單價	金額
用水路付替	一三四間	三、〇〇〇	四〇二、〇〇〇	四〇二、〇〇〇
新水路	二五七	四、〇〇〇	一〇二、〇〇〇	一〇二、〇〇〇
石垣	二〇〇立坪	五、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
堀	一、三〇〇	一、八〇〇	二、三四〇、〇〇〇	二、三四〇、〇〇〇
盛土	一、二九〇	〇、九〇〇	一、一六一、〇〇〇	一、一六一、〇〇〇
木柵	二〇六	四、〇〇〇	八二四、〇〇〇	八二四、〇〇〇
設計篇				三五



設計篇

芝 張

計 張
二〇〇坪

〇、四二〇

六、八三九、〇〇〇

三六

三、沈澄池築造費

金九千九百〇五圓參拾四錢五厘

四十年度支出

工種	數量	單價	金額
粘土工	九三、三立坪	二四、六〇〇	二、二九五、一八〇
結成石工	六、三	四九、二〇〇	三〇九、九六〇
張石	三四一、八	一八、二八〇	六、二六六、三八四
張石	四、一七	二一、六五五	九〇、三〇一
掃除管	九個	六、七〇〇	六〇、三〇〇
同除	三	八、三二八	一八三、二二六
雜費	二	五〇、〇〇二	一〇〇、〇〇四
計			九、九〇五、三四五

金壹萬壹千參百九拾參圓參拾四錢六厘

四、濾過池築造費

四十年度支出

工種	數量	單價	金額
粘土工	七〇、二五立坪	二四、六〇〇	一、七二八、一五〇
結成石工	四七、二八	四九、二〇〇	二、三三六、一七六
張石	一九三、二〇	二一、六五五	四、一八三、七四六
笠石	三〇〇、〇坪	〇、七五五	二二六、五〇〇
蓋瓦	五、〇	一、〇〇〇	五、〇〇〇
煉瓦	八、三五	八六、二二八	七一九、九二〇
淨水井	一個	五〇、〇〇二	五〇、〇〇二
阻水管	三個	五〇、〇〇二	一五〇、〇〇六
同除	一〇	六、七〇〇	六七、〇〇〇
掃除	三〇	八、三二八	二四九、八四〇
計			一五〇、〇〇六

三七

設計篇

溝煉瓦	一、八〇〇枚	〇、〇一五	二七、〇〇〇
濾砂利持込共	三三、〇〇立坪	一三、〇〇〇	四二九、〇〇〇
濾砂同	四五、〇〇	一三、〇〇〇	五八五、〇〇〇
雜費			四五〇、〇〇〇
計			一一、三九一、三四六

五、淨水池築造費

金六千六百六拾六圓八錢五厘

四十年年度支出

工種	數量	單價	金額
粘土工	五九、〇五立坪	二四、六〇〇	一、四五二、六三〇
結成石工	四〇、三七	四九、二〇〇	一、九八六、二〇四
煉瓦工	二八、七二	八六、二二八	二、四七六、二八一
掃除管	三、五間	六、七〇〇	二三、四五〇
同	二八、五	八、三三八	二三七、三四八
掃除	一	五〇、〇〇二	五〇、〇〇二

三八

張砂利	八〇、〇〇切	〇、七五五	六〇、四〇〇
モルタル	四、六三立坪	一〇、〇〇〇	四六、三〇〇
通風管	一三〇、〇〇個	一、一七五	一五二、九五〇
芝	四、八個	〇、二五〇	一一、〇〇〇
雜費	一二六、〇立坪	〇、四二〇	四八、七二〇
計			一一〇、〇〇〇
			六、六六六、〇八五

六、鐵管其他附屬品費

金貳萬壹千〇〇七圓五拾錢

三十九年度支出

品目	數量	單價	金額
直管	一四〇噸	一二〇、〇〇〇	一六、八六〇、〇〇〇
異形管	一四	一五〇、〇〇〇	二、一〇〇、〇〇〇
阻水弁	一〇	八、五〇〇	八五、〇〇〇
同	五	一二、五〇〇	六二、五〇〇
設計篇			三九

設計篇	阻水弁	同	消火	共用	共	消火栓及阻水弁室蓋	ボールド下其他雜費
	六吋	八吋	栓	栓	栓		
	六	二	三〇	三〇	三〇	五三	
	二三、〇〇〇	三五、〇〇〇	二二、〇〇〇	二五、〇〇〇	四、〇〇〇		
	一三八、〇〇〇	七〇、〇〇〇	六三〇、〇〇〇	七五〇、〇〇〇	二二二、〇〇〇	一一〇、〇〇〇	二二、〇〇七、五〇〇
四〇							

七、鐵管其他敷設費

金壹千七百〇壹圓七拾五錢

四十一年度支出

品目	員數	單價	金額
三吋管	二六〇本	〇、七〇〇	一八二、〇〇〇
四吋管	一三五	〇、八五〇	一九九、七五〇
六吋管	一七二	一、一〇〇	一八九、二〇〇
八吋管	一一九	一、六〇〇	一九〇、四〇〇

十吋管	異形管	阻水弁	消火栓	共用栓	計
二〇二	二三	三〇	三〇	三〇	
二、一五〇	〇、七〇〇	三、〇〇〇	五、〇〇〇		
四三四、三〇〇	一五〇、〇〇〇	一六、一〇〇	九〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	一、七〇一、七五〇

八、家屋建築費

金五千六百五拾圓

內金五百圓

鐵管試驗所建築費

三十九年度支出

金五千百五拾圓

四十年年度支出

名稱	坪數	單價	金額
事務所	一五〇坪	五〇、〇〇〇	七五〇、〇〇〇
公舍	四四〇	四〇、〇〇〇	一、七六〇、〇〇〇
水源工營所	二〇〇	三〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇
水源地倉庫	三〇〇	二五、〇〇〇	七五〇、〇〇〇
計			四、一四〇、〇〇〇

設計篇

鐵管試驗所

セメント倉庫

鐵管敷設員結所

計

二〇、〇〇〇

五〇、〇〇〇

二ヶ所

二五、〇〇〇

二五、〇〇〇

二〇、〇〇〇

五〇〇、〇〇〇

一、二五〇、〇〇〇

四〇、〇〇〇

五、六五〇、〇〇〇

四二

九、測量製圖費

金七百參拾圓

內

品目

測量器械

製圖器

測量用品

製圖用器

測量用人夫費

計

金

額

五〇〇、〇〇〇

五〇、〇〇〇

三〇、〇〇〇

五〇、〇〇〇

一〇〇、〇〇〇

七三〇、〇〇〇

四十年年度支出

十、試驗費

金壹千百五拾圓

內

名稱

鐵管試驗器械

セメント試驗器

鐵管試驗用職工人夫費

セメント試驗用人夫費

諸材料試驗費

計

金

額

五〇〇、〇〇〇

三〇〇、〇〇〇

一〇〇、〇〇〇

五〇〇、〇〇〇

二〇〇、〇〇〇

一、一五〇、〇〇〇

三十九年度支出

十一、器具機械費

金七百圓

內

名稱

鐵管敷設用具

器具

計

金

額

五〇〇、〇〇〇

二〇〇、〇〇〇

七〇〇、〇〇〇

三十九年度支出

四三

十二、工事監督費

金七千五百拾八圓四拾七錢四厘 內 金七百五拾四圓

金六千七百六拾四圓四十七錢四厘 四十年年度支出

三十九年度支出

工種	人員	年手當	金額	計						
				技師(囑託)	技手	助手	事務員	工員	小工	
技師(囑託)	一人	一、〇〇〇、〇〇〇	八三、三三〇							
技手	二人	一、六〇〇、〇〇〇	九一、六〇〇							
助手	六人	平均二、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇							
事務員	二人	平均一、一〇〇	二、二〇〇、〇〇〇							
工員	一〇人	平均日給〇、六〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇							
小工	二人		二、二〇〇、〇〇〇							
番	二人		二、二〇〇、〇〇〇							
旅	二人		二、二〇〇、〇〇〇							
計			六、〇〇〇、〇〇〇							
			三十九年度支出							
			四十年年度支出							

一位代價表

工種	數量	單價	金額
粘土工	一坪	八、〇〇〇	一三、六〇〇
粘砂人	〇、二〇〇	〇、〇〇〇	二、〇〇〇
利土	一、五〇〇	〇、〇〇〇	九、〇〇〇
利夫	一、五〇〇	〇、〇〇〇	二、四、六〇〇
計			

工種	數量	單價	金額
砂	一、〇〇〇立坪	一、〇〇〇	一、〇〇〇
砂	〇、五〇〇切	一、〇〇〇	五、〇〇〇
石	一、八〇〇	〇、四〇〇	七、二〇〇
設計篇			四五
計			

結成石工

設計篇
煉工種

瓦

數量
一、七五枚

單價
〇、〇一五

金額
二六、二五〇

四九

掃除柵淨水井及阻水弁室

(一間當り)

掘結土工
計 鑿成
人種

夫石管

數量
〇、
立坪
五人九坪三本

單價
〇、
四九、
六〇〇 二〇〇 三〇〇

金額
八、
三、
四、
三二八 〇〇〇 四二八 〇、九〇〇

乙 掃除管 (八寸) (一間當り)

掘結土工
計 鑿成
人種

夫石管

數量
〇、坪
〇、六三
五人三三本

單價
〇、
四九、
六〇〇 二〇〇 二〇〇

金額
六、
三、
三、
七〇〇 〇〇〇 一〇〇 〇、六〇〇

モ手職切
ル傳工
タ人種
ル夫工石

甲 掃除管 (五寸) (一間當り)

數量
〇、
二 〇、
三人一切

單價
〇、
四五 〇、
七五 〇、
三八〇

金額
〇、
七五五 〇、
〇六〇 〇、
〇九〇 〇、
二二五 〇、
三八〇

手職セ細
傳メ工
人ン種
夫工ト砂

笠石

數量
〇、
二 〇、
一 〇、
九 一、
八切

單價
〇、
四五 一、
〇〇〇 一、
〇〇〇 〇、
四七

金額
一、
一七五 〇、
〇九〇 〇、
一〇〇 〇、
九〇〇 〇、
〇八五

四八

設計書

結成

職人

手傳

モル

鉄線

計

石

工

夫

張

芝

種

工

芝

人

計

五〇

二、九五二

四、〇〇〇

一、八〇〇

一、〇〇〇

二、〇〇〇

三、〇〇〇

五〇、〇〇二

四九、二〇〇

一、〇〇〇

〇、四五〇

〇、立坪

〇、六坪

四、四人

四、

芝

張

數

量

單

金

額

夫

〇、二人

〇、六〇〇

〇、四二〇

一、〇坪

〇、三〇〇

〇、三〇〇

鐵管內譯

一、總噸數 百五拾四噸五分

管種內

此	異	十	八	六	四	三
計	形	管	吋	吋	吋	吋
噸						
數						
			二〇二	一一九	一七二	一三五
			六三〇、〇	四八三、〇	三二五、〇	一八三、〇
			三三、七六〇	三二、四六八	三二、二六〇	三二、〇〇五
			一五四、五	三四六、一五〇	三四六、一五〇	三四六、一五〇

敷設工事仕様書

熱海町上水道敷設工事仕様書

一、本仕様書ニ依リ築造ス可キモノハ水源地ノ沈澄池、濾過池、淨水池、排水渠、鐵管敷設等一式トス、其ノ各部ノ大小ノ寸法及ビ材料員數等ハ別紙圖面及ビ工費内譯書ニ據ル可シ

設計書

五一

材料之部

- 一、總テ材料ハ初メ見本品ヲ差シ出シ検査ヲ受ケ認可ノ上其見本品ト品質大小ノ異ナラザルモノヲ持チ込ミ使用ス可シ、見本品ト相違セルモノハ納品ノ全部或ハ其一部ヲ擯却ス夫レガ爲メ生ズル損害ハ請負人ノ負擔タル可シ
- 一、花崗石ハ其產地ヲ指定セズト雖モ其含有スル雲母ノ量少ナク斑紋細ク其質等一ニシテ皮目、裂目、其他ノ欠點ナク歲月ヲ經過スルモ變色セザルモノタル可シ
- 一、石材ハ相州ノ六ヶ村産或ハ之レト等質ニシテ堅硬ナル無層岩ニシテ韌性ニ富ミ細成公質ニシテ分子ノ凝結強固緻密ナルヲ要ス
- 一、石材ノ比重ハ二・四以上ナルヲ要ス
- 一、水分ノ吸収量極メテ僅少ナルヲ要ス
- 一、破砕面ハ面狀角立清淨ニシテ光輝ヲ呈スル者タル可シ、遊離性ノ細胞筋脈、縞目、異質斑點、巢穴裂目、土氣ノ現出及ビ腐蝕ノ微候等アル者ハ總テ之ヲ排却ス
- 一、霜雪ノ爲メニ蒙ル凍結作用及ビ瓦斯等ノ及ボス分解作用ヲ受クルコトナク之ヲ空中若クハ水中ニ置クモ總テ同色ナルヲ要ス、但シ赤色若クハ黑色ノモノハ之ヲ解ク
- 一、間知石ハ前者ト同等ニシテ軟質ノ部分裂目等ナク其表面正方形ニシテ面ノ周圍一寸以上摺リ合せ築造シタルトキ表中ニ示ス寸法ヲ有スルモノナラザル可カラズ、且ツ表面ヨリ後方一寸以上ハ表面ノ寸法ヨリ減縮ス可ラズ、亦控ノ寸法ハ胴差ニシテ控ノ裏面ハ前面寸法ノ四分ノ一以上タル可シ

- 一、割栗石ハ前者ト同一質タル可シ
- 一、砂利ハ山或ハ川ノ産ニシテ其質堅硬タル可シ其大サハ四分ヨリ一寸位タル可シ
- 一、大玉石ハ前者ト同一ニシテ其大サハ三寸ヨリ五寸位タル可シ
- 一、洗砂利ハ前者ト同ジク其質堅硬ニシテ清淨ナルハ勿論塵芥雜物等ノ附着混入ナキモノタル可シ、其大サハ五分ヨリ一寸位タル可シ
- 一、洗砂ハ清淨ニシテ雜物ノ混入ナク多角尖銳ニシテ硅質ニ富ミ幾分粗粒ニシテ最大徑五厘位タル可シ
- 一、松仙角ハ四面平行ニシテ全長通ジテ厚幅ニ不同ナキモノトス、瓦身ヲ許サズト雖モ普通材ニハ元口ニ於テ厚サノ百分ノ八末口ニ於テ厚サハ百分ノ十二ニ相當スル丸身又全長中間ニ在リテハ百分ノ十ノ丸身アルモ材質上等ナルモノハ許スコトアルベシ
- 一、丸身ハ手滑ニシテ凸凹アル可カラズ
- 一、曲リハ寸毫モ之ヲ許サズ
- 一、挽材ハ寸毫ノ丸身ヲ許サズ正角ナルモノニ限ル(シラタ)ハ各角ニ於テ幅ノ百分ノ十ヨリ多カル可ラズ
- 一、赤身ト指定スル挽材ニアリテハ(シラタ)ハ一切之ヲ除ク可シ
- 一、挽材ノ四面ハ五ニ平行シテ全長通シテ厚幅ニ寸毫ノ不同ナク必ズ眞直ナル可シ
- 一、長サ三尺ニ付一個以上ノ筋アル可ラズ其直徑ハ五分ヨリ大ナルヲ得ズ、但シ工事ノ性質ニ依リ特ニ技師ノ指定スルモノハ此限リニアラズ
- 一、凡テ木材ハ生育純良ニシテ成熟シタル立樹ヨリ拵へ製作シタルモノニ限ル

- 一、木目正シク分子綿密ニシテ強力並ニ保存ニ堪ヘ純良ナルモノニ限ル
- 一、左ノ缺點アルモノハ之ヲ採用セズ
 - 前項ノ仕様ニ違ヒタルモノ
 - 巨大ノ節アルモノ
 - 腐敗節ノアルモノ
 - 割目又ハ虫喰孔アルモノ
 - 表面ニ凸凹アルモノ
 - 腐敗ノ兆候アルモノ
- 強力並ニ保存ニ有害ト認ムルモノ
- 一、粘土ハ砂礫塵芥等ノ混合ナキ良質ハ勿論土質ヲモ含マザル(里言)ネバト稱シ粘力最モ強硬ニシテ氷霜寒暑ニ耐ヘ粘力ノ減軟セザルモノタル可シ
- 一、土管ハ尾州常滑ノ産或ハ之ト同質ニシテ純良ナル粘土ヨリ製造シ稍々玻璃狀ノ光澤ヲ有シ黒茶色ニ至ル迄充分焼キ上ゲタルモノタル可シ
- 一、土管ノ形式ハ規定ノ寸法ヲ有シ圓徑正シク管身直ナルモノタル可シ
- 一、土管ノ性質ハ瑕疵裂レ目ナク組織均一堅牢緻密ニシテ内外面共滑カニテ凹凸ナク棒ヲ以テ打ツトキハ金屬ノ音響ヲ發スルモノタル可シ
- 一、煉瓦石其大サ長サ七寸二分幅三寸五分厚サ二寸ニシテ其形狀少シモ屈曲セル所ナク各面共直方形ヲナシ各縁ハ何

レモ直角ナルヲ要ス

- 一、煉瓦ノ性質ハ瑕疵裂レ目ナク組織均一堅牢緻密ニシテ燒ノ完全ナルモノタル可シ
 - 一、煉瓦ノ重量ハ一個六百二十目以上ニシテ其吸水量ハ重量ノ八分ノ一以下タル可シ
 - 一、煉瓦ノ比重ハ乾燥セルモノヲ更ニ四時間日光ニ曝シタルモノニテ一・八五以上ヲ有スルモノタル可シ
 - 一、煉瓦ノ抵抗力ハ申切ノモノ二個ヲ扁平ノ位置ニ重ネ其中間ヘ純セメントモルタルヲ挿入シ一週間ヲ經タル後上下ヨリ壓迫シ其極度ノ抵抗力一平方吋ニ對シ二千五百封度以上ヲ有スルモノタル可シ
 - 一、芝ハ眞芝ニシテ雜草ノ交ラザルモノニシテ粘土ノ眞土ニ培植二寸ノモノタル可シ
 - 一、目串竹ハ唐竹長サ十二尺以上目通シ二・三寸廻リ一本ヲ十二ニ切り四ツ割四十八本トシ之ヲ張芝平一坪ニ挿入ス可シ
- 但シ目串ハ頭ニ可成節ノ付ク様注意シテ伐ル可シ
- 一、ボールド、釘、鋸其他ノ鍊鐵ハ最モ粘質ニ富ミ切斷面ハ鼠色氣ヲ帯ビタル青色ノ纖維狀ヲ呈シ聊カモ強力ニ關スル異狀ナキ純良ナルモノニ限ル
 - 一、總テ表面並ニ切口ノ端ハ五ニ眞直角且ツ平滑ニシテ凸凹ナク聊カモ保存張力上ニ有害ナル痕跡ヲ有ス可カラズ
 - 一、時宜ニ依リテ以下ノ如キ強弱試驗ヲ執行スルコトアルベシ、此ノ爲メニ要スル費用ハ請負人ノ負擔タル可シ
 - 一、張力ハ長サ八吋徑一吋ノ標本ヲ以テ試驗スルトキ一平方面ニ付キ二十噸ヨリ少ナカラザル引張力ヲ有シ切斷面ニ於テ二割ヲ狭縮シ全長ニ於テ一割二分ヲ引延スルモノトス
 - 一、鑄鐵ハ鼠色ヲ帯ビ粘質純良ナル銑鐵ヨリ鑄造ス可シ

- 一、總面平滑シテ泡孔割目突塊其他張力保存ニ有害ナル痕跡アルモノヲ許サズ
- 一、特ニ指定スルモノノ外鐵類ハ總テ檢査ノ後上等(コールド)ヲ以テ叮嚀ニ二回以上ヲ以テ組立ツルモノハ各自別々ニ塗立テ然ル後組立ツ可シ
- 一、生石灰ニ混合物ナキ純良ナル石灰石ヲ完全ニ燒キ上ゲ貯藏中毫モ濕氣ニ觸レザルモノタル可シ
- 一、生石灰ハ重量ニ四分ノ一乃至二分ノ一容積ニ於テ三分ノ一乃至二分ノ一ノ清水ヲ澱ギ凡ソ十二時間風化シタルモノハ二倍乃至三倍ノ容積ニ膨脹スルモノタル可シ、但シ耐水性ヲ有スルモノハ此限りニアラズ
- 一、生石灰ハ適量ノ清水ヲ澱ギ十二時間以上風化シ充分之ヲ乾燥シタル後五厘目ノ篩ニ掛ケ容積二割以内ノ殘滓ヲ得ルモノタル可シ
- 一、風化シタル石灰一、砂三ヲ調合シ斷面積凡ソ一平方吋ノ模型ニ詰メ込ミタルモノヲ四週間室内ニテ硬化セシメ其抗張力一平方吋ニ對シ十封度以上アルモノタル可シ
- 一、生石灰ノ重量ハ一立方尺ニ付キ六十五封度以上タル可シ
- 一、諸材料員數計算法ニ於テ砂ハ(モルタル)ノ煉數ニヨリテ計算ス(モルタル)ノ外ニ使用シタルモノハ後頃砂利ト同一ノ方法ヲ以テ量ルモノトス
- 一、割栗石ハ高サ三尺ニ積ミタルモノ、平面積ニ依リテ計算スルモノトス
- 一、砂利ハ長サ六尺幅三尺厚サ一尺五寸(量一合二勺五才)ノ辨ニテ量ルモノトス
- 一、煉瓦ハ一層疊積スル毎ニ其數ヲ檢シテ定メルモノトス
- 一、結成石ハ(モルタル)ノ煉數ニ依リテ計算ス

- 一、石垣ハ築造仕上前面積ニ依リテ計算ス
- 一、石灰ハ適宜計リ安キ方法ヲ以テ計算ス
- 一、粘土ハ二合五勺辨ヲ以テ厚サ五寸毎ニ踏ミ堅メ計ルモノトス
- 一、張芝、出來形坪數ニ依リテ計算スルモノトス
- 一、盛土及ビ切土坪數ハ出來形實測ニ依リテ計算ス
- 一、其他ノ諸材料ハ總テ一個毎ノ員數ヲ檢査シテ受ケ取ルモノトス

水源池工事築造仕様書

- 水源池工事ハ沈澄池、濾過池及ビ淨水池等ノ築造ヲ除ク外一切ノ土工及ビ別紙圖面内譯書ニ明記アル築造物ヲ築設スルモノトス
- 但シ別紙、縱横斷面圖ノ通り(イ、ロ)ヨリ(イ、ク)ニ至ル給水鐵管敷設線路ノ築堤、切取リノ土工並ニ該中間二個ノ橋梁ヲモ含ムモノナルヲ以テ後日誤謬ナキ様殊更ニ茲ニ明記シタリ
- 別紙圖面ノ通り引入口ニ當ル現在ノ川ノ兩岸及ビ河底ヲ整理シ水門及ビ堰堤ヲ設ケ之ヨリ導水路ニ依リ沈澄池ニ送水スルナリ
- 一、總テ工事ハ主務吏員ノ指揮ニ從ヒ別紙圖面ノ通り築造ス可シ
 - 一、掘鑿ハ土質ノ許ス限りハ成ル可ク急勾配ヲ之テ以テ之ヲ掘下グ可シ

但シ掛員ノ許可ナクシテ圖面ニ示セル勾配ヨリ緩カニ之ヲ掘下グ可カラズ

- 一、掘鑿シタル土砂ハ一時掛員ノ指定ノ場所ヘ積置キ埋立テノ際之ヲ使用スルカ或ハ直チニ埋立地ヘ運ビ使用ス
- 一、埋立地ハ現在ノ地盤ヨリ掛員ノ指揮ニ從ヒ三尺ヲ切り捨テ然ル後盛立テ決シテ現在ノ地盤ノ儘盛立スルヲ許サズ
- 一、盛土ハ木根又ハ大石等ヲ含有セザル土ノミヲ以テ之ヲナシ一尺層毎ニ充分之ヲ突キ堅ム可シ、最モ必要ナル所ハ五寸厚毎ニ突キ堅メ或ハ(ローラ)掛員ノ指定スル重量ノモノヲ五回以上引カシム可シ

但シ時宜ニ依リテハ撒水セシムコトアル可シ

- 一、掘鑿ノ度ハ掛員ノ指揮ニ從ヒ其坪數ハ掘跡容積ニ依リ埋立テハ其埋立ツ可キ容積ニ依リテ之ヲ定ム
- 一、現在ノ道路ヲ掘割リ或ハ埋立ツルトキハ通行ニ差支ヘナキ様假道ヲ設ク可シ
- 一、總テ工事ハ検査済ノ上ニアラザレバ之ヲ埋設ス可カラズ
- 一、築堤ハ別紙横断面圖ノ通り能ク掛員ノ指揮ニ從ヒ丁張ヲ設ケ表裏法勾配ヲ正確ニ仕切ル筋芝及ビ堤上耳芝ヲ植付ケ根石垣ヲ築造シ若シ指定アレバ堤上ヘ枳殼苗木ヲ植付ク可シ
- 一、築堤盛土ハ厚サ五寸毎ニ突キ堅メヲナシ兩法リ腹付土ハ各一尺ノ厚サニ可成黒土ヲ使用ス可シ
- 一、築堤ノ表裏腹付ケ筋芝ハ芝間五寸トシ充分打チ堅メヲナシ堤上兩耳芝ハ五寸毎ニ押付ヲ鑿打チ芝長一尺幅五寸厚二寸ノ塊芝ヲ使用ス可シ
- 但シ芝植付工事ハ可出來バ春暖ノ候ニ待チテ着手ス可シ
- 一、築堤ハ根石垣ノ天端ヨリ五寸ヲ去リ(犬走りヲ付ス)出來ス可シ
- 一、堤上ノ枳殼苗木ハ高サ二尺五寸ノ長サ一間ニ十五本植付ケ押杭未口二寸間ニ送り三本押シ狭ミ竹二タ通り一尺毎

ニ棕相繩結ビニシテ高サ二尺ニ刈込ミヲナス可シ

- 一、築堤ノ盛土及ビ腹付土ハ淨水工場内指定ノ場所ヨリ運搬使用ス可シ
- 一、以上ノ項目ハ何レモ一切ノ土工事ニ摘要スルモノトス
- 一、導水路ハ別紙横断面圖ノ通り根切シ掛員ノ検査ヲ受ケ然ル後粘土基礎ヲ施シ其上ニ大玉砂利ヲ敷キ充テ能ク突キ堅メタル後水路ノ底ハ結成石ヲ兩側ハ人造石ヲ以テ張石シ圖面ノ通りノ寸法ニ出來ス可シ、引入口水門ハ當初別紙圖面ノ通り位置ヲ測定シテ根切ヲナシ掛員ノ検査ヲ受ケ粘土ヲ敷キ其上ヲ大玉石ヲ敷キ充分能ク突キ堅メ後結成石ヲ敷設シ然ル後精確ナル遺形ヲ設ケ棋枰ヲ据エ付ケ内部ハ凡テ結成石ヲ以テ築造シ水門前後面露出ノ處ハ煉瓦一枚張トシ水門摺戸取り付ケノ外部ハ切石積トス、而シテ水門ノ左右ハ割石積トシ掛員ノ指揮ニ從ヒ圖面ノ如ク出來ス可シ
- 一、餘水吐キ兼掃除管ハ内徑八寸土管ヲ能ク掛員ノ指揮ニ從ヒ敷設ス可シ
- 一、揚水路及ビ道路付ケ替ヘハ掛員指定ノ場所ニ付ケ替ヘヲナスモノニシテ萬事掛員ノ指揮ニ從ヒ出來ス可シ
- 一、沈澄池及ビ濾過池ノ土堤腰石垣ノ基礎ハ掛員ノ指揮ニ從ヒ根切ヲナシ能ク堅メ砂利ヲ以テ目潰シ然ル後根石ヲ据付ク可シ、但シ基礎面ハ指定ノ勾配ヲ付ス可シ、間知石ハ根石トスベキ分ハ可成大ナルモノヲ撰ビ下端ハ捨土臺ニ密着セシメ前面ハ玄能荒落シトシ合端ハ四週共一寸以上小叩トシ裏面ハ割栗石ヲ最下層ニ於テ厚サ四尺五寸以上ニ裏詰メシ漸次昇ルニ隨ヒ其厚サヲ減ジ上層ニ於テ二尺トス、割栗石ハ成ルベク丁寧ニ詰メ堅メ間知石一層ヲ昇ル毎ニ目潰砂利ヲ入レ充分ニ突キ固ム可シ
- 一、石垣ノ前面勾配ハ一割五分トス

一、割石積ハ根切ヲナシタル後ヲ割栗石ヲ厚サ一尺通り敷キ並べ能ク打チ固メ砂利ヲ以テ目潰シ掛員ノ検査ヲ受ケ然ル後チ石積ニ着手ス可シ、根石ハ成可ク大ナルモノヲ撰ビ合端摺リ合セハ三寸以上ヲ下ル可ラズ、石積ハ總テ顯頭石(俗稱牛蒡積)トシ法面ニ直角ニ据エ付ケ大小不整ナキ様配置密着セシメ決シテ四ツ目、縁切、缺石等ヲ造ラズ入念築造ス可シ

一、石積ノ前面勾配ハ掛員ノ指揮ニ從フ可シ

一、石積内部ノ空隙ハ胴飼、友飼、追り飼、等ヲ施シ且ツ裏込ハ總テ掛員ノ指定ニ依リ多數ノ小石ヨリハ少數ノ大石ヲ用ヒ其空隙ハ砂利ヲ以テ填充シ荷モ土砂ヲ投入ス可ラズ

一、高サ五尺以上ノ石垣ニアリテハ背部ノ溜水ヲ排水セシムル爲メ石垣ノ處々ニ土管ヲ敷設スルコトアル可シ

一、水門左右ノ石垣ハ(トロ)据エトシ内部ハ割栗石ニ代ヘルニ結成石ヲ以テス

一、鐵管架ケ渡シ用橋梁ハ工形鋼鐵ヲ投ゲ渡シ兩端ハ鬼ボールトヲ以テ床石ニ取り付ケ渡リ三尺毎ニ(アルグル)鐵ヲ綴紙ニテ取り付ケ其上ニ檜ノ枕木ヲ置キ鐵管ヲ架ケ渡スモノトス、凡テ据エ付ケテ終ヘタル後チ掛員ノ指揮ニ從ヒ(コールタ)及ビペンキヲ二回以上塗リ立ツ可シ

一、木橋ハ是レ亦同ジク松桁ヲ三本投ゲ渡シ兩端ハ枕木ニ録リ以テ取り付ケ松敷板ヲ板巾毎ニ共折釘二本ヅ、打チ堅メ桁ニ取り付ケ橋面左右ニ猿頭高欄木ヲ取り付ケ手摺ノ代用トス、總テ掛員ノ指揮ニ從ヒ入念ニ出來ス可シ、後チ橋面ヲ除クノ外凡テ(コールタ)ヲ二回以上塗ル可シ但シ取付後塗リ難キ所或ハ二ケ以上相重ナル處ハ當初塗リ置ク可シ

一、粘土使用方法ハ適度ノ水量ヲ撒布シ充分ニ之ヲ踏煉リ厚サ五寸以内毎ニ之ヲ打チ込ミ充分ニ突キ堅ム可シ

但シ地底ノ部分ニアリテハ一層毎ニ砂利ヲ敷キ均シ再ビ之ヲ突キ堅ム可シ、地底ハ總テ粘土ヲ入ル、前充分之ヲ突キ堅ム可シ、但シ粘土混用砂利ハ徑二寸五分位

一、結成石、人造石及ビモルタル等ノ諸材料ノ調合ハ主任技師ノ定ムル所ニ從フ可シ

一、(モルタル)ハ(セメント)及ビ砂ヲ正確ニ量リ乾燥ノ儘ニ充分ニ混ぜ合セ兩種ノ同一色ヲ呈スルニ至リ掛員ノ検査ヲ受ケテ後チ徐々ニ水ヲ注ギ充分ニ攪拌ス可シ

一、結成石ハ砂利ヲ煉臺上ニ置キ濕氣ヲ帯ビシメ其上ニ(モルタル)ヲ置キ少クモ四回以上切交セタルモノタル可シ

一、結成石ノ築造ハ之ヲ充分ニ突キ堅メ其表面ニ水氣ノ顯ハル、ヲ以テ程度トス

一、結成石ハ厚サ五寸以内毎ニ充分之ヲ突キ堅メ特別ノ場合ヲ除クノ外一回ニ二尺以上ノ築造ヲ爲ス可カラズ且ツ一回ノ築造ヲ終リタル後十二時間ヲ經過スルニアラザレバ之ニ次層ヲ加フ可ラズ

一、結成石ノ築造物ハ流水ノ接スル部分及ビ露出ノ部分ハ(モルタル)ヲ以テ被包ス可シ

一、人造石製作方ハ先ヅ圖面ニ依リ精確ニ遺形ヲ置キ一層毎ニ水繩ヲ張り表積ミヲナシ同一層ハ必ず同一平面内ニアル様ニス可シ、中埋煉瓦ヲ置クトキハ芋目筋ニナラザル様ニ先ヅ三・四尺毎ニ一通リヅ、並ベテ後チ丁寧ニ中埋ヲ施行ス可シ、疊積ノトキハ決シテ水ヲ以テ(モルタル)ヲ流シ込ミ又ハ隨意ニ(モルタル)中ニ水ヲ注入スル等粗漏ノ積方ヲ爲スヲ許サズ

一、煉瓦ハ疊積前ニ充分浸水シテ外部ノ水滴ノ切ル、ヲ待ツテ疊積ス可シ

假令浸水セルモノト雖モ乾燥セルト認メルモノハ再ビ浸水セシム可シ

一、棋架ハ煉瓦又ハ結成石ヲ積ミ終リタル後掛員ノ許可ナクシテ之ヲ取放ツ可カラズ

- 一、煉瓦疊積就業ノ終リニハ表面目地ヲ五分深サニ洗ヒ出シ置キ後チ目地塗リヲナス可シ
- 一、冬日ニ於テハ煉瓦疊積並ニ結成石製造時間ヲ午前十時ヨリ午後三時迄トシ氷結ノ恐レアルトキハ全ク休業セシムルコトアル可シ、但シ氷結ノ恐レアルニ拘ラズ施行セシムルトキハ左ノ方法ニ依ル可シ
華氏三十二度ノ日ニ在リテハ水一斗ニ付キ巖鹽二十七匁ノ割合ヲ混合シタル水ヲ以テ(モルタル)ヲ煉ル可シ
但シ三十二度以下ナルトキハ一度下ル毎ニ巖鹽一匁七分ヲ之ニ加入ス可シ
但シ右ノ場合ニ於テ疊積シタル煉瓦工ノ目塗ハ春暖時之ヲ施ス可シ
- 一、煉瓦工及ビ結成石ハ其築造後氷結又ハ早乾セシメザル様殊ヲ以テ之ヲ丁寧ニ蔽フ可シ
- 一、石材ハ總テ掛員ノ指揮ニ從ヒ別紙圖面ノ通り露出部ハ上小叩トシ下端、合端及ビ煉瓦付キ共凹凸ナク切合セ合端ハ三寸以上小叩トス可シ
- 一、石材ハ總テ掛員ノ指定アレバ鐵部取り付ケボールド穴或ハ制水摺戸差込ミ溝ヲ掛員ノ指揮ニ從ヒ彫取ル可シ
- 一、石材据付ケニ於テ小石ハ(モルタル)ヲ敷キ置キテ据エ付ケ大石ニ於テハ楔ヲ以テ假リニ所定ノ高サニ定置シ四周ヨリ(モルタル)ヲ注ギ込ミ充分周到スル様ニ填充ル可シ
- 一、石材ノ目地ハ總テ二分ニシテ下端、合セ共(モルタル)ヲ入念詰メ堅メタル上目地ヲナス可シ
- 一、石材ハ泥土ノ附着セルモノハ總テ丁寧ニ洗ヒ落シ検査ヲ受ケテ後使用ス可シ
- 一、土管敷設ハ別紙圖面ノ如ク敷設ノ後結成石ヲ卷キ立ツ可シ
- 一、土管ハ成ル可ク一直線ニナル様ス可シ
- 一、土管ハ互ニ能ク合フ様ナス可シ

- 一、接合ケ所ヨリ漏水セザル様ナス可シ
- 一、土管ヲ接合スルニハ上等ノ(セメント)モルターヲ用フ可シ
- 一、接合物が管内ニ出デザル様先ヅ麻ノ如キモノヲ詰メ後(モルター)ヲ用ユ可シ
- 一、捨土臺木ハ八寸合搔ギトシテ込栓止メトナス可シ
制水内摺戸及ビ左開閉臺木ハ四方面上鉋削ニシテ摺戸ハ實ハギトシ附屬鐵具ヲ取り付ク可シ又臺木ハ兩端部ニ圖面ノ通り隙穴ヲ彫明ス可シ
- 一、桁及ビ枕木ハ荒鉋仕上ニシテ桁ノ兩端懸掛ケニシテ枕臺木ニ取り付ケ尙鋸ヲ以テ打チ堅ム可シ
- 一、敷板ハ表面上鉋削トシ三方面ハ荒仕上トシ板合端ハ鋸摺リトシ充分堅メ寄セタル後板中へ二本ヅ、ノ割ニテ欠折釘ヲ以テ打チ付ケ掛員ノ検査ヲ受ケ指揮ニ從ヒコールタ二回以上塗リ立ツ可シ
- 一、猿頭高欄木ハ四方面共鉋削ニシテ取付ク可シ

沈澄池築造工事仕様書

- 一、沈澄池ハ其數二個ニシテ一個ノ大サハ長サ九十尺幅六十尺トシ水ノ深サヲ引キ入レ口ニ於テ十三尺五寸引出口ニ於テ八十四尺トシ水而以下十二尺ヲ以テ使用ノ水量トシ其以下ヲ泥溜トセリ
- 一、沈澄池ノ構造ハ敷詰共ニ粘土ヲ厚サ一尺五寸ニ打チ上ゲ敷ハ粘土ノ上ニ厚サ八寸ノ結成石ヲ施シ法ハ厚サ七寸ノ人造石ヲ張り大玉石若クハ割栗石ヲ使用シテ其裏詰トナシ且ツ張石ノ間隙一ハ(セメントモルタル)ヲ以テ目地

整リトス

- 一、沈澄池ノ水源ハ導水路ヲ池ノ附近ニ築造シ夫レヨリ徑十吋ノ鐵管ヲ以テ其池ヘ引キ入ル、モノトス、其引キ入レ口ヨリ以下池ノ詰リテ溝形ニ法リ且ツ水勢ノ爲メ其破壊ヲ來サザラシメン爲メ池底ニ約十尺ノ間幅四尺ノ張石ヲナセリ而シテ導水路ヨリ沈澄池ヘ引キ入レ口ニ於テハ差シ蓋ヲ下シ何時ニテモ水ノ流入ヲ防止シ得ルモノトセリ
- 一、池澄池ノ引出口ハ内徑十吋ノ鐵管ヲ直立セシメ其水面以下三段ニ口ヲ設ケ何レノ口ヨリスルモ水ヲ引キ得ルノ裝置トセリ、又之ニ並行シテ同一ノ堅直管アリテ其上部ニハ溢流管ヲ設ケ池水面ヲシテ一定ノ水位以上ニ昇登セシメズ其下部即チ池底ニ於テ引キ出シ口ヲ設ケ池ノ掃除ヲナストキ之ヲ開放シテ池水ヲ悉ク放棄シ得ルモノトシ而シテ之等兩堅直管ニ棧橋ヲ架シ引出口開閉ノ便ニ供スルモノトス
- 一、圖面ニ表シタル如ク掃除管ハ其引出口ヨリ下流ハ悉皆土管ヲ使用スルモノトナスニ依リ前記土管材料ノ部ニ規定セル上等ノ陶管ニ使用シ且ツ其接合ニハ(モルタル)ヲ使用スルノ外尙結成石ヲ以テ其全部ヲ包被スルコト緊要ナリトス、而シテ其終點ハ地形上現在谷川ノ下流ニ入ルモノトス
- 一、沈澄池ノ底ハ其引キ入レ口ヨリ引キ出シ口ニ向ヒ五寸勾配ヲ付シ法勾配ハ一割二分トス、而シテ馬踏ミニ於ケル高サハ海面上三百十三尺トシ最高水面ハ同三百十尺池底ハ其引入口ニ於テ二百九十六尺五寸引キ出口ニ於テハ二百九十六尺トナセリ
- 一、掘鑿別紙圖面ニ示ス如ク周圍法及ビ池底ニシテ該土ハ堤防上指定ノ場所ニ運搬ヲナシ充分切崩シタル上厚サ五寸以內ニ敷キ均シ水入レ大(ローラ)ヲ以テ締メ堅メヲナス可シ
但シ土質乾燥ノ場合ニ於テ一層毎ニ撒水突キ堅メヲナス可シ

- 一、工事着手ノ順序ノ方法ハ掛員ノ指揮ニ從ヒ掘鑿土ヲ以テ盛土ヲナシ其一部分所定ノ程度ニ達シタル上漸次土張石ノ工事ニ着手ス可シ
但シ盛土ニ於テハ充分(ローラ)ヲ以テ締メ堅メヲナス可シ茲ニ記載ノ外ハ總テ水源池土工ノ項目ヲ適用ス

- 一、粘土工ハ前記水源粘土工ノ項目ニ準ズ
- 一、結成石ハ水源池ニ準ズ
- 一、人造石ハ露出ノ面ハ掛員ノ指定ニ從ヒ上等ノ(モルタル)ヲ以テ上塗リシ又合端ハ目地塗リヲナス可シ其他ハ水源池ニ準ズ
- 一、石材掘付ハ水源池工事ノ項目ニ準ズ
- 一、張石ハ胴摺合セテ能クシ長短取り交ゼ合切レニナラザル様張立ツ可シ
- 一、(モルタル)及ビ結成石製造ノ割合ハ主任技師ノ指揮ニ從フ可シ
- 一、土管敷設ハ水源池ノ項目ニ準ズ
- 一、掃除樹ハ正確ナル遺形ヲ設ケ總テ掛員ノ指揮ニ從ヒ入念出來ス可シ
- 一、煉瓦疊登法ハ總テ主任技師ノ指揮ニ從ヒ水源池ノ項目ニ準ズ可シ
- 一、引入口及ビ引出口鐵管押入ノ處ハ圖面ノ通り石材ヲ切り欠ギ彫取ル可シ
- 一、ボールド其他鐵具ヲ取り付ケル處ハ掛員ノ指定ニ從ヒ彫取ル可シボールド穴ハ鉛ヲ以テ詰メ堅ム可シ
- 一、水門工事ハ水源池項目ニ準ズ
- 一、引入口、引出口鐵管敷設及ビ其他本仕様書ニ記載セザルモノト雖モ總テ掛員ノ指揮ニ從ヒ施行ス可シ

濾過池築造工事仕様書

- 一、濾過池ハ其數三個ニシテ其大サハ各池共長サ五十六尺幅四十四尺深サ九尺ナリ
- 一、濾過池ノ構造ハ敷粘土厚サ一尺五寸トシ其上ニ結成石厚サ八寸ヲ打チ上ゲ法勾配ハ一割ニシテ粘土厚サ一尺五寸ノ上ニ結成石厚サ八寸ヲ打チ其上ニ人造石厚サ七寸ヲ以テ張石ヲナスモノトセリ、又引入口ニハ自働停水弁ヲ設ケ以テ池水面ヲ常ニ一定ノ高サニアラシムルノ設計ナリ且引出口ヲ二個ニ區劃シ其前而ノ出口ニハ自由口下シ得ル鐵板(直角三角形ノ缺所アルモノ)ヲ設ケ之ヲ越エテ流ルル水高ニ依リテ水量若クハ濾過速度ヲ測知スルノ裝置トセリ、其鐵板ニ接シテ一ノ摺動扉アリテ濾過池掃除ノ際池水ヲ放棄スルカ若クハ掃除後淨水ヲ逆流セシムルニ使用ス、又後面ノ出口ニ摺動扉二個アリテ其一個ハ濾過水ヲ淨水池ニ送致スルカ若クハ掃除後他ノ池ヨリ淨水ヲ逆流セシムルノ用ニ供シ他ノ一個ハ掃除ヲナス場合ハ掃除後ニ於テ一日乃至二日間濾過水ヲ放棄スルニモ又使用スルモノトス
- 各濾過池ニ各一個ノ溢流管ヲ設置ス排水管ハ沈澄池ノ土管ト相合シテ下流ニ注グモノトス
- 一、濾過池ハ引入口ヨリ引出口ニ向ヒ二寸ノ勾配ヲ付シ其水面ハ海面上二百九十六尺ニシテ底面ハ同二百八十九尺ナリ、而シテ引入口ヨリ引出口ニ向ヒ幅八寸高サ六寸ノ導水溝ヲ設クルモノトス、其溝測ハ穀積ノ煉瓦ヲ用ヒ蓋ハ厚サ三寸ノ花崗石ヲ使用スルモノトシ而シテ敷全面ニ三寸乃至六分目篩ヒノ砂利ヲ二尺厚サニ約三層ニ入レ其大ナルモノヲ下層トシ順次小ナルモノニ至ル而シテ其上ニ細砂ヲ二尺厚サニ入ルモノトセバ水ノ深サハ全ク三尺ナリトス

- 一、濾過池周圍及ビ底ヨリ掘鑿シタル土砂ハ埋立ニ使用スベキ土積ノ外ハ掛員ノ指揮ニ從ヒ一時他ニ運搬積立テテナリトス
- 一、埋立テニ用ユル土質ハ木根石類ヲ含有セザル可成赤土ヲ以テ埋立テ一尺層毎ニ充分之ヲ突キ堅ム可シ
- 一、濾過池ノ堤防トナル可キ所ニ使用スル土ハ充分能ク切り崩シタル後厚サ五寸以内ニ敷キ均シ水入レ大(ローラ)ヲ以テ締メ堅メテナス可シ

但シ土質乾燥ノ場合ニ於テハ一層毎ニ撒水突キ堅メテナス可シ

- 一、工事着手ノ順序方法ハ能ク掛員ノ指揮ニ從ヒ施行ス可シ
- 一、總テ工事ハ検査済ノ上ニアラザレバ決シテ埋設ス可ラズ
- 一、粘土工ハ水源池ノ項目ニ準ズ
- 一、結成石ハ水源池同項ニ準ズ
- 一、人造石ハ水源池同項ニ準ズ
- 一、石材ハ水源池同項ニ準ズ
- 一、煉瓦工ハ水源池同項ニ準ズ
- 一、土管敷設ハ水源池同項ニ準ズ
- 一、濾池ノ導水路ノ濾砂利及ビ濾砂等ノ配置順序方法等ハ掛員ノ指揮ニ從フ可シ
- 一、淨水井戸、阻水弁室、掃除機、水溜及ビ自働停水弁室等ノ築造及ビ附屬物並ニ金具取付等ニ總テ掛員ノ指揮ニ從

ヒ入念出來ス可シ

- 一、引入口及ビ引出口鐵管敷設並ニ附屬物取付ケ順序方法等ハ是亦掛員ノ指揮ニ從フ可シ

淨水池築造工事仕様書

- 一、淨水池ハ其數二個ニシテ大サハ各池共ニ長サ四十二尺幅二十七尺深サ十二尺ニシテ其上部ハ棋ヲ以テ包被セリ、又常ニハ二個共ニ使用スルモ掃除ヲナス場合ニハ一個ヲシテ使用スルコトアリ、而シテ其引キ出シ口ニハ人孔ヲ設ケテ掃除ノ際池中ニ出入シ得ルノ便ニ供セリ、棋上ニハ總計二十四ヶ所ノ空氣抜キ若クハ掃除ノ場合ニ於ケル明リ取りヲ設クルモノトセリ、淨水池ノ掃除管ハ沈澄池及ビ濾過池ノ掃除管等ト相合シ下流ニ入ル
- 一、淨水池ノ構造ハ敷粘土厚サ一尺五寸ノ上ニ結成石八寸ヲ打チ周圍壁及ビ中壁共表面ハ煉瓦積ニシテ其他ハ總テ結成石ヲ以テ築造スルモノトシ導流壁ハ煉瓦二枚積トセリ、淨水池ノ棋上ニハセメント一、砂二、ノ（モルタル）ヲ五分ノ厚サニ塗り雨水ノ滲入ヲ防グモノトス、且ツ棋間ノ凹處ニハ砂利ヲ入レ自然滲透セル雨水ヲ周圍ノ壁外ニ流出セシムルモノトス
- 一、淨水池ノ棋上ニハ約厚サ三尺ノ盛土ヲナシ以テ池水ヲ常ニ清淨ニ保ツノ便アリトス、各淨水池ニ各一個ノ溢流管ヲ設置スルモノトス、淨水池ノ底ハ引入口ヨリ引出口ニ向ヒ二寸ノ勾配ヲ付シ掃除ノ便ニ供シ其水面ハ二百八十八尺ニシテ水ノ深サ十二尺ナリ
- 一、掘鑿シタル土砂ハ掛員ノ指揮ニ從ヒ一部ハ指定ノ場所へ運搬引キ均シ一部ハ指定ノ場所へ一時積置キ追テ埋立テニ使用ス可シ

ニ使用ス可シ

- 一、埋立テニハ木根又ハ大石等ニ含有セザル赤土ノミヲ以テ之ヲナシ一尺層毎ニ充分之ヲ突キ堅ム可シ但シ時宜ニ依リテハ撒水セシムルコトアル可シ
- 一、掘鑿ノ深幅勾配等ハ掛員ノ指定スル所ニ依ル可シ
- 一、總テ工事ハ掛員ノ指揮ニ從ヒ施行シ検査済ノ上ニアラザレバ決シテ之ヲ埋設ス可ラズ
- 一、粘土工ハ前記水源池ノ項目ニ準ズ
- 一、結成石ハ前記水源池ノ項目ニ準ズ
- 一、煉瓦工ハ前記水源池ノ項目ニ準ズ
- 一、石材工ハ前記水源池ノ項目ニ準ズ
- 一、土管敷設ハ前記水源池ノ項目ニ準ズ
- 一、人孔室ハ供ヲ卷キ立ツルトキ同時ニ施行シ距離一尺毎ニ徑六分長サ二尺六寸内爪長サ八寸ヅ、壁中ニ埋メ込ミ出來シ梯子ノ代用トス
- 一、淨水引キ出口及ビ掃除口ニ別紙、圖面ノ通り掛員ノ指揮ニ從ヒ制水摺動扉並ニ同附屬物等ヲ取り付出來ス可シ
- 一、棋上排水用置キ砂利ハ掛員ノ指揮ニ從ヒ施行ス可シ
- 一、通風管ハ別紙圖面ノ通り内徑八寸土管ヲ煉瓦棋ニ差シ込ミ頂部ニ（トタン）製ノ覆ヒ蓋ヲ付スルモノトス
- 一、供架ハ煉瓦ヲ積立テ終リタル後ニ於テモ掛員ノ許可ナクシテハ之ヲ取外ス可カラズ
- 一、結成石ノ築造ハ厚サ五寸毎ニ充分ニ之ヲ突キ堅メ其表面ニ水氣ヲ顯ハルルヲ以テ定度トス

- 一、淨水池周圍壁後部ハ掛員ノ指定ニ從ヒ多少ノ割栗石ヲ結成石中ニ混入スルモノトス
- 一、煉瓦石棋ノ外面及ビ各棋間ノ結成石ノ表面ハ厚サ五分ノ（モルタル）ヲ以テ被包ス可シ
- 一、淨水引キ出、排水及ビ掃除用、鐵管並ニ異形管等ハ掛員ノ指揮ニ從ヒ煉瓦及ビ結成石中へ（モルタル）ヲ以テ埋メ込ム可シ
- 一、淨水池築造物全部終リタル棋上ニ厚サ三尺ニ土ヲ覆ヒ突キ堅メ然ル後其全面ニ張芝ヲナス可シ
- 一、芝ハ長幅共一尺厚サ二寸ノ芝ヲ伏セ一枚ニ付目串五本打チトス
- 一、本仕様書ニ記載ナキモノト雖モ總テ掛員ノ指定ニ從ヒ施行ス可シ
- 一、工事ニ要スル諸材料ノ内當水道局ヨリ交附ス可キ物品ハ現場へ運搬ノ上使用ス可シ、物品渡シ濟ノ上ハ運搬其他ノ爲メ毀損等ノ生ジタルトキハ請負人ニ於テ辨償ス可シ
- 一、人造石製作用形粹ハ請負人ノ負擔トス
- 一、張石其他工事ニ要スル遺形材料ハ請負人ノ負擔トス
- 一、掛員出張ノ爲メ箱番屋ヲ設置ス可シ
- 但シ番小屋ハ九坪以上ニシテ内六坪ハ掛員詰所ニシテ三坪ハ番人ノ住居トス
- 但シ掛員詰所ハ床ヲ板張トシ三方ニ（ガラス）窓ヲ設ケ一間ノ押入ヲ付スルモノトス
- 一、足場ノ登足場板、結成石及ビ（モルタル）製造用練舟、練臺、遺形、棋架粹人造石形粹其他ノ施行ニ要スル器具物品並ニ本工事施行ノ爲メ要スル水替水吐路其他ノ假工事ハ凡テ請負人ノ負擔タル可シ

熱海町水道工事一部變更書

- 一金貳千九百拾壹圓貳拾八錢也
- 一金貳千六百五拾五圓參錢也
- 一金貳百五拾六圓貳拾五錢

舊設計分
新設計分
差引減額

内 譯 舊設計即チ變更ノ爲メ減分

- 一、沈澄池周圍法面人造石張石
 - 此平積 參百四拾貳坪八合
 - 此立積 四 拾 坪
- 一、濾過池周圍法面人造石張石
 - 此平積 百五拾貳坪參合
 - 此立積 貳拾坪參合
- 一、濾過池張石裏結成石 厚サ參寸減シ
 - 此立積 九 坪

工 費 内 譯

設計篇	名稱	員數	方法	單價	全額	摘要
設計篇	洗砂利	六九、三	立坪	一七、〇〇〇	一、一七八、一〇〇	
	砂利	三四、七	切	一四、〇〇〇	四八五、八〇〇	
	石灰	一、二四七、四	人	〇、三〇〇	三七四、二二〇	
	左官	四九五、一	人	一、〇〇〇	四九五、一〇〇	
	同手	四九五、一	人	〇、六〇〇	二九七、〇六〇	
土方	一三五、〇		〇、六〇〇	八一、〇〇〇		
計					二、九一一、二八〇	

新設計即變更ノ爲メ増加ノ分

内譯

- 一、沈澄池周圍法而割石ノ積 但池ノ中央ヨリ以下底迄ニシテ合口ト口遣ヒ
- 此總平積 百四拾五坪八合
- 一、沈澄池周圍法而角石張 但池中央ヨリ上馬踏面ヨリ以下二尺ノ處迄合口ト口遣ヒ
- 此總平積 百參拾七坪九合
- 一、濾過池周圍法而煉瓦石 厚サ半枚張
- 此總平積 百六拾壹坪參合

設計篇	名稱	員數	寸法	單價	全額	摘要
設計篇	相州産堅石割石	一五八坪	面尺二寸以上	一五、〇〇〇	二、八七〇、〇〇〇	
	同角石	一三、九	長二尺巾一尺厚七寸	五、〇〇〇	六九、五〇〇	割石ハ厚サ平均二寸調合一、五ノ割
	膠泥	立坪六六		一五、〇〇〇	九、〇〇〇	角石ハ容積一分調合一、五ノ割
	上燒過煉瓦石	三、九三	立坪	〇、二〇〇	七八、八〇〇	
	洗砂	立坪二六		一四、〇〇〇	三、六〇〇	煉瓦積用調合一、三ノ割
	セメント	立坪四一		當局渡シ	三、〇〇〇	
	煉瓦職	立坪一		一、二〇〇	三、六〇〇	煉瓦積千個ニ付二人掛リ
	同手	立坪一		〇、六〇〇	三、六〇〇	同三九、一九二個分
	石工	立坪一		〇、九〇〇	三、三〇〇	煉瓦工一人ニ付二人掛リ 同工七十八人分
	石工	立坪一		〇、九〇〇	三、三〇〇	割石ノ積平一坪ニ付一人掛リ
	同手	立坪一		〇、六〇〇	三、三〇〇	一角石積平一坪ニ付二人掛リ 一三七、九分
雜費				〇、六〇〇	石工一人ニ付一人掛リ 同四百二十一一人六分	
計					二、九一一、二八〇	

熱海水道工事一部變更ヲ被命候ニ付テハ總テ本工事仕様書及契約條件ニ從ヒ別紙内譯書ノ金額ニテ相違ナク出來可
致候依テ爲後日内譯書差出候也

明治四拾貳年貳月拾八日

静岡縣富士郡田子浦村五貫島七拾七番地

水道工事
請負人 齋藤和作 圖

田方郡熱海町長 梅原音松 殿

認可申請及認可

認可の申請及指令

かくて一切の準備完了し明治三十九年二月敷設認可申請をなし同年七月十二日時の内務大臣原敬氏の名に依つて認
可され同四十一年四月十五日工事準備に掛り同年五月三日起工された。

内務省三靜丁第一二三號

静岡縣田方郡

熱海町



明治卅九年七月拾貳日付熱工第七六三號水道敷設稟請ノ件水道條例第參條ニ依リ認可ス

明治四拾年參月五日

内務大臣 原

敬 園

四拾壹年四月拾五日工事着手届出セリ

熱工第七六三號

水道敷設認可稟請

今般水道條例ニ依リ本町ニ水道ヲ敷設致度候條御認可相成度別紙關係書類相添此段稟請候也

明治卅九年七月拾貳日

静岡縣田方郡熱海町長 前 田 勝 次

内務大臣 原

敬 殿

議第二六號

水道布設ニ關スル議決

第壹條

熱海町ニ水道條例ニ依リ水道ヲ敷設ス

水道敷設區域ハ熱海町地内トス

設計篇

- 第貳條 水道敷設ノ事業ハ明治卅九年四拾年兩年度ニ於テ實施ス
- 第參條 水道敷設ニ要スル費用ハ町費ヲ以テ之ヲ支辨ス
- 第四條 前項ノ町費ハ公債ヲ募集シテ之ニ充ツ
- 第五條 水道徵收等ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

明治卅九年七月拾日

熱海町長 前田勝次

水道敷設事業目論見書

- 一、水道事務所ノ所在地
靜岡縣田方郡熱海町熱海二百三十一番地熱海町役場内
- 二、水源ノ位置及其水量ノ概算
水源ハ靜岡縣田方郡熱海町伊豆山宇土澤地内ヨリ湧出スル溪流ニシテ其周圍ハ人家遠隔ナル山野ナリ
水量ハ最低水位ニ於テ一秒時〇六立方尺ナリ
但別紙圖面及水質分析表ヲ添付ス
- 三、水道線路及水道線路ニ沿フタル地名貯水池濾水場唧水場ノ位置
靜岡縣田方郡熱海町伊豆山宇土澤水源池ヨリ同町熱海字山田同所字來宮ヲ經テ熱海市内ニ入ル
熱海町熱海字來宮ニ貯水池及濾水場ヲ設置ス

唧水場ハ必要ナキニ依リ設置セズ

但別紙圖面表示ノ通り

- 四、給水ノ區域其人口及其一人一日ニ對スル平均給水量
給水區域ハ熱海町熱海ノ内溫泉場區域内及其附近トス
給水區域内ニ於ケル現在人口並浴客共約五千人ニシテ其一人一日ニ對スル平均給水量ハ三立方尺トス
- 五、人口増殖及多量ノ水ヲ用フル製造場等ニ對スル給水量増加ノ見込
毎年人口ノ増殖ト浴客ノ増加トヲ合セ二百人以上ノ増加トナルベシ、其他旅店等多數ナルヲ以テ現在人口ト將來増加スベキ見込人員トヲ合セ約八千人ニ供給シ得ベク計畫セリ
- 六、水壓ノ概算
水頭 二百尺
- 七、工事方法
鐵管敷設工事ニシテ其詳細ハ設計書ニ於テ説明ノ通り
工事施行ノ方法ハ競賽入札ヲ以テ請負ハシメ經驗アル技術者ヲシテ之ヲ監督セシム
- 八、起工竣竣工期限
明治三十九年度ニ於テ材料購入ヲ了シ同四十年年度ニ於テ工事ニ着手シ同年度内ニ完成セシム
- 九、工費ノ總額其收入支出ノ方法及其豫算
工費總額金七萬五千圓ニシテ其收入支出ノ方法豫算ハ別紙ノ通り

十、水料ノ等級、價格、水料徴收ノ方法及經常收支ノ概算
別紙ノ通り

右ノ通有之候也

明治三十九年七月十二日

静岡縣田方郡熱海町長 前田勝次

資金調達

起債許可申請

明治三十九年當時の静岡縣知事李家隆介氏の斡旋により熱海町水道公債は全部日本興業銀行で引受けて呉れる事になった、發行された公債はすこぶる大形な用紙であつた。

追加起債

七萬五千圓の起債を仰いで工事に着手したものの七分通り出來上つた頃豫算工費をつかひ果して工事を續行する事が不可能に陥つて了つた。

そこで當局者は設計者岡田技師を呼び事情を調査した所が工事費が無くなるのが當然で實は最初からこの工事は九萬三千圓要する豫算になつてゐたのにかゝはらず、七萬五千圓ではじめた爲めそこに無理があつたのだとわかつた。それは起債七萬五千圓以上は償還方法がつかない爲それ以上の起債が出來なかつた爲めである。そこで理事者は當時の静岡縣知事李家氏の所へ設計書を持參して右の如き事情であるから二萬五千圓の追加起債を是非共願ひたいと陳情に行つた。知事も今更困つて兎に角農工銀行に電話をかけて起債の便宜を與へてくれるやう話してくれた。銀行では償還方法をさへたてば出してやるといふので大いに喜び早速三ヶ年以内の償還方法を考へて書類の作製をした、その方は大要次の如き案であつた。

- 一、特別税電柱税により電柱一本に付一ヶ年壹圓づゝ税を徴する事
- 一、浴客人頭税による事

所が町會で右の案を決議したら旅館側から反對が起りいろ／＼接衝の結果浴客人頭税の代りに旅館組合から寄附金の形式で毎年二千二百圓づゝ寄附する事になつて落着した。この案は舞欣院で豫算會を開いて決定を見たのであつたが相當に紛糾した不意な電柱税には駿豆電氣會社も驚き狼狽したやうであつたが此の税だけでも年に四五百圓は徴收出來た。

かくの如く水道の最初の償還には當事者の苦心は慘憺たるものがあつた。

この時代の町長は前田勝次氏で工事が仕上つて後には石渡要吾氏が町長になり殘務の整理に當つた。

起債借替

公債の償還方法は均等償還で償還に就ては中々苦心を要した。この起債は利子も高かつたので石渡町長時代當時熱海に見えた安田善次郎翁に話し安田銀行より十萬圓を六分八厘で借替へる事に成功した。最初安田銀行には六分で申込んだ所當時日本の金利は平均六分八厘で七分なら借すといふのを再三交渉して遂に六分八厘で話しが決定した。この借替には兩宮敬次郎氏が安田氏と縁が深かつたので大變盡力してくれた。

當時市町村水道のあつたのは四ヶ所だけで市なら補助が交附されるのに町であつた爲補助は一切なかつた。

水道敷設ノ爲メ起債之儀ニ付稟請

今般當町ニ於テ衛生上必要ト認メ水道條例ニ依リ水道敷設ノ計畫有之候處該敷設費ヲ支辨スルノ資力無之ニ付不得止低利ナル二十ヶ年賦償還ノ方法ニ依リ起債ノ上起業致度就テハ水道敷設トシテ金七萬五千圓株式會社日本興業銀行へ借入ノ申込ヲ致度希望ニ有之候特別ノ御詮議ヲ以テ借入ノ手續可然御取計相成度別紙理由書及關係書類相添此段稟請候也

明治三十九年五月十八日

田方郡熱海町長 前 田 勝 次

静岡縣知事 李家隆介殿

理 由 書

熱海町ノ儀ハ古來温泉場ヲ以テ其名中外ニ亘リ長クモ宮内省 御用邸ノ御建設アリ東西貴顯紳士ノ來遊スルモノ外人ノ觀光杖ヲ曳クモノ日ニ月ニ増加シ近來ノ浴客ハ年々其數二十萬ヲ下ラズ現今客舍ノ設備其他通信機關等完備シ概シテ間然スル所ナキガ如シト雖モ衛生上最モ必要ナル飲料水ノ粗惡ニシテ未ダ以テ之ガ改良ヲ爲スコト不能ハ甚ダ遺憾ナリトス、抑モ飲料水ノ良否ハ直接人命ニ關係ヲ有シ一日モ忽諸ニ付スベカラザルヲ以テ之ガ改善ヲ圖ルハ頗ル急務ノコト、信ズ依テ今回水道條例ニ依リ熱海温泉場ニ水道ヲ敷設シ衛生上ノ發達ヲ圖リ以テ土地ノ繁榮ヲ期セントスルニ在リ而ルニ水道敷設ニ要スル工費ハ頗ル多額ニシテ到底他ニ支辨ノ方法無之不得止町債ヲ起シテ施工シ低利ナル二十ヶ年賦償還ノ方法ヲ設ケ受給水者及客數割等ニ依リ水料ヲ徴收シテ償還ノ財源ニ充ツベキ見込ナリ故ニ水道敷設工事實トシテ株式會社日本興業銀行へ借入申込ノ手續ヲ稟請スルニ在リ

右之通ニ候也

明治三十九年五月十八日

田方郡熱海町長 前 田 勝 次

起債ニ關スル調書

一、起債ノ要領

起 債 額 金七萬五千圓

設 計 篇

起債ノ目的 水道敷設費
 起債ノ方法 借入金
 利息ノ定率 年六朱五厘乃至七朱
 償還ノ方法 明治四十一年度ヨリ二十ヶ年賦毎年十二月償還
 償還ノ財源 受給水者ヨリ徴收スル水料ト浴客數ヲ標準トシテ宿屋營業者ニ別ニ賦課スル客數割トヲ以テ之ニ充ツ
 償還終了ノ期限 明治六十一年十二月二十日
 備考

二、償還年次表

自明治四十一年度均等償還ニ依リ元利金ヲ償還スルモノニシテ別表ノ通
 至同 六十年度均等償還ニ依リ元利金ヲ償還スルモノニシテ別表ノ通
 右之通 候也

明治三十九年五月十八日

田方郡熱海町長 前 田 勝 次

水料收入豫算書

一金九千圓也

收入總額

内 譯

一金六千圓也

給水料

但一家専用給水一口ニ付平均貳拾四圓ヅ、貳百口分

金四千八百圓共同給水一口ニ付平均貳拾四圓五拾口分

壹千貳百圓壹ヶ年分豫算

一金參千圓也

客數割

但一ヶ年浴客數貳十萬人ト見積リ之ヲ標準トシテ浴客一人ニ付壹錢五厘ヲ各宿屋營業者ニ賦課ス

右之通 候也

明治三十九年五月十八日

田方郡熱海町長 前 田 勝 次

水道敷設費豫算書

一金七萬五千圓也

總工費

内 譯

金壹千參拾八圓五拾錢也

水源池水路及鐵管線路費

金六千八百參拾九圓也

水源池土工費

金九千九百六圓六拾四錢也

沈澄池築造費

金九千貳百八拾七圓九拾八錢也	濾過池築造費
金六千六百六拾九圓拾四錢也	淨水池築造費
金貳萬壹千七圓五拾錢也	鐵管其他附屬品費
金壹千七百壹圓七拾五錢也	鐵管其他敷設費
金五千六百五拾圓也	家屋建築費
金七百參拾圓也	測量製圖費
金壹千五百五拾圓也	諸材料試驗費
金七百圓也	器具器械費
金六千五百八拾四圓也	工事監督費
金三千三拾五圓四拾九錢也	豫備費
右之通候也	

明治三十九年五月十八日

田方郡熱海町長 前 田 勝 次

熱議第七六二號

起債許可稟請

水道事業費支辨ノ爲メ起債ノ件本町會ニ於テ議決致候ニ付町村制第二百一十六條ニ依リ許可ヲ乞フ

明治三十九年七月十二日

靜岡縣田方郡熱海町長 前 田 勝 次

內務大臣 原 敬 殿

大藏大臣 法學博士 坂 谷 芳 郎 殿

理 由 書

本町ニ於テ起債ヲ要スル熱海溫泉場區域内ニ水道ヲ敷設シ飲料水常用水ノ改善ヲ圖ルニ刻下ノ急務ナリト認メ水道事業ヲ起サントスルモ之レガ敷設費ヲ支辨スルノ資力ナキニ依リ不得止公債ヲ發行シテ之ニ充テ十五ヶ年賦ヲ以テ償還ニ充ツベキ財源ハ各受給水者ヨリ徵收スル水料ヲ以テ充當セントスルニ在リ

水道敷設ヲ必要トスル要領

當熱海溫泉場區域内及其附近ハ一帶ニ地下鑛泉ニシテ井ヲ穿鑿スルモ種々ノ成分ヲ混ジ到底飲料ニ適スル水質ヲ求ムルコトヲ得ズ不得止從來山間ノ溪流ヲ求メ需用者共同シテ遠距離ヨリ竹樋ヲ連繫シ不完全ナル設備ニ依リ僅カニ飲料水ノ供給ヲナシツ、アルモ降雨ノ際ハ忽チ混濁シテ泥水ト變ジ更ニ使用スルコト不能且雨天ノ爲メ溪流ノ少シク汎濫スル時ハ汚物塵芥ノ流下シテ樋ヲ壓塞シ全ク斷水スルコト頻々タリ當溫泉場ノ如キハ内外人ノ多數來浴スル地ニシテ如斯飲料水ノ粗惡ナルハ衛生上頗ル憂慮ニ堪ヘズ、殊ニ療養ヲ目的トスル浴客ヲシテ益々危懼ノ感ヲ起サシムルガ

如キハ當温泉場ノ盛衰ヲモ影響スル所ナレバ一日モ早ク水道ヲ敷設シ以テ衛生上遺憾ナキヲ期セントスルニ在リ、以上ノ事實ニシテ水道敷設ノ必要ハ久シキ以前ヨリ唱導セラレ去明治三十三年中該事業ヲ計畫設計スル所アルモ資金供給ノ途ナキヨリ遂ニ止ム、而レドモ戰後ノ發展ニ伴ヒ土地ノ改良振興ヲ謀ルハ蓋急務ニ迫リタル際ナレバ本事業ノ施設亦一日モ忽諸ニ付スベカラザルヲ以テ其資金ハ之ヲ公債ニ待テ完成スルノ外途ナキモノニ有之候

外目論見書等工費收入支出方法及其豫算等、水道工事豫算等、水料徴收方法、經常收支ノ概算等附ス

議第二六號

水道敷設ニ關スル議決

- 第一條 熱海町ハ水道條例ニ依リ水道ヲ敷設ス水道敷設ノ區域ハ熱海町熱海地内トス
 - 第二條 水道敷設ノ事業ハ明治三十九年四十四兩年度ニ於テ實施ス
 - 第三條 水道敷設ニ要スル費用ハ町費ヲ以テ之ヲ支辨ス
 - 第四條 前項ノ町費ハ公債ヲ募集シテ之ニ充ツ
 - 第五條 水料徴收等ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム
- 明治三十九年七月十日議決

熱海町長 前田勝次

公債募集及償還方法等ニ關スル議決

靜岡縣田方郡熱海町公債募集及償還方法ニ關スル議決

- 第一條 明治三十九年度同四十四年度ニ於テ水道事業ニ充ツル爲メ金七萬五千圓ヲ起債スルモノトス
前項ノ公債ハ明治三十九年度ニ於テ金貳萬五千八百五拾圓同四十四年度ニ於テ金四萬九千五百五拾圓ヲ募集スルモノトシ確實ナル銀行ヲシテ之ヲ引受ケシム
- 第二條 本公債ニ對シテ發行スル證書ハ無記名利札附ニシテ五千圓、貳千圓、壹千圓、五百圓、百圓、五拾圓ノ六種トシ其ノ様式ハ別ニ之ヲ定ム
- 第三條 募集全額ハ引受銀行又ハ其代理店ニ於テ前條證書ト引換スルモノトス
- 第四條 本公債利子ノ割合ハ一ケ年百分ノ七以内トシ毎年六月、十二月ニ於テ前六ケ月分ヲ支拂フモノトス、但募集ノ月ニ於テ證書發行ノ月ヨリ償還ノ月ニ於テハ仕拂ノ日迄日割ヲ以テ利子ヲ支拂フモノトス
- 第五條 本公債ノ元金ハ(明治四十年迄ハ之ヲ据置キ)明治四十一年度ヨリ五十五年度ニ至ル十五ケ年度間ニ於テ左ノ通り償還スルモノトス

明治四十一年度	金貳千圓
同 四十二年度	金貳千圓
同 四十三年度	金貳千圓
同 四十四年度	金貳千五百圓

設計篇

同	四十五年度	金貳千五百圓
同	四十六年度	金參千五百圓
同	四十七年度	金參千五百圓
同	四十八年度	金參千五百圓
同	四十九年度	金四千五百圓
同	五十年度	金六千圓
同	五十一年度	金七千五百圓
同	五十二年度	金八千五百圓
同	五十三年度	金八千五百圓
同	五十四年度	金八千五百圓
同	五十五年度	金壹萬圓

募集金額減少スルトキハ前項年割償還ヲ減少ス、町財政ノ都合ニ依リ前項年割以上ノ償還ヲ爲シ若ハ其年限ヲ短縮スルコトアルヘシ

元金償還ハ毎年十二月ニ於テ支拂フモノトス

第六條 本公債ノ元金及利子ハ一般ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨ス

第七條 本公債ノ元金ハ證書又ハ利札引換ニ支拂フモノトス

第八條 本公債證書若ハ利札水火災等ニ因リ消滅シタルトキハ町長ニ届出テ代證書若ハ代利札ノ交付ヲ請求スルコ

トヲ得此場合ニ於テ町長ハ其消滅ノ證據明確ナリト認ムトキハ直チニ代證書若ハ代利札ヲ交付スヘシ

第九條 本公債證書又ハ利札ヲ紛失シタルトキハ其旨町長ニ届出ヘシ其發見ノ時亦同シ

前項紛失ノ届出アリタルトキハ之ヲ公告シ滿一ケ年ヲ經テ代證書又ハ代利札ヲ交付ス

但故障ノ申立アリタルトキハ裁判所ノ確定判決アルニアラサレハ交付セス、代證書又ハ代利札交付ニ關スル一切ノ費用ハ紛失者ノ負擔トス

第十條 本公債證又ハ利札ヲ汚染毀損シタルトキハ代證書又ハ代利札ヲ請求スルコトヲ得、前項ノ場合ニ於テ眞偽判別シ難キモノハ紛失證書ノ例ニ準シ汚染毀損ノ證據明確ナルモノハ代證書又ハ代利札ヲ交付ス、但費用ニ關シテハ第九條ノ例ニ依ル

第十壹條 前參條ノ場合ニ於テ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ了スルマテ元利金ノ支拂ヲ停止ス

第十貳條 代證書又ハ代利札ヲ交付シタルトキハ前ノ證書又ハ利札ハ無効トス

明治三十九年七月十日 議決

熱海町長 前 田 勝 次

公債並ニ利子償還ノ財源調

水道ヲ敷設スル爲メニ公債ヲ起スモノニシテ其元本及利子償還ノ財源ノ多クハ水料ヲ徵收シテ之ニ充テ其不足ハ町税ニ依ルモノトス本事業ニ對スル毎年收入豫算ハ別紙見込書之通リトス

但明治四十年度ニ於テ支拂フヘキ公債利子ノ財源ハ寄附金及戸別割ヲ増徴シ之ニ充ツルモノトス

一、水料収入年次見込書

年 度	收 入 金 額	年 度	收 入 金 額
明治四十一年度	八、六四〇〇〇	明治四十九年度	九、四九三〇〇
同 四十二年	八、六四〇〇〇	同 五十年	一〇、〇六三〇〇
同 四十三年	八、六四〇〇〇	同 五十一年	一〇、〇六三〇〇
同 四十四年	八、六四〇〇〇	同 五十二年	一〇、〇六三〇〇
同 四十五年	八、六三〇〇〇	同 五十三年	一〇、〇六三〇〇
同 四十六年	九、四九三〇〇	同 五十四年	一〇、五七九〇〇
同 四十七年	九、四九三〇〇	同 五十五年	一〇、五七九〇〇
同 四十八年	九、四九三〇〇		

二、水料収入標準

名 稱	給 水 戸 數	水 料	備 考
放任供給	一五〇	三、六〇〇	豊戸人員五人以下五十戸一ヶ月 壹圓五拾錢ツ、同上五人以上百戸平均一戸

共同栓供給
計量供給

三五〇
一、二六〇
三、七八〇
八、六四〇

共用栓ニ依リ供給スル戸數ニシテ一戸ニツ
キ一ヶ月參拾錢ツ、
計量ニ依リテ水料ヲ徴收スルモノ

一、本表ハ水料徴收ノ初年即チ明治四十一年度ノ收入標準ニシテ爾來毎年人口ノ増加ト土地ノ開發トニ伴ヒ每年次ニ若干ノ收入増加スル見込ナリ

三、水料収入増加見込計算

水料収入増加ヲ豫定シタルハ既往ニ於ケル戸數及人口ノ増加ヲ參酌シ向十五ヶ年内ニハ現在數ニ比シ五分乃至壹割ノ増加アルモノト看做シ之レガ收入額ヲ見込ミタルモノナリ而シテ明治五十四年度ニ於ケル收入ノ細目概算左ノ如シ

給 水 戸 數	料	金	備 考
放任供給	一八五	四、四五五	一戸人員五人以下六十戸、一戸ニ付一ヶ月金壹圓五拾錢同五人以上八人百二十五戸、一戸ニ付金貳圓貳拾五錢
共用栓供給	四二〇	一、五一二	四百廿戸、一戸ニ付一ヶ月金參拾錢
計量供給	七、六十八萬六千ガロン	四、六一二	一千ガロンニ付金六拾錢
計		一〇、五七九	

設計篇

第三款 土木費	二五、八五〇〇〇
第一水道敷設費	二五、八五〇〇〇
一、水源池水路及鐵管線路費	一、七三八五〇〇
二、鐵管其他附屬品費	二二、〇〇七五〇〇
三、鐵管試驗家屋建築費	五〇〇〇〇〇
四、材料試驗費	一、一五〇〇〇〇
五、器具器械費	七〇〇〇〇〇
六、工事監督費	七五四〇〇〇

細目ハ別冊設計書附屬工事費調通

明治四十年度田方郡熱海町歳入出豫算中水道敷設ニ關スル豫算

歳入	科目	豫算	高
第一款 町債	第一款 町債	四九、一五〇〇〇	四九、一五〇〇〇
第一款 町債	第一款 町債	四九、一五〇〇〇	四九、一五〇〇〇
第一款 町債	第一款 町債	四九、一五〇〇〇	四九、一五〇〇〇

日本興業銀行ヨリ借入金

歳出(臨時部)

第一款 土木費	四九、一五〇〇〇
第一項 水道敷設費	四九、一五〇〇〇
一、水源池土工費	六、八三九〇〇〇
二、沈澄池築造費	九、九〇五〇〇〇
三、濾過地築造費	二、三九三三四五
四、淨水池築造費	六、六六六二八五
五、鐵管其他敷設費	一、七〇一七五〇
六、家屋建築費	五、一五〇〇〇〇
七、測量製圖費	七三〇〇〇〇
八、工事監督費	六、七六四四七四

細目ハ別冊設計書附屬工事費調ノ通り

債起更正許可

設計篇

町議第五一號

熱海町債募集規定

- 第一 熱海町水道敷設工事費支辨ノ爲メ明治四十二年度ニ於テ金壹萬七千圓ヲ起債スルモノトス
- 第二 本町債ノ債券ハ普通貸借證書式トシ其全額ヲ一時ニ發行スルモノトス
- 第三 本公債ノ利子割合ハ一ケ年百分ノ八トス

第四 本公債ノ元利償還法左ノ如シ

明治四十二年十一月	五六六、六五〇	利子
同 四十三年五月	四、六八三、三三〇	元利
同 四十三年十一月	四、六八三、三三〇	同
同 四十四年五月	四、六八三、三三〇	同
同 四十四年十一月	四、六八三、三三〇	同

明治四十二年七月二日提出

同日議決

熱海町長 梅原音松

熱議第七六二號

起債許可稟請

水道事業費支辨ノ爲メ起債ノ件本町會ニ於テ議決致候ニ付町村制第二百二十六條ニ依リ許可ヲ乞フ

明治三十九年七月十二日

静岡縣田方郡熱海町長 前田勝次

内務大臣 原 敬 殿

大藏大臣 法學博士 阪谷芳郎 殿

設計篇

理由書

本町ニ於テ起債ヲ要スルハ熱海温泉場區域ニ水道ヲ敷設シ飲料水ノ改善ヲ圖ルハ刻下ノ急務ナリト認メ明治四十年
度ニ於テ水道事業ヲ起サントスルモ之ガ布設費ヲ支辨スルノ資力ナキニ依リ不得止公債ヲ發行シテ之ニ充テ十五ヶ年
賦ヲ以テ償還セントス而シテ償還ニ充ツベキ財源ハ各受給水者ヨリ徴收スル水料ヲ以テ之ニ充當セントスルニ在リ

用地篇

用地ノ面積及價格

一、坪 數 一町一反九畝八步
此 價 格 九千參百九拾八圓

承 諾 書

田方郡熱海町熱海字立石五百七十八番ノ一
一、山林七畝十一步

用 地 篇

字同所五百七十八番ノ二

一、畑一畝四歩

字同所五百八十番

一、田一反一畝二十二歩

字同所五百九十六番

一、田一反四畝二十九歩

合計反別 三反五畝六歩

此賣渡代金 壹千〇五拾六圓也

但一坪ニ付金壹圓ノ割合

右ハ拙者所有者ニ有之候處今回貴町水道敷設事業經營ニ付水道用地トシテ入用之趣ニ付テハ前記ノ代價ヲ以テ貴町へ賣渡之義承諾致候也

明治四十年十月二十六日

東京市芝區三田小山町五番地

藤 田 四 郎 團

熱海町長 前 田 勝 次 殿

承 諾 書

田方郡熱海町熱海

字立石五百八十四番ノ一

田一反二畝七歩ノ内

一、潰地反別 九畝二十四歩

字同所五百八十四番ノ二

田十六歩ノ内

一、潰地反別 十六歩

字同所五百八十三番

田一反四畝二十九歩ノ内

一、潰地反別 一反四畝二十九歩

字同所五百八十二番

田三畝九歩ノ内

一、潰地反別 三畝九歩

潰地合計反別 二反八畝十八歩

此代金 九百參拾壹圓也(但シ一坪壹圓ノ割)

但シ尙明治四十年度小作人ニ代リ貴殿ヨリ拙者へ請取ルベキ契約ノ事
右ハ拙者所有地ニ有之候處今回貴町水道敷設事業經營ニ付水道用地トシテ前記之土地御入用之趣ニ付テハ前記代價ヲ
以テ貴町へ賣渡之義承諾致候也

明治四十年十二月

東京市麻布區六本木町

尾崎 洵 盛 園

熱海町長 前 田 勝 次 殿

承 諾 書

田方郡熱海町熱海字立石五百八十七番

田 二反七畝一步

右ハ當寺所有地ニ有之候處今回貴町水道敷設事業經營ニ付水道用地トシテ前記之土地御入用之趣ニ付テハ相當代價ヲ
以テ貴町へ賣渡之義承諾致候也

明治四十年十月

熱海町熱海三十四番地

大乗寺住職 園 岡 良 鷲 園
檀家惣代 露 木 孝 藏 園

熱海町長 前 田 勝 次 殿

承 諾 書

田方郡熱海町熱海字立石五百八十一番

田九畝二步ノ内

一、潰地反別 九畝二步
字同所五百九十七番

田二十八步ノ内

一、潰地反別 二十八步

潰地合計反別 一反步

右ハ拙者所有地ニ有之候處今回貴町水道敷設事業經營ニ付水道用地トシテ前記土地御入用之趣ニ付テハ相當ノ代價ヲ
以テ貴町へ賣渡之義承諾致候也

明治四十年十月

東京市神田區駿河臺北甲賀町十一番地

佐々木 政 吉 園

熱海町長 前 田 勝 次 殿

承 諾 書

田方郡熱海町熱海字立石五百九十五番

田一反四畝十歩ノ内

一、潰地反別 二十六歩

右ハ拙者所有地ニ有之候處今回貴町水道敷設事業經營ニ付水道用地トシテ前記之土地御入用之趣ニ付テハ相當代價ヲ以テ貴町へ賣渡シ義承諾致候也

明治四十年十月

熱海町熱海三百五十番地

二見平右衛門 圓

熱海町長 前 田 勝 次 殿

承 諾 書

田方郡熱海町熱海字立石五百九十八番

田一反一畝十五歩ノ内

一、潰地反別 一畝十二歩

右ハ拙者所有地ニ有之候處今回貴町水道敷設事業經營ニ付水道用地トシテ前記之土地御入用之趣ニ付テハ相當代價ヲ以テ貴町へ賣渡シ義承諾致候也

明治四十年十月

熱海町熱海三百五十二番地

野 田 惣 八 圓

熱海町長 前 田 勝 次 殿

承 諾 書

田方郡熱海町熱海字立石五百九十三番地

一、田 一反三畝二十三歩 (但シ一坪ニ付金壹圓也)

右ハ拙者所有ニ有之候處今回貴町水道敷設事業經營ニ付水道用地トシテ前記之土地御入用之趣ニ付テハ前記代價ヲ以テ貴町へ賣渡シ義承諾致候也

明治四十年十月

熱海町熱海十六番地

山 田 金 五 郎

熱海町長 前 田 勝 次 殿

承 諾 書

田方郡熱海町熱海字立石五百八十五番
田一反七畝二十歩ノ内

一、潰地反別 二畝十三歩

右ハ當神社所有地ニ有之候處今回貴町水道敷設事業經營ニ付水道用地トシテ前記之土地御入用之趣ニ付テハ相當代價ヲ以テ貴町へ賣渡之義承諾致候也

明治四十年十月

熱海町熱海伊豆佐和氣神社氏子總代

二見平右衛門
福田政次郎
鈴木良三
對木敬助

熱海町長 前田勝次殿

熱水第八號

水道用地買上代金支拂方尾崎洵盛及藤田四郎ノ兩名ヨリ請求有之候ニ付テハ客月二十六日委員會決議ノ次第モ有之候間御協議ニ及候條御異議無之候ハ、夫々右ニ關スル手續キ相運ビ可申候此段得貴意候也 追テ兩名共近日歸京ノ由

ニテ本月十日迄ニ諸事完了セザレバ承諾致シ難キ旨申出有之候併セテ申添候

明治四十一年一月六日

熱海町長 前田勝次 ㊟

水道委員

内田次郎左衛門殿
保田久道殿
二見平右衛門殿
石渡喜一殿
山田賢三殿
石渡要吾殿
石渡靜之助殿

工事篇

起

工

かくて土地の收用も完了したので明治四十一年四月五日の吉日をトし熱海町熱海字立石の地に工を起し同四十二年十一月二十一日芽出度竣工、明治四十二年十二月二十一日給水を開始した。本事業工費總額は九七、七〇八圓餘で財源は全部公債を以て支辨した。

關係技術者は

設計顧問 工學博士 中 島 銳 治
 工事主任 技 師 岡 田 卯 之 助
 同 奈 良 茂 樹
 田子村上貫島七十七番地
 齋 藤 和 作
 で中島氏を紹介してくれたのは當時樋口旅館に滞在中の伊藤博文公である。工事請負人はであつた。

猶本工事の現場監督主任は福地一貫氏で、杉崎鐵藏氏や一藤木増次郎氏等も熱心に監督した。當時人夫の給料は月額拾圓技手貳拾圓位であつた。

工事中の珍事としては水を入れないうちに或日大雨があり地中から滲みだした雨水の爲に池の中のアスファルトが膨脹して大騒ぎし原因を知らぬ當時の人はいろ／＼と非難した。

當時セメントの配合一三六の割合さへ知らぬ人が多かつたので工事は意外の方面に苦心を要したといふ。

かくて工事の完成を見待望の給水開始を見たものゝ財政極めて貧弱の爲に通水式も出来ずそのまゝ今日に及んでゐる。かくて給水は開始されたが給水申込者は案外少かつた。爲に引用者はたま／＼栓を開くと生ぬるい水が出るので非難が多かつた。それは地中に埋没されてある温泉管の熱が傳はる爲だとわかり温泉管と水道管とは四尺以上離す事に町會で決議した事もある。

決 議 事 項

常町水道敷設工事ニ關スル調査結了諸般ノ準備相整候ニ付本月二十二日午前十時競争入札ニ付シ候旨各業者ニ通達致度候條御意見承知致度且御異議無之候ハ、決行可仕此段及稟議候也

明治四十一年一月十一日

熱海町長 前 田 勝 次

委 員

- 保 田 久 道 殿
- 内 田 市 郎 左 衛 門 殿
- 二 見 平 右 衛 門 殿
- 石 渡 喜 一 殿
- 石 渡 均 之 助 殿
- 石 渡 要 吾 殿
- 山 田 賢 三 殿

報 告 事 項

本町水道敷設測量ノ爲メ李家知事ノ紹介ニ依リ左ノ通技術員ヲ聘用及囑託シタリ

東京市 技手

現五級俸 岡田卯之助

右本町水道敷設主任技手ニ聘用ス

但月俸金六拾圓外ニ手當一ヶ月金貳拾圓ヲ給與ス

工學博士 中島銳治

工學士 小林柏次郎

右本町水道敷設工事監督ヲ囑託ス

但工事完成迄ノ報酬トシテ金壹千五百圓ヲ支出スルコト

右及報告候也

明治四十年五月二十日

熱海町長 前田勝次

契 約 書

一、田方郡熱海町水道敷設工事

此請負金參萬四千七百圓也

契約保證金參千五百圓

帝國五分利公債千圓券 三枚

整理公債五百圓券 一枚

右請負御下命相成候ニ付テハ別冊水道敷設工費並同工事仕様書及同工事入札請負規則ノ通履行可仕候仍テ保證人連署
ヲ以テ契約書差出候也

明治四十一年四月十七日

靜岡縣富士郡田子浦村五ノ島七十七番地

請負人 齋藤和作

同縣 同郡 同村 前田四十一番地

保證人 龜井利之助

熱海町長 前田勝次殿

工事繼續請負證

一、熱海水道敷設工事

但設計書契約事項請負金額其他ノ權利義務總テ齋藤和作ニ屬スル全部

右現在契約及工程材料ヲ以テ讓受ケニ付テハ讓受人及保證人ニ既往將來共全契約齋藤和作ト均等貴町ニ對スル權利義務ハ毫モ違變侵害不仕齋藤和作契約ノ通り竣工可仕候仍テ工事繼續請負證如件

明治四十二年三月二十七日

静岡縣庵原郡富士川町中之郷四十八番地

工事繼續請負人 齋 藤 豐 吉

同縣 同郡 同町 岩淵四百四十番地

保 證 人 勝 呂 平 右 衛 門

田方郡熱海町長 梅 原 音 松 殿

御 請 書

御 請 負 高

一金五千九百五拾四圓七拾六錢也 一樽ニ付金 六圓拾貳錢也

此契約保證物

無記名整理公債證書額面

内 譯

券號 第九九〇貳〇貳番 五百圓券 一枚 明治四十一年六月以降利札付

同號 第貳九七番 百圓券 一枚 同斷

同號 第壹壹九〇八番 百圓券 一枚 同斷

同號 第壹壹九壹〇番 百圓券 一枚 同斷

右金額ヲ以テ熱海町上水道用セメント九百七十三樽ノ請負被命候ニ就而ハ入札人心得書並示方書承諾之上無相違納入

可仕候此段御請仕候也

明治四十一年一月二十二日

東京市深川區猿江町七十番地

合資會社鈴木セメント製造所

代理社員 鈴木茂助代理

請負人 鈴木 孝 三 園

東京市京橋區三十間堀二百九番地

保證人 速 水 柳 平 園

主要機械並材料の購入

鐵 管 類

御請書

一金壹萬八千貳百七拾圓五拾六錢也
熱海水道鑄鐵管其他諸屬品代別紙內譯書ノ通り請負代
此契約保證金

無記名整理公債額面六百五拾圓也 此券三枚

同 軍事公債額面八百圓也 此券九枚

同 國庫債券參百貳拾五圓也 此券五枚

通貨金五拾參圓也

右之通り御請仕候ニ就テハ熱海水道工事請負規則並水道鑄鐵管其他附屬品購買仕様書熟覽ノ上御指定ノ期日内ニ納入
可仕候依テ保證人連署請書呈出置候也

明治四十一年一月二十二日

埼玉縣北足立郡川口町百五十三番地

永瀬鐵工所主 永 瀬 庄 吉

代 理 永 山 盛 廣 園

埼玉縣北足立郡川口町百五十四番地

保 證 人 永 瀬 瀧 藏 園

熱海町長 前 田 勝 次 殿

靜岡縣 熱海水道鑄鐵管其他諸附屬品購買仕様書

入札人心得

- 第壹條 當熱海町ニ敷設スヘキ上水道ニ使用スル鑄鐵管、阻水弁、消火栓及ヒ其他金屬ノ製作物ヲ入札ニ付シ購買ス
- 第貳條 入札人ハ別紙契約事項、示方書、及ヒ内譯書熟覽ノ上入札ス可シ
- 第參條 入札ハ來ル 月 日午前十一時三十分迄ニ當町水道局ヘ差出ス可シ但シ同日十二時入札人ノ面前ニ於テ開札ス
- 第四條 左記ノ入札ハ無効トス
 - 一 開札場ニ立會ハサルモノ
 - 二 入札書之要領ヲ認知シ難キモノ
- 第五條 落札人ハ別紙書式ニ依リ内譯書ヲ製シ受書ヲ添付ス可シ
- 第六條 落札後三日以内ニ請書ヲ差出サ、ルトキハ違約ノ償トシテ落札金額十分ノ一ニ相當スル金額ヲ水道局ニ納付セシメ其落札ハ取消スモノトス
- 第七條 本書記載事項ノ外ハ水道局工事人札請負規則ニ依ル

契約事項

- 第壹條 請負人ハ別紙仕様書ヲ確守シ内譯書ノ物品ヲ納付シ或ハ納付ノ上据付ヲナス可シ
- 第貳條 請負人ハ身元確實ナル保證人一名連署ヲ以テ請書ヲ差出ス可シ(會社ノ請書ニ對シテハ本條ヲ削リ以下順次繰上ク)
- 第參條 請負人ハ身元保證トシテ請負金額ノ十分ノ一ニ相當スル通貨公債證書ヲ水道局ノ指定スル銀行會社ノ株券又ハ銀行預券ノ内ヲ以テ差出ス可シ
但シ公債證書及ヒ銀行會社ノ株券ノ價格ハ水道局ノ指定ニ依ルヘシ
- 第四條 總テ物品ハ落札通告ノ日ヨリ八ヶ月以内ニ水道局ノ指定スル所ニ悉皆陸揚ス可シ但シ該物品ノ内一部ハ指定ノ日ニ納付ス可シ陸揚ヲ終ヘタルトキハ其旨報告ス可シ
- 第五條 陸揚ノ物品ニシテ第五條ニ依リ授受セサルモノニ對シテハ水道局ハ其保管ノ責ニ任セス
總テ物品ハ寸法、員數、品質及ヒ強度ヲ試驗シ合格シタルモノヲ以テ授受スルモノトス
但シ据付ヲ要スルモノハ全部落成後ヲ以テス
- 第六條 總テ物品ハ前條ノ試驗ニ合格セサルモノアルトキハ期日ヲ定メ引替ヲ命ス可シ此場合ニ於テハ直ニ引取ル

第一號喇叭口管	第二號同	第三號同	第四號同	第一號彎曲管	第二號同	第三號同	第四號同	第五號同	第六號同
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
三	二	二	二	一〇	八	八	九	四	九
內徑十吋	內徑十五分	內徑十五分	內徑十五分	內徑十吋	內徑十五分	內徑十五分	內徑十五分	內徑十吋	內徑八吋
100,000	50,000	50,000	50,000	267,000	267,000	267,000	267,000	166,000	166,000
圖面参照	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

計	同	同	同	同	突縁付直管	計	同	直	名
上	上	上	上	上	上	上	上	管	稱
六	一〇	一五	四	四	三〇	三六	三〇	三六	員
內徑三吋上	內徑四吋上	內徑六吋上	內徑八吋上	內徑八吋上	長九尺	內徑三吋上	內徑四吋上	內徑四吋上	數
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	267,000	133,500	133,500	133,500	寸法
一噸二付	一噸二付	一噸二付	一噸二付	一噸二付	一噸二付	一噸二付	一噸二付	一噸二付	全單量
150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	單價
合 600,000						11,337	11,337	11,337	金額
同上	同上	同上	同上	同上	圖面参照	同上	同上	同上	摘要

名	稱	員	數	寸	法	全	單	單	價	金	額	摘	要
第七號同	上		一五	十一度十五分	上	一六,〇〇〇						圖面参照	
第八號同	上		四	廿二度三十分	上	一六,〇〇〇							
第九號同	上		三	四十五度	上	一五,七〇〇							
第十號同	上		一	九度	上	一七,〇〇〇							
第十一號同	上		六	內徑六吋	上	一三,一〇〇							
第十二號同	上		七	十一度十五分	上	一〇,〇〇〇							
第十三號同	上		六	廿二度三十分	上	一〇,〇〇〇							
第十四號同	上		三	四十五度	上	一〇,〇〇〇							
第十五號同	上		一	內徑六吋	上	一五,〇〇〇							

名	稱	員	數	寸	法	全	單	單	價	金	額	摘	要
第七號同	上		一三	內徑四吋	上	八七,九〇〇						圖面参照	
第六號同	上		一〇	四十五度	上	七,七〇〇							
第七號同	上		四	廿二度三十分	上	三九,八〇〇							
第九號同	上		四	九度	上	七,七〇〇							
第十號同	上		一五	十三吋管	上	五,七〇〇							
第十一號同	上		一〇	廿二度三十分	上	五,七〇〇							
第十二號同	上		三	四十五度	上	一五,七〇〇							
第十三號同	上		三	四十五度	上	一五,七〇〇							
計						一〇,〇〇〇							
一號丁形管			一			三八,七〇〇							
						三八,八〇〇							
						一〇,〇〇〇							
						一噸二付							
						一,〇〇〇,〇〇〇							

工 事 篇	名 稱	具 數	寸 法	全 單 量	單 價	金 額	摘 要
第一號十字管	第一號同	一		三六、二四〇			圖面参照
第二號同	第二號同	一		一六、六〇〇			同上
第三號同	第三號同	一		二七、一〇〇			同上
計	計			〇	一噸ニ付 一四〇,〇〇〇	三六,八〇〇	
イ號漸縮管	イ號同	一		一一、四六七			圖面参照
ロ號同	ロ號同	一		一三、五〇〇			同上
ハ號同	ハ號同	九		六、七〇〇			同上
ニ號同	ニ號同	三		四、六〇〇			同上
ホ號同	ホ號同	一〇		三、六〇〇			同上
ヘ號同	ヘ號同	一		四、一〇〇			同上

工 事 篇	名 稱	具 數	寸 法	全 單 量	單 價	金 額	摘 要
口號同	口號同	一		三九、七〇〇			圖面参照
ハ號同	ハ號同	一		三三、〇〇〇			同上
ニ號同	ニ號同	二		一三、三〇〇			同上
ホ號同	ホ號同	一		一四、八〇〇			同上
ヘ號同	ヘ號同	三		二七、五〇〇			同上
ト號同	ト號同	三		一〇、六〇〇			同上
チ號同	チ號同	二		一六、七〇〇			同上
リ號同	リ號同	六		一四、七〇〇			同上
計	計			一六〇	一噸ニ付 一四〇,〇〇〇	三六,八〇〇	

名 稱	員 數	寸 法	全 單 量	單 價	金 額	摘 要
計			0.610	一噸二付 140,000	六,800	
イ號環管	元		四,500 八三,九〇〇			三吋管用圖面參照
ロ號同上	三		三,500 四〇,七〇〇			四吋管用同上
ハ號同上	六		三,800 一三,六〇〇			六吋管用同上
ニ號同上	三		九,000 一三,一五〇			八吋管用同上
ホ號同上	六		三,900 二九,三〇〇			十吋管用同上
計			二,700	一噸二付 140,000	三六二,000	
一號丁形管	一本		七四,三六〇 七四,三六〇			消火栓附屬管圖面參照
二號同上	一本		二〇,九五〇 二〇,八五〇			同上

名 稱	員 數	寸 法	全 單 量	單 價	金 額	摘 要
計			1.990	一個二付 140,000	二七八,600	
(カッブ)蓋管	一個	八吋管用		一個二付	六,500	圖面參照
同上	一個	六吋管用		一個二付	五,000	同上
同上	三個	四吋管用		一個二付 〇,七〇〇	一,五〇〇	同上
Y形管	一個			一個二付	二四,000	同上
阻水弁	一個	三吋		一個二付 一三,〇〇〇	一七,000	同上
同上	一個	四吋		一個二付 一六,〇〇〇	二〇,000	同上
三號丁形管	五	本管六吋	一四,〇〇〇 七四〇,〇〇〇			消火栓附屬管圖面參照
四號同上	五	本管八吋	二〇,七〇〇 一〇七,七〇〇			同上
五號同上	三	本管十吋	二七,九〇〇 八三,〇〇〇			同上

名 稱	具 數	寸 法	全 單 量 批	單 價	金 額	摘 要
制水用摺動扉	二 組	孔徑十吋		三三,000	六六,000	同 上
鑄 鐵 蓋	一枚	直 徑 三,四		五,000	五,000	濾池ノ淨水井用
同	二	直 徑 二,四		二,000	四,000	圖面参照
同	三	直 徑 二,四		五,000	一五,000	沈澄池掃除柵用
同	四	直 徑 二,四		五,000	二〇,000	濾池掃除柵用
同	二	同 上		五,000	一〇,000	同上阻水弁室用
同	二	同 上		五,000	一〇,000	淨水池掃除柵用
計	一六枚			一六,000	三〇,000	同上人孔室用

消火栓蓋鑄鐵蓋	三	三吋用		一枚ニ付 六三,000	一八,000	圖面参照
同 上	一〇	三吋用		一枚ニ付 三八,000	三八,000	同 上
鑄鐵製阻水弁室	四	三吋用		四,000	一六,000	同 上
同 上	五	四吋用		四,000	二〇,000	同 上
同 上	三	六吋用		七,000	二一,000	同 上
同 上	二	八吋用		一〇,000	二〇,000	同 上
自動停水弁	三 組			五,000	一五,000	鐵管及附屬品共取付迄一式 圖面参照
浮 標	三 組			三,000	九,000	附屬品共取付迄一式 圖面参照
流量計板	三 組			九,000	二七,000	同 上
諸職工賃及 諸職工費				九〇,〇〇〇	一四〇,〇〇〇	立テ管、橋梁其他等運搬並 ニ取付費ヘンキ塗其他等一 切ノ諸雜費

水道鐵管購買仕様書

- 第壹條 鑄鐵管ハ砂竅、氣泡、皸裂其他鑄造上ノ缺點ナク内外兩面共平滑ニシテ凸凹アル可ラス鉛其他ノモノヲ以テ缺點ヲ補填ス可ラス但シ異形管ニアリテ其形狀異ナル毎ニ必ス圖面ヲ交付スルモノトス
- 第貳條 鑄鐵ハ其破砕面灰色ニシテ粒狀緻密全體同質ニシテ爐滓或ハ粗雜ノ金屬ヲ含有ス可ラス且ツ其質強靱ニシテ容易ニ鑿ヲ以テ磨耗シ得ヘキモノタル可シ
- 第參條 鑄鐵管ハ總テ所定ノ徑、長、厚、挿口及ヒ承口ノ形狀ヲ有シ断面ハ真圓ニシテ内外兩面共同真圓タル可シ
- 第四條 總テ直管ハ承口ヲ下方ニ爲シ乾燥セル砂製ノ堅立模形ニテ鑄造シ心留栓ノ類ハ一切之ヲ使用スルコトヲ許サス又挿口ノ端ハ最初ニ充分長ク鑄造シ後ニ旋盤ヲ以テ切斷スルモノトス
但シ心留栓ハ全ク鍊鐵ナレハ有害ト云フ程ニ非ス加之直管ノ厚薄上ニモ自ラ偏肉ニナラサルヲ以テ心留栓ヲ使用スル方良方ナリトス然レトモ他ノ有害物ヲ以テ爲ストキハ却テ不結果ヲ來ス虞レアリ且ツ學理上有害ト認ムルニ付之ヲ禁止スルモノナリ
- 第五條 鑄鐵管ノ各部ニ不等收縮或ハ不正ヲ生セサラシメンカ爲メニ鑄造後充分ノ時間其ノ位置ニ靜止セシム可シ
- 第六條 各鑄鐵管ニハ指定ノ場所ニ於テ製造所ノ名稱、年號、番號、注文者ノ徽章等ヲ亞刺比亞數字ヲ以テ少クモ三耗米突(即チ高サ一分位ニ)ノ高サニ鑄出ス可シ
- 第七條 鑄鐵栓ハ其全體ヲ研磨シテ表面ニ附着シタル土砂、塵芥等ヲ除去シ第十一條ノ検査ヲ經タル後攝氏百五十度ノ熱度ニ溫メ同熱ノ防銹液中ニ浸シ適度ノ時間ヲ經テ之ヲ取出シ乾燥セシム可シ
但シ被包面ハ黑色ニシテ稍々光澤アリ堅固ニ附着セシメ容易ニ剝脫シ能ハサルモノタル可シ

- 第八條 鑄鐵管ヲ研磨スルニハ酸類及ヒ其他ノ催腐劑ヲ使用スルコトヲ許サス又研磨後直ニ塗料中ニ浸スコト能ハサルモノハ塗料中ニ浸ス迄ノ間其面ニ亞麻仁油ヲ塗リテ之ヲ保存ス可シ
- 第九條 鑄鐵管製造中ハ終始製造法ノ適否ヲ鑑査シ鐵質ノ良否強弱其他各種ノ試験ノ監督スルコトアル可シ
- 第十條 鑄鐵管ノ鐵質ハ鐵管鑄造ノ際隨時鑄鐘每ニ一日ニ六個以上ノ試験片ヲ鑄造シ左ノ試験ヲナシ合格スヘキモノトス

- (一) 抗張強試驗
一平方「ミリメートル」ニ付十五「キログラム」以上ノ強度ヲ要ス
- (二) 抗橫斷強試驗
長サ一「メートル」厚サ二十六「ミリメートル」幅五十二「ミリメートル」ノ試験片ヲ九十五「ミリメートル」ノ距離ニ於テ二個ノ圭子ニテ支柱シ中央ニ載荷シテ其重量千四百「キログラム」以上ニ耐ヘ且ツ中央ニ於テ九「ミリメートル」以上ノ撓度ヲ示スヘキモノトス
- (三) 分析試驗

- 第拾壹條 鑄鐵管ハ内外ノ兩面ヲ検査シ輕重、大小、厚薄ヲ計量シ且ツ鑿ヲ以テ打チ鑄造上缺點ノ有無ヲ検査ス可シ
- 第拾貳條 總テ鑄鐵管ハ十五氣壓ノ水壓試驗ヲナシ試験中ハ絶エス重量大約百位ノ鐵錘ヲ以テ管ノ全部ヲ打撃ス

第拾參條

左ノ諸項ニ該當スルモノハ之ヲ擯却ス

- (一) 管ノ重量規定ヨリ百分ノ三以上輕過ノモノ
- (二) 管ノ厚サ同一ナラス共薄部規定ヨリ二「ミリメートル」以上薄キモノ
- (三) 管ノ内徑規定ヨリ二耗米突以上過少ナルモノ
- (四) 管ノ承口ノ内徑規定ヨリ二耗米突以上過少ナルモノ若クハ四耗米突以上過大ナルモノ
- (五) 管ノ挿口ノ外徑規定ヨリ二「ミリメートル」以上過大ナルモノ
- (六) 塗料ノ剝脫シタルモノ及ヒ銹蝕ヲ生シタルモノ
- (七) 其他本仕様書ニ明文アル規定ニ違背スルモノ

第拾四條

試験ヲナスニ足ラスト認メタル鑄鐵管ハ直ニ之ヲ擯却ス

第拾五條

前數條ニ規定セル試験及ヒ検査ハ總テ當所ノ主任技師カ適當ト認ムル方法ニ依リ之ヲ施行ス可シ但シ試験ノ場所ハ當水道局ノ指定ニ從フ可シ

第拾六條

擯却セラレタル鑄鐵管ハ請負人ノ自費ヲ以テ直ニ取除ク可シ

第拾七條

試験中可成請負人又ハ其代理人ヲシテ終始立會フ可シ若シ請負人自己ノ都合ニ依リ立會ヒセスシテ後日擯却セラレタル鐵管ニ對シ如何ナル理由アリテ再試験ヲ請求スルモ一切應セサル可シ

第拾八條

假令前各項ノ試験ニ合格シタルモノト雖モ後日不正ノ點ヲ發見シタルトキハ引替ヲ命ス可シ此場合ニ於テハ請負人ハ決シテ之ヲ拒ムヲ得ス

第拾九條

鑄鐵管鑄造後ハ其横形ヲ取逃スニ中側ヨリ必ス先キニ取逃ス可シ管ノ内部稍々冷メタルヲ待ツテ外側ヲ取逃ス可シ

第貳拾條

異形管ヲ鑄造スルニハ横形ヲ稍々斜メニナシテ湯鐵ヲ注入シ空氣ノ停滯セサル様充分ノ空氣抜キノ設備ヲナシ置ク可シ

第廿壹條

異形管ヲ鑄造スルニハ心留栓ハ注意シテ取付ケル可シ若シ取付方不注意ナル場合ハ管ハ凹凸又ハ偏肉トナルモノナリ而シテ其心留栓ノ周圍ニハ必ス「ヘット」又ハ同種ナル油ヲ丁寧ニ塗ル可シ之ハ鑄造物ト心留栓トヲ密着セシムルヲ以テナリ

- (一) 請負者ニ於テ萬一故意又ハ誤リテ番號ヲ附セサル場合ハ必ス彫刻ヲ命ス可シ
- (二) 鑄出番號並ニ彫刻番號ヲ附スル位置ハ鑄鐵管承口ノ外部ニス可シ
- (三) 彫刻ス可キ方法ハ丸彫トス半圓形ニ彫刻スルヲ云フ
- (四) 彫刻シタル鐵管ハ直ニ其文字ヲ防銹液ヲ塗ル可シ
- (五) 彫刻用鑽ハ丸鑽ヲ用ユ可シ

第廿貳條

總テ鐵管ハ別紙圖面ノ通り違ハサル様鑄造納付ス可シ

第廿參條 突縁付キ鑄鐵管ハ其一端或ハ兩端面ニ旋盤ニテ旋削シ繫釘孔ハ模板ニ合セ鑽穿ス可シ
但シ所定ノボールトハ附屬セシムルモノトス

第廿四條 前各項ノ示方書ハ異形管ニモ適用スルモノトス

水道用止水弁購買仕様書

第壹條 所用材料ハ左ノ試験ニ合格スヘキモノトス

- (一) 所用鑄鐵ノ抗張強試験
長サ二十二吋小口二吋ニ一吋ノ試験材ヲ三十六吋ノ距離ニ於ケル二個ノ圭子ニテ支柱シ中央ニ載荷シ
テ其重量英一噸半ニ耐ヘキモノトス
- (二) 繫桿用鍛鐵ノ抗張強試験
一平方吋ニ付二十三噸
伸張ノ割合ハ二割トス(長十吋ニテ)
- (三) 弁軸用合金抗張強試験
一平方吋ニ付二十七噸
- (四) 摺動部及ヒ螺旋止用合金屬ノ調合
銅 十六 錫 一、四分ノ三 亞鉛 四分ノ三

第貳條 總テ所用ノ鑄鐵ハ其破碎面灰色ニシテ粒狀緻密全體固質ニシテ鑄滓或ハ粗雜ノ金屬ヲ含有ス可ラス且ツ其
質強靱ニシテ鑄ヲ以テ容易ニ磨耗シ得ヘキモノタル可シ所有ノ鍛鐵、鋼鐵、及合金モ又全體同質ナル最上
品タル可シ

- 第參條 總テ止水弁ハ別紙圖面ノ如キ形狀寸法ヲ有シ其製作最上等ニシテ兩面高壓ニ適シ之ヲ開全シタルトキハ指
定セル全徑大ノ通路路ヲ有ス可キモノトス
- 第四條 止水弁鑄鐵部ハ氣泡、砂竅其他ノ缺點アル可ラス又栓或ハ其他ノ方法ニ依リテ缺點ヲ補填ス可ラス
- 第五條 止水弁ノ摺動部ハ其密接面ニ別紙圖面ノ如キ裝置ニ依リ規定ノ砲銅ヲ用ユ可シ
- 第六條 總テ止水弁ハ其包匣内ニ於テ圖面ノ如ク導溝ヲ有シ弁ノ昇降ヲ軸線中ニ在ラシムルコトヲ要ス
- 第七條 止水弁ハ何レモ旋盤ニテ適當ニ製作シタル二個ノ突縁ヲ有シ規定ノ個所ニ繫釘孔ノ型板ヲ用ヒ鑽穿ス可シ
止水弁ノ突縁接合ニ使用ス可キ上等護環ニ揃宛及ヒ接合用「ボールト」ヲモ附屬セシム可シ
- 第八條 填料筐ハ最良ノ填料ヲ以テ之ヲ充シ其蓋内面ニ合金環ヲ裝置シタル鑄鐵製トナスコトヲ得
- 第九條 總テ止水弁軸ハ鍛タル青銅製ニシテ充分ノ大サヲ有シ「ホウキツトウラス」氏定則ノ右開角形螺旋ヲ裁刻
シ弁ノ昇降間眞直線ニシテ且ツ最圓滑ナル運動ヲナス可キモノタル可シ又軸頭ニハ軸帽ヲ裝置ス可シ
- 第十條 總テ繫釘ハ「ホウキツトウラス」氏ノ定則ノ螺旋止、釘頭及ヒ螺絲ヲ有ス可シ
- 第十壹條 止水弁ハ其包畫上面ニ番號、年號、製造所ノ名稱及ヒ其他必要ナル文字ヲ少クモ一分ノ高サニ鑄出ス可シ
- 第十貳條 總テ鑄鐵部ハ當水道局主任技師ノ認許スル高熱度ノ防銹液ニ浸シ充分ニ鐵部ヲ被包セシム可シ
但シ被包面ハ黑色ニシテ光澤アリ鐵膚ニ附着シテ容易ニ剝脫シ能ハサルモノタル可シ

第拾參條 同種類ノ止水弁ノ各部ハ五ニ之ヲ交換使用スルヲ得ヘキモノタル可シ

第拾四條 止水弁ハ弁ヲ閉チ其兩面各別ニ十五氣壓ノ水壓試驗ヲナシ又弁ヲ全開シ同氣壓ノ試驗ヲナス可シ

右ノ試驗ニ於テ弁ノ接合部ヨリ漏水スルトキハ必要ナル更正ヲナサシム可シト雖モ鑄鐵部ニ漏水アルトキハ其鑄鐵部ハ之ヲ摺却ス可シ

第拾五條 前項ニ規定セル強度ヲ有セサルモノヲ以テ製造シタルモノ其他本示方書ニ明文アル規定ニ背戻スルモノハ之ヲ摺却ス

第拾六條 本示方書ニ規定セル試驗ハ當水道局ノ指定ニ從フ可シ

水道用豎直取水鐵管及ヒ其他諸金屬ノ製作物並鑄鐵製蓋等購買仕様書

一、購買スヘキ物品ハ鑄鐵、鋼鐵、鍛鐵、銅及ヒ合金屬ノ製作物トス其形狀寸法、目數等ハ別紙圖面及ヒ内譯書ニ據ル可シ

一、請負人ハ別紙圖面ニ違ハサル様入念製作ヲナシタル後指定ノ場所ヘ運搬シ其内鑄鐵蓋ヲ除クノ外ハ現場ニテ据付クルモノトス

一、總テ材料ハ左ノ強度ヲ有シ試驗ニ合格シタルモノトス

一鑄鐵ノ抗張強試驗

長サ二十二吋小口二吋ニ一吋ノ試驗材ヲ三十六吋ノ距離ニ於ケル二個ノ圭子ニテ支柱シ中央ニ載荷シテ其重量

英一噸半ニ耐ヘ可キモノトス

一鍛鐵ノ抗張強試驗

一平方吋ニ付二十三噸

一自働停水弁及ヒ流量計板用合金屬ノ抗張強試驗

一平方吋ニ付二十七噸

一銅ノ抗張強試驗

一平方吋ニ付十五噸以上

一摺動部及ヒ螺旋止用合金屬ノ調合

銅 十六 錫 一、四分ノ三

亞鉛 四分ノ三

一鋼鐵抗張強試驗

左ノ抗張強及ヒ粘カヲ有スルヲ要ス

每平方吋ノ抗張強二十二英噸以上二十六英噸以下但シリベット材トス

リベット材ヲ除キ他ノ材料ハ左ノ抗張強及ヒ粘カヲ有スルヲ要ス

每平方吋ニ付二十六英噸以上三十英噸以下

伸張割合

二割五分以上

(長八吋ニテ)

破斷ノトキ面積縮少割合 三割六分以上

(同上)

一、鋼鐵材ハ凡テ無疵ニ眞直ニ斷面均一ニシテ不充分ノ鍛鍊其他ノ缺點ナク表面麗潔且ツ平滑ニシテ截斷面ハ眞直

角ナラサル可ラス

一、鋼鐵ハ各種形状ニ製造シタル後直ニ焼鈍ラヌヲ要ス

一、鋼鐵ハ縱横共試験材ノ直径ニ等シキ内半径ヲ以テ之ヲ彎曲シ工作熱ニ於テ百八十度氣温ニ於テ九十度ニ達スルモ其凸邊ニ於テ毫モ破斷ノ徵ヲ顯ハス可ラス

一、鋼鐵二個ヲ鍛合シタルトキハ其鍛接ノ部ニ於テ工作熱ニテ九十度彎曲スルモ其凸邊ニ於テ毫モ破斷ノ徵ヲ顯ハス可ラス

一、リベット材ハ氣温ニ於テ彎曲シ兩邊密接スルニ至ルモ其凸邊ニ毫モ破斷ノ徵ヲ顯ハス可ラス

一、同圓桿ヨリ製スル普通綴釘帽ハ之ヲ打縮シテ厚サ八分ノ一吋ニ至ルモ其周邊ニ於テ皸裂ヲ生ス可ラス

但シ枕張強、伸長及ヒ縮少ノ試験ハ時宜ニ依リ施行セサルコトアル可シ

一、總テ所用ノ鑄鐵ハ其破碎面灰色ニシテ粒狀緻密全體同質ニシテ爐滓或ハ粗雜ノ金屬ヲ含有ス可ラス且ツ其質強靱ニシテ鑄ヲ以テ容易ニ磨耗シ得ヘキモノタル可シ所用ノ鍛鐵、鋼及ヒ合金モ又全體同質ナル最上品タル可シ

一、鑄造物ハ各部ニ不等ノ收縮ナク且ツ砂竅氣泡皸裂其他鑄造上ノ缺點ナキモノトス

一、鑄造物ハ當初圖面ニ依リ先キニ精密ナル雛形ヲ作り検査ヲ受ケ後其雛形ニ變ラサル様鑄造ス可シ

一、鑄造物ノ内鐵質不良或ハ鑄造不完全ノモノハ引替ヲ命ス可シ

一、鑄造物ハ鑄造後丁寧ニ磨キ上ケ掛員ノ検査ヲ受ケ合格シタルモノハ悉ク容易ニ剝脫セサル適當ノ防銹液ニ浸シタル後納付ス可シ

一、鑄造物ハ接合スヘキ部分ハ勿論相接スル部分ニテモ必要ナル所ハ掛員ノ指揮ニ從ヒ適當ノ方法ニテ上等ニ削リ合

セ全面ヲ密接セシム可シ

一、總テ別紙圖面ニ示シタル通り摺動部ハ合金ヲ用ユ可シ

一、鑄鐵管ハ前各項ノ外鑄鐵管仕様書ヲ適用スルモノトス

一、總テボールトハ何種ニ不係一般規定ノ寸法ヲ守リ製作シ頭部又ハ女檢共木材ニ接スル處ハ凡テ厚二分方二寸ノ坐鐵ヲ附屬セシム可シ

一、總テ製作ハ丁寧ニナシ各部ノ形状、寸法等ハ精密ナルヲ要ス

一、材片ハ凡テ製作後規定ノ形状寸法ヲ有シ眞直ニシテ毫モ屈曲又ハ轉扭等アル可ラス

一、綴合ス可キ鐵材ノ面ハ平滑ニシテ綴綴後其接際ニ於テ毫モ間隙アル可ラス

一、綴綴孔ハ鑽孔器ヲ以テ之ヲ穿テ其兩端ノ周邊ヲ少シ削リ取り角度ノ尖銳ヲ避ク可シ

一、綴綴ハ指定ノ方法ニ依ル可シ

一、綴合ス可キ材片ノ綴綴孔ハ精密ニ之ヲ調製ス可シ

一、綴綴帽ハ半球形ニシテ其中心點ハ綴ノ中心線中ニ在リ同形ナル綴ノ帽ハ同大ナルヲ要ス

一、綴綴孔ノ大サハ冷綴ノ直径ヨリ大ナルコト十六分ノ一吋以上ナル可ラス

一、綴綴ハ孔ヲ充分填充シ材片ト密接スルヲ要ス

一、桿ノ螺旋部ハ *Die* ヲ要スル所ハ打縮シテ之ヲ製作シ決シテ接合スルコトヲ許サス

一、螺旋ハ桿ノ大小ニ應シ定則ニ從ヒ鑄刻ス可シ

一、「ナット」ノ反回ヲ防クヲ要スル個所ハ掛員ノ指揮ニ從ヒ「ナット」ヲ緊接シタル後螺旋ヲ壓潰シ原形ヨリ大ナ

ラシム可シ

一、桿ノ長キモノハ取付後中央部ノ屈撓ヲ防ク爲メ假令内譯書ニ無之共掛員ノ指揮ニ從ヒ桿ノ中央部ニ相當ノ設備ヲナス可シ

一、本仕様書ニ漏シタルモノト雖モ當然必要ナルモノニテ些少ナルモノハ掛員ノ指定ニ從ヒ納入ノ上取付ル可シ

一、以上鐵材ノ寸法、員數等ノ検査及ヒ品質強度、粘力等ノ試験ハ主務吏員ノ適當ト認ムル方法ヲ用ユ

一、總テ鐵材取付ヲ終リタルトキハ主務吏員ノ指定ニ從ヒペンキ或ハコーラタ三回以上塗髹ス可シ

但シペンキハ使用前各原料ノ見本ヲ呈出シ主務吏員ノ認可ヲ受ケ後指定ノ割合ニ調合使用ス可シ

静岡縣田方郡
熱海町

水道敷設工費並同工事仕様書

契約條項

第壹條 請負人ハ本契約事項及ヒ工事入札請負規則別紙設計書及ヒ示方書等ヲ遵守ス可シ

第貳條 工事ハ下命ノ日ヨリ一ケ年間ニ成工ス可シ

但シ祝祭日ハ休業セシム

第參條 請負人ハ日常工場ニ出頭シ請負工事ヲ擔當處辨ス可シ本人事故アルハ主務吏員ノ承認ヲ受ケ相當ノ代理人ヲ差出ス事ヲ得但シ監督吏員ニ於テ代理人ヲ不適當ト認メタル時ハ何時ニテモ變更ヲナサシム可シ

第四條 工事施行ノ順序方法ハ主務吏員ノ指揮ニ從フ可シ工事仕様方法等ニ關シ請負人ニ於テ解釋ヲ異ニスルコトアルモ主務吏員ノ解釋ニ背戻ス可カラス

第五條 主務吏員ニ於テ工事ノ出來形設計及ヒ仕様ニ違フト認メタルハ改築又ハ手直シヲナサシム可シ此場合ニ於テ之ニ依リテ生スル損害ヲ補償セサルハ勿論第二條ノ期限ヲ猶豫セサル可シ

第六條 請負人ヨリ差シ出シタル工費内譯ニ記載スル總テノ單價及職人夫等ノ歩掛リニ不相當ト認メタルモノハ請負金額ヲ目途トシ訂正ヲ命スルコトアル可シ

第七條 工費用諸材料ハ検査済ノモノト雖モ總テ請負人ニ於テ保管ノ責ニ任スルモノトス但シ當水道局ヨリ交附スル材料ニ於テモ亦同シ

第八條 諸職工人夫等ノ所爲ニ對シテハ總テ請負人其責ニ任スルモノトス

第九條 當水道局ノ都合ニ依リ工事ノ變更増減又ハ中止ヲ命スルコトアル可シ此場合ニ於テ請負人ハ之ヲ拒ムヲ得サルハ勿論之カ爲メニ生スル損害ハ補償セサルモノトス

第十條 工事着手前所用ノ物品ヲ備フ可シ

第十壹條 職工人夫ノ過誤不注意ヨリ生スル損害ハ總テ請負人ニ於テ辨償ス可シ

第十貳條 職工ハ各其擔當ノ工事ニ熟練ナルモノヲ使用ス可シ若シ掛員ニ於テ不適當ト認メ差換ヲ命スルハ請負人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十參條 主任技師ハ常ニ築造セル各部ノ構造ヲ検査シ若シ不十分ナリト認ムルハ直チニ之ヲ改築セシム可シ但シ代人ヲシテ臨檢セシムルモ本文ニ準スルモノトス

第拾四條 工事中ニ於テ大風雨其他ノ天災ノ節ハ請負人ニ於テ相當ノ防禦ヲナス可シ

第拾五條 仕様書中不明ノモノ又ハ監督ノ示定スルルノ検査ヲ受ケスシテ施行シタル工事ハ取り除キ又ハ改築ヲ命ジ是等損害ハ請負人ノ負擔ニシテ拒ミ辭柄生シ易キモノナルカ故ニ主擔掛員ニ承合シ細大悉ク指揮ヲ乞フ可シ

第拾六條 工事ノ長短、厚低、廣潤容積等ハ請負人當初實地調査ヲ遂ケ請負ヒタルモノニ付キ後來是等ノ誤謬ニ依リ増費ヲ要スルコアルモ總テ請負人ノ負擔タル可シ

第拾七條 前條及ヒ工事出來形精算ノ結果諸材料員數及ヒ諸職工人夫等ノ歩掛リニ減シテ生シタルルハ請書添付ノ工費内譯書ノ單價ニ依リ工費ヲ計算スルモノトス但シ工費内譯書ニ依リ難キモノアルルハ又ハ内譯書單價不相當ト認ムルルハ當水道局ニ於テ相當ト認定スル單價ヲ以テ計算ス前項ニ依リ計算シタル金額ニ對シテハ請負人ハ異議ヲ申立ツルコヲ得ス

第拾八條 設計書、圖面、及ヒ仕様書ニ記載セサル事項ト雖モ工地上當然必要ナルモノハ掛員ノ指揮ニ從ヒ請負人ノ費用ヲ以テ施行ス可シ

第拾九條 請負人ニ於テ本契事項ニ違反シ又ハ工地上不正ノ行爲アルカ若クハ請負日數ノ日割ニ對シ相當ノ出來形ヲ奏セサルモノト認ムルルハ當水道局ハ契約ヲ解除シ身元保證物ハ當局ノ所得トス

熱海町上水道水源地築造工費

一金

導 水 路	長延四十四間九分	深二尺幅平均一尺九寸 一ヶ所
引 入 レ 口 水 門	長延七間	内徑八寸土管敷設
餘 水 吐 キ 井	長延百八十間	深幅共平均一尺
掃 除 管	長延二百間	幅平均一間
養 水 路 付 替	此平坪五十六坪	
道 路 付 替	此平坪二十一坪	
沈 澄 池 土 堤 腰 石 垣	此立坪一千百〇八坪	水源地及ヒ淨水場、土工全部
濾 過 池 土 堤 腰 石 垣	此立坪一千五百九十一坪	同上
掘 鑿 土 工	此合平坪百八十七坪	
盛 土 工	長延七十間	
土 留 石 垣 井 二 護 岸	此平坪三百七十五坪	同上
石 垣	長延七十間	
生 垣	同上	
張 芝	長四間	一ヶ所
鐵 管 架 渡 梁	長四間	一ヶ所
木 橋	長四間	一ヶ所

工 費 内 譯